



水産大学校
 ⑦59-65
 下関市永田本町
 2丁目7-1
 発行 学園だより
 学 園 集 委 員 会
 編 集 電 話 0832(86)5111

水産大学校の現況

水産大学校長 松 生 治



本校恒例の行事である学生による祭典「海燕祭」が十月十九・二十日に開催された。若人達の熱気溢れるさまざまな行事の企画と実行は、各般にわたる認識の深化に大いに役立ったと思う。同日はキャンパスを開放し、市民に本校の諸施設を見学してもらおうよう努めた。練習船天鷹丸(国際総トン数一、〇二〇トン)は吉見に冲着けし、船内の見学や遠洋航海で採捕したマグロの試食会等を行った。市民からの反響は大きく大変に喜んでゐる。

十月二十五日に練習船耕洋丸(国際総トン数二、三四二トン)は、第

九四次遠洋航海に出航した。漁業学科二四名、機関学科二二名が乗船し、所定の実習・調査等を体験する。特に、フィジーにおける南太平洋大学との共同研究は、その成果が期待される。本稿が発刊される頃には、学生諸君は一味違つて帰国している筈である。航海の安全を日々祈っている現在である。

十月二十一日よりJICAの研修「魚類防疫環境管理コース」(コースリーダー芝 恒男・製造学科助教)がアルゼンチン、中国、インドネシア、メキシコ、フィリピン、タイからの研修生を集めて開始された。本研修は、「魚類生理防疫コース」(コースリーダー高橋幸則・増殖学科教授)及び「海洋漁業生産管理技術コース」(コースリーダー町井紀之・漁業学科教授)に続き本年度三つ目である。

学(釜山水産大学・改名)と本校の第二回学術交流懇談会が辛学長も御出席のもと盛大に行われた。今後両校の交流はますます盛んになることである。

十二月二日・三日には中国青島から青島海洋大学・東方紅二号(三、五〇〇トン)が下関に入港した。三日には大型バス三台を連ねて本校の見学に訪れ、教官・学生各位の熱心な意見交換が行われた。

さて、話を学内の教育研究体制に戻す。本年度は次の二つの項目で大きく変化した。第一は教育体制の改組であり、いよいよ来年度から新学科―海洋生産管理学科四五名、海洋機械工学科四五名、食品化学科四五名、生物生産学科三〇名―の学生募集が始まる。すでに各学科とも推薦入学試験が終了し、四一名の入学者を決定した。水産情報経営学科は二年遅れで二〇名の学生募集を始める。目下、全ての手続は最終段階に入り、文部省学位授与機構による教官の業績、カリキュラム、学内施設等の審査が進められている。これもまもなく終了の予定である。

第二は研究棟(約三、三〇〇m²)の建設であり、現在青写真を作成中である。来年度よりキャンパスのメイン通りに建造される。国内外の研究者や研修生が集まり、本校のシンボルとなるであろう。この雰囲気若き学生諸君の意識形成の高揚に大いに資すると思う。

以上簡単に本校の現況を述べた。昨今、内外ともに厳しい状況が展開され、様々な変化への対応が気ぜわしく迫っている。当然のことながら、大学もその存在の意味を問われ続け、大学の運営もそれなりに影響を受けるであろう。

しかし、水産が畢竟、地球的・全人類の視野のもとにその展望と洞察を深め前進させねばならないという理念に立つ限り、水産は増幅こそすれ縮小されることはあり得ない筈である。

我々は腰を据えて本校の発展とそれへの真摯な取組みを続けねばならない。



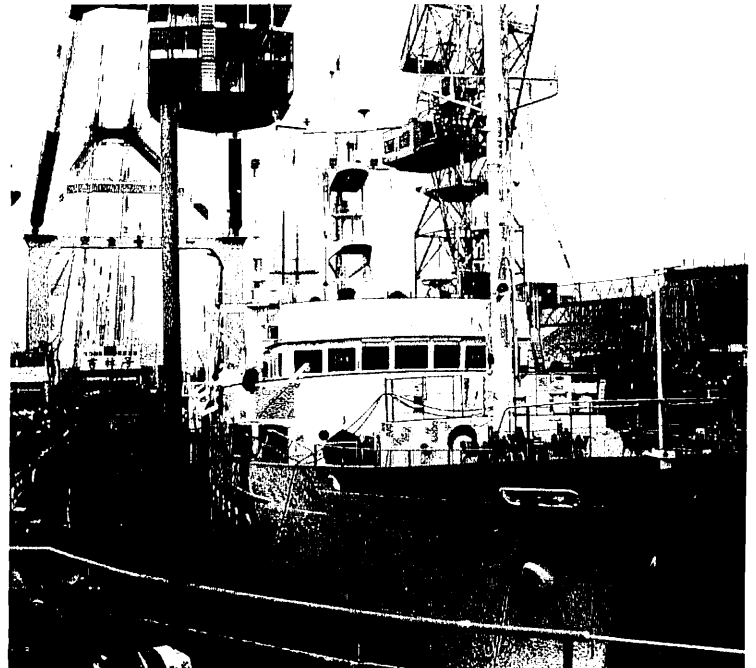
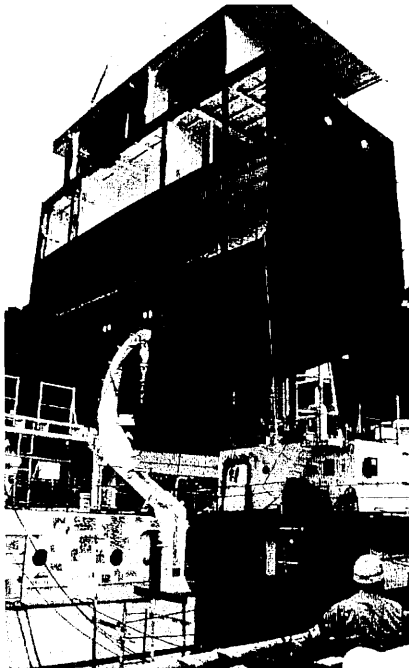
天鷹丸船体延長工事

天鷹丸船長 武 田 靖 昭

現在の天鷹丸は三代目にあたり一九八五年五月に竣工し十一年目を経過した一九九五年十月、本校関係の補正予算に艇庫及び同流水槽と共に船体延長工事が計上された。

近年水産大学校への入学に占める女子学生の割合が増加し、一九九六年には一七七名中三四名(一八%)となり今後学内の組織改編に伴い益々増える事が予測されている。このように女子学生が増えることは、船にとって設備の点で軽視出来ない状況となり、具体的な検討を行い水産庁へ予算要求をして来た所であるが、九五年度補正予算五億円(関連経費を含む)が計上されたことにより実現し、本船を建造した造船所でもある三菱重工下関造船所が落札し、九六年一月十一日から工事を開始し三月二十五日五・五mの船体延長工事を完了し、長さが五七mから六二m、総トン数が六〇三屯から七一六屯へと大型化された。

延長工事の主体の第一は女子用設備の充実であり女子専用の浴室、洗面室及び便所の新設並びに従来学生居室は八人用が六室であったのを、そのうち二室だけ四人用に改造、さらに同じ部屋を二室増室し、いずれも内部の色彩りを今までのモノトリー



的な色調から女子用に合わせるために考慮した色合いと模様にした。第二は実習設備の充実として、船橋の海図室と操舵室が独立した区画であったのをオープン区画に改造し一〇人の学生が同時に海図テーブル上で天測計算等の実習が出来るようにしたのに加え、機関室に機関実習工作室、学生居室区画に自習室と喫煙スペース並びに学生教室の拡張(パントリーを独

立)をおこなった。

第三は乗組員居室等の充実を行い、各部次長居室を個室とするため三室を増設し乗組員の居室状況の改善を計ると共に、士官食堂を拡張して、乗船教官や調査員が同時の着席を可能にすると共に、教官室を一室(一名)増設した結果、最大搭載人員が八三名となり一名の増員となった。そして第四は調査観測業務の充実のため、甲板に三基の自在クレーンを新設、船尾甲板には十分な作業スペースを確保するため作業艇をゴムボートに変えて船橋甲板に移設し、更に研究室を拡張し計測機器の設置場所の拡充を計った。

このように各種設備の充実拡張は、実習環境の整備に伴う実習効果の向上、又二百海里体制下の如何なる資源調査と海洋観測及び研究実習船をとりまく多様性への対応が可能になった。

尚、船体の運動性能に関しては延長前の九五年十二月と延長後の九六年十二月に研究航海を実施し船体の運動性能試験及び機関の負荷試験を行い目下データの取り纏め中であります。

ついでながら天鷹丸は二代にわたって船体延長を行った因縁もあり、航海寄港の際、所在の各支部には寄港案内を送付しますので、その節は是非訪船の上、一見下さい。

研究生の卒業と 修士学位の認定について

研究科長 杉原滋彦

関係者のご尽力により、平成六年度より二年制の水産学研究科が発足し、一期生として一名を受け入れました。二年近く経過した昨年一月には八名が、研究成果をまとめて、研究論文を提出しました。早速、研究科委員会では審査を進め、その結果八名全員を合格と認定し、三月の卒業式に修了証書を授与しました。

研究科は文部省系大学の大学院修士課程に相当するものですが、本研究科の修了者が修士の学位を得るには、さらに研究論文を学位授与機構に提出し、論文審査と試験に合格することが必要です。我々関係者は、論文の内容に自信を持ってはいいたものの、果して期待通りに審査員が評価してくれるのかと、一抹の不安があったのも事実です。

四月に八名の論文を一括して学位授与機構に提出したのを受け、六月には各申請者毎の発表と試験が実施されました。その結果、全員の合格が認められ、去る九月十一日学位授与機構において授与式が行われました。当大学校からは、増殖学科の林教授、石丸教務課長、小生の三名が出席しました。授与式では機構長始め約一〇名の方々の列席の中、全員

の修士学位記を授与し、その後機構長より論文の概評がなされました。提出論文には、しばしば不注意な誤りが見られたものの、論文の質が全般的に高かったことを知らされ、一安心しました。その後、雑談形式の話し合いとなりましたが、機構側の好意的な雰囲気は、肌で感じるほど大きいものでした。その中で、将来の計画について問われましたので、教官陣の充実を行い、博士課程に相当する課程を設置したい旨述べましたところ、暖かい励ましの言葉を頂きました。

引き続き場所を変え、当研究科の論文審査を担当した斉藤教授から、個人別の講評を聞きました。ここでも論文内容に賞賛の声を度々聞けるほど、評価の高いものでした。そのため、初めに抱いていた心配は、全くの杞憂であったと確信し、終始落ち着いて拝聴することができました。この様な期待以上ともいえる講評を受けたことは式に出席した者にとっ

てはこの上もない喜びでした。これは勿論、各研究生の努力の結果であり、入学以来適切に研究の指導に当たった教官陣を始め、関係各位の熱意と協力の賜と申します。今後は、少なくとも今回の論文の学術的水準を維持していくことが要求されます。関係者一同は責任の重さを感じますが、本研究科の教官陣の努力をもってすれば、十分に対処できる

北方領土墓参航海

耕洋丸 実藤了

耕洋丸は総務庁北方領土対策本部の要請により、第九三次練習航海の一環として平成四年度に続き二度目の北方領土墓参に従事した。高齢な墓参団員の上陸用舟への移乗について万全な安全対策を講じ、練習船兼旅客船として資格変更を行い平成八年八月二十日下関港を出港した。

八月二十五日から八月三十一日の間、根室市花咲港を起点として第一班墓参団を国後島へ、第三班墓参団を志発島および色丹島へと二航海実施した。

国後島古釜府に上陸する八月二十六日七時より第一班墓参団員五一名、学生九名、専任教官、次一機士がロシア側手配の舟に移乗し古釜府棧橋に上陸した。古釜府墓地班（船舶運航課程学生四名、専任教官随員）および植内墓地班（船用機関課程

ものと確信しています。

学生五名、次一機士随員）に分かれマイクロバスに乗りそれぞれの墓地に向かった。植内墓地は古釜府より北東に車で二時間ほどの所にあり、四輪駆動車で墓地に向かったが、藪で墓地まで行くことができず墓地の見える丘の上で慰霊祭を行った。古釜府墓地は住宅街から西方に車で五分位の所にあり、ロシア側の手に



慰霊祭の様子



食昼に古丹植島後国

より草を刈り綺麗に整地してあった。紙製の祭壇を組み立て約一時間程の慰霊祭を行った。その後古釜府周辺の個人墓地の参拝および火葬場跡での慰霊を済ませた後、ロシア側の好意により古釜府から北東に車で一時間位の昼食会場(植古丹)へと向かった。

鱒の遡上に感動する

途中の小川には鱒が群をなして遡上しており新鮮な感動をおぼえた。小さな滝のそばの広場で、早朝三時

から乗組員が作った弁当に感謝しながら、滝壺で冷やしたビールを飲み干した。昼食後、学生は童心に戻り遡上する鱒取りに素手で挑戦したが、漁獲は植内班の学生が一匹捕獲しただけであった。最後に、昼食会場を後にし古釜府の中心にある商店街?に案内され、許可された日本円一〇〇〇円分の買物をした後、なぜか古釜府に心を残し一五時耕洋丸に帰船した。

短い陸時間であったが、上陸学生

生はこの地にさまざまな印象と感想をもったであろう。他の学生も、緊張感あふれるロシア側とのVHF交信、また色丹島への航海時に、根室の漁船が根室海峡でロシア警備艇に銃撃を受ける事件が起き、濃霧の中で北方領土問題について考え直したであろう。ともかくこの墓参航海が学生におよぼした影響は大きく、実習上の効果も大きかったと思われる。

今回は久保田船長の計らいと北海道北方領土対策本部関係者の努力で、墓参物品運搬、墓参団員支援という名目で専攻科学生九名および専任教員、次一機士が国後島古釜府に上陸できたことに、上陸者代表として感謝の意を表します。

在校生の声

耕洋丸からの便り

(平成八年十二月十六日)

川上千鶴 (漁業学科四年)

日本の皆様、いかがお過ごしでしょうか。私たち水産大学校練習船耕洋丸第九四次航海実習生は、今、南太平洋フィジーのスヴァアからハワイのホノルル向け航海中です。この手紙が「学園だより」に掲載される時は、すでに遠洋航海を終えています。今、今の練習船での生活を少しばかりお知らせいたします。

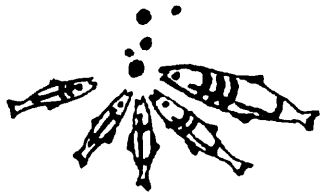
私たちは、十月二十五日に盛大な見送りを受けて下関を出航し、全員元気で毎日の当直と課業に励んでいます。下関出港直後、時化に見舞われ、私は初めて船に酔い、二十三年間の人生の中で三日間全く食事が出来ない悲惨な経験をしました。その時は、さすがに日本に帰りたいと弱音を吐きましたが、海が風ぐといよいよ本番と自ら「活」を入れ実習にのぞみました。実習は航海当直と日課課業が一日交代で繰り返されます。航海当直はワッチと呼ばれ、二四時間を六つに分けて、一回四時間を一日二回、計八時間、船を運行する船橋操舵室や機関室で航海士、機関

士、運航士の候補生として実習を行います。そのワッチが大変で、私たち漁業学科生は船橋操舵室における見張りとともに、沿岸航海ではコンパスやレーダを使った船位決定法を、大洋航海では六分儀を用いた天体観測による船位決定法を、さらに人工衛星からの電波によるGPS測定などを学びます。そのほか運航士になるための機関室実習もあります。六分儀を使った天測は難しく、慣れないうちは計算にも時間がかかります。夕方天測を行い、その翌日の夕方、つまり二四時間後にやっと船位決定ができたので、担当士官に提出したところ大目玉のご褒美を頂きました。

日課課業は朝六時三〇分の体操から始まりますが、日頃その時刻に起きたことのない私たちにとって、当初は本当に大変でした。一〇〇%勉強の規則正しい船内生活ですが、苦しいことばかりかというところを決してそうではありません。実習前はあまり話すことがなかった同級生とも大いに語る機会があり、良いところを見つけてきました。夜中まで友達と悩みを打ち明け合いました。流れ星を一生分見ました。日本では見たことのない大きな天の川を見ました。イルカや鯨を何度も見ました。シドニー、オークランド、スヴァアに寄港し、すばらしい思い出が沢山できました。清水の大切さも本当によくわかりました。そして何よりも、貴重な人命

と船舶という財産を「板子一枚下の地獄」に落とさないようにするための技術と心構えを学ぶことができた。

これからは、マグロ延縄実習とホルル寄港が残っています。そして、まだまだ辛いこと、きついことが待っています。第九四次遠洋航海実習はお互いを思いやり、全員実習を全うして、士官候補生としての知識、技術、自覚をできるだけ多く身につけて帰ってまいります。私達の多くは四年生の卒業後、専攻科に進学して大型船舶の士官をめざす道に進みます。今回の遠洋航海はそのための中盤期の実習に当たります。私たちが一月十四日(水)入港したとき、一段と大きくなった姿を見て頂きたいと思います。では一月にお目にかかりましょう。



すばらしき水大時代

柴田 至 且
(増殖学科四年)

「水産大学校」という名前を聞いた私の友人や知人は、必ず「それは何処にあるの?どんなことをしてるの?」などと聞く。その度に私は、大学の位置、どのようなことを大学で学んでいるのか、大学生活etc. についての説明をする。ひとしきり話し終わると、私の話を聞いていた人は決まって「楽しそうな大学ね」という。

確かに私は、楽しい学生生活を送ってきたし、他の大学ではできないような、さまざまなことを経験してきたように思う。学校のカリキュラムの中では、各学年で実習場での実習や乗船実習など、様々なイベント(これをイベントと言うのは、先生方に怒られるかも知れないが)が行われ、また他の大学では考えられない程、先生との関係も非常に親密なものであった。この大学に入学したことは、私にとって非常にプラスになった。おそらく、大部分の人も私と同意見ではないかと思うのであるが……。

しかし、この大学に在学している後輩達には、大学に来て何をやっていったか解らないような生活だけにしてほしくないと思っている。四年間ある大学生活の中で、何か自分の心

の中に残る思い出を作ってほしい。たとえ、それが他人から見ただけでないことでも、バイトに明け暮れている学生生活よりはずっとましだと思ふ。だからといって、遊んばかりいなんで、じつくりと考える時間もあるので、しつかりと将来の事についても考えて、大学を離れた後の人生も、十分に楽しめるようにしていただきたい。

水産大学校を卒業したら、この大学で得た経験を生かして、といいたいところだが、私たちの経験してきた事が、はたして何かの役に立つかという疑問である。しかし、何ともあれ、いろいろな面で人間的に成長してきたので、経験を生かすと言うよりもむしろ、大学生活を通して形成された人間性や、精神面といった自分自身そのものでこれからの人生において、勝負していけたらと思う今日このごろである。

卒業生の声

私の研究

大原 順 一
(機関学科四十二期)

「ヒートポンプ」をご存知ですか。普通のポンプであれば水を低いところから高いところへ汲み上げる機械ですが、ヒートポンプは熱を温度の

低いところから高いところに汲み上げる装置です。例えば冷蔵庫の場合、庫内を一定温度に保つために、庫内に漏れ込む熱を汲み出しています。ヒートポンプは、汲み上げる熱量の1/3~1/6しか動力を必要としません。また工場やゴミ焼却炉の廃熱などの、希薄な熱エネルギーを回収することができるので、将来、省エネ機器として重要な位置を占めると思われます。

私は、水産大学校を卒業後、九州大学の伝熱工学分野の博士課程に在籍しております。現在ヒートポンプについて、その要素機械のうち重要な役割を果たす蒸発器についての研究に携わっています。内容の一端を紹介させていただきますと、ヒートポンプには、熱を運搬する物質(冷媒)としてフロンが多く使われていますが、特定フロン全廃規制により、他の数種類の物質を混合し、新しい冷媒として用いる試みがなされています。従って、この様な混合冷媒の特性を詳しく知る必要があるため、私は特に、蒸発器での熱伝達や冷媒の流動状態についての特性解明に取り組んでいます。深く狭い領域の研究ですが、近い将来には、全世界が現在陥っている環境保全、エネルギーの安定供給、経済成長のトリレンマに対する一つの解答を、示すことが出来る一研究だと思えます。

世界エネルギー会議によって予測

されたエネルギー供給のシナリオでは、生活レベルの維持、環境保全、経済成長が考慮されています。つまり大量生産・消費・廃棄型社会を、エネルギー・資源循環型社会へ変革する必要を示しています。こういった動きの中で、私は携わっている研究の重要性を実感しています。是非、成果を上げるとともに内容を充実させ、新しい合理的エネルギー体制に貢献できるよう取り組んでいきたいと思ひます。また今後、この研究を基礎にして、色々な分野の方と協調し、学び合い、将来新しい考え方や技術を提案していけるよう、日々努力を積み重ねていきたいと思ひます。

— 今思うこと —

院 去 満 代
(製造学科四十五期)

平成七年春に水大を卒業し、二年が過ぎようとしています。現在、私は水産庁研究課に勤務しています。昨年一月に特別講演のため、上司と共に水大を訪れました。在学中に比べ、学生交流会館や新しい校舎が出来て構内がきれいになったことに驚きました。私が公務員になることを決心したのは二年生のときでした。当時、教養の法律を教えられていた武部教授の勧めがきっかけでした。先生は二年後の厳しい就職状況を予想された上、特に女子学生について

は公務員を勧められました。公務員試験のための本格的な勉強は三年生になってから始めました。毎日放課後、図書館で勉強し、生協で食事をして帰るといふ生活でした。企業の入社試験を全く受けないあぶない橋渡りで、特に試験前は精神的にもきつかったのを覚えています。

しかし、今思うと目標に向かってひたすら頑張るといふ心地よさがあり、充実していました。現在、国の水産研究所の企画調整の他、都道府県や大学への研究の委託を担当しています。まだまだ上司からの指導を受けながらやっております。これから色々なポストに就きながら徐々に仕事の面白さが分かるようになるかと思っています。

昨年八月には漁村研修で、青森県の下北半島のこんぶ漁の漁家に一ヶ月間滞在しました。こんぶ漁はもちろん、いか釣りや定置網漁の実際の操業の他、村の寄り合いへの参加など、現場を理解する意味においてもいい経験をしました。今でも時々、吉見の青い海を思い出出すことがあります。自然豊かな吉見は勉強やスポーツに励むには絶好の環境です。学生のみなさんに、是非、在学中に一つ「これだけはやっただぞ」と言えるものをつくっていただきたいものです。かく言う私も原稿を書きながら、水大でのよき思い出にひたりつつ、これから新たな目

標に向かって頑張らないといけないと改めて思う次第です。

新任紹介

水産大学校に赴任して

庶務課長 小斉平 誠



平成八年六月一日付で水産大学校に転勤を命じられ、着任後はや

半年以上が過ぎ、下関の生活にも多少は慣れてきたところでありませう。

入省以来二六年余り行政畑を歩いてきたため、水産大学校へ赴任の意向打診を受けたときは正直言って戸惑いを感じました。過去一度、二〇余年前になりましたが、現在の九州漁業調整事務所に在勤しているときに、水産大学校、西海区水産研究所、南西海区水産研究所及び福岡漁業調整事務所の四場所で見学をかねて球技大会をすることになり、その機会に当地を訪れたのが最初でした。その後、勤務地が水産庁に変わったこともあり、今回の赴任時まで訪れる機会がありませんでした。

赴任して先ず感じたことは、正門の前面が海に面しており、背後地を

山に囲まれた立地条件の良さでした。今まで過ごしてきた勤務地は、都会の喧騒の中にあり、回りは林立したビル群とその間を動き回る群衆の洪水で溢れていましたが、当地は、前面に海が開かれており、後背地には山に囲まれ、住宅街や国道からは比較的離れているため学校としては静寂な環境に恵まれた素晴らしいところであることに感嘆しました。

通勤には、暫くの間山陰本線を使用していましたが、列車の窓からは田園の緑が臨まれ、それが切れる頃には急に日本海が開けて日の光が痛いほどに目を刺してくるのには、驚かされました。ただ、通勤時間帯に一時間一本しか通らないため、早起きをして出勤することは、正直言って、今まで怠惰な生活に慣れたものにとっては辛いもので、結局、自動車通勤となってしまいました。

勤務内容については、教育関係の事は初めてのこともあり日々新たな経験をさせてもらっており、その分職員の皆様方には、何かと迷惑・ご協力を仰いでいるしだいでありませう。

水産大学校は、平成八年度に学科改組を行い、来年度からは、新たな学校組織で運営されることとなり水産業界を始め、関係各方面の期待は大きなものがあります。この様な時期に水産大学校で仕事が出来るとは身の引きしまる思いがします。

今のところは、幸い大過無く過ぎておりますが、今後も、公私とも当地での生活を大いに楽しみつづつ過せればと思っております。

沿岸内湾生態系モデル

教養学科 早川 康博



一九九六年十月に水産大学校に着任後は、情報処理と物理の講義を担当すると共に教養学科が改組されて出来る水産情報経営学科に所属する数理科学講座の開設準備に追われて毎日が慌ただしく過ぎた。

私は福岡市で生まれ育ち、親の転勤で長崎、大分、熊本、静岡で少年期を過ごした。今思うに、水産分野に携わる事となったのは、学部学生時代に神奈川県三崎臨海実験所の生物実習でその多様性に驚き、訪れた長崎県杵岐で透明度の高い海の深遠さを実感してからである。大学院から前任地（岩手県三陸）を通じて現在までは、沿岸や内湾水域における水産環境と生物生態の相互作用のモデル化を専門分野としている。

特に、物理・化学的環境要因や海洋生物の時空間分布に興味を持って

いるが、生物の分布を決めるものは物理・化学的環境要因のみならず、むしろ生物の環境への適応や生活史戦略が大変重要な要因であると考えている。例えば、底層の貧酸素化、海藻の磯焼け現象、水産増養殖の環境収容力など海洋環境の物理・化学・生物的要因が相互作用する過程は数え上げれば切りが無い。これらは水産上重要な問題を多く含んでいる。

環境と生物の相互作用の実測データは、従来から多量に蓄積されてきたが、実測データを数理的に説明する必要があるとされている。環境影響評価における生態系シミュレーションは正にこの必要から出て来たものである。生態系シミュレーションでは対象となる過程をモデル化して定式化の出来る過程と出来ない過程を区別するのが第一段階で、続いて数理的定式化・プログラミング・演算・結果の可視化といった一連の作業が必要となる。この作業に必然的に付随するものに、環境と生物要因の実測、データ転送、データ同化、理論化、情報検索などがある。

水産大学校の周辺は対馬暖流の影響を受ける響灘から九州北部沿岸、さらに瀬戸内海側の周防灘など生物の多様性が豊かな水域であり、ここをフィールドに、従来の研究方法に加えて、数理科学や情報科学的手法を大いに取り入れた新たな生態系モデルの発展を目指して精進したいと

考えている。御教示ご鞭撻をよろしくお願いします。

はじめまして

漁業学科 川崎 潤二



このたび、七月一日付で漁業学科運用学講座助手に赴任いたしました。

それまでは、北海道大学大学院水産学研究科博士課程三年でした。よほど函館の田舎生活が身につけてしまっているのか、赴任後「下関には慣れたか」と度々聞かれ、聞かれる度にどのように返答しているのか困ってしまいます。北海道の下関通？によると、下関は九州弁がきつ

いところだから用心しろ？、とか、一年中暖かい気候だ、（そういえば彼は大阪弁しゃべっていた？）などの情報を、日々塗り替えています。運用学について、その名前を聞き慣れないからか、よく人からどのような内容なのか聞かれたりします。そんなときは、「漁船の運用に関わる研究だ」などお茶を濁してしまいます。運用学として漁船の運航について考えてみますと、大まかには漁船、気象及び波浪等の海象、運航者、

の三つの要素と、それらの相互関連によって成り立っているところであることが出来ます。またそれら各要素において項目内容は細分化され、研究対象とされています。その中で自分は、運航時間、また労働の場としての漁船内環境が、運航者である漁民の方々を与える影響について研究対象としてきました。船上での作業は、船体動揺が常に人体に作用しています。また、漁船によっては狭い運動空間の中で漁労機器、ロープ等が混在している中で作業となります。そのような特殊ともいえる労働環境において、漁船運航、または操業の安全確保のために何らかの提言ができればと思っております。赴任して半年、まだまだ分からないことばかりですが、今後、自分なりの表現ができればとおもいます。

水産大学校に着任して

増殖学科 水上 譲



住宅地、商店街を問わず駐車スペースが路上にあふれている。駐車場のなんと多いことか——なぜ取り締まらないのか、運転未熟者には危険

であり、なんとかして欲しい、というのが下関の第一印象です。家々が山の斜面にへばりつくように並ぶ風景がないこと、バス料金が高いこと、それに上記の駐車々輛の多さ、等を除いて、下関は前任地長崎に、じつは、いろいろな点でよく似ています。そのため、日常生活にさほどの違和感もなく、いつのまにか数ヶ月が過ぎた、という感じでした。反面、本来なら、この機会に心機一転して……となるのですが、いまいち緊張感が湧かず、弱っています。

私は、新潟県に生まれ育ち、その後ほぼ一〇年間隔で札幌、東京・横浜、長崎と順番に渡り歩いてきました。そのため、このままいくと、列島ぐるり一回りで、次は再び北陸・新潟県かも知れないと心中怯えていました。此の度は、日本海側をわずかに北上したのですが、幸いにも下関で止まる事が出来、胸をなでおろしています。雪国は三〇年間も住みましたので、もう結構だからです。これ以上の北上はないものとは今は安心しきっています。

どうか今後ともよろしくお願い申し上げます。

クラブ紹介

弓道部

副将 藤原 学
(漁業学科2年)

うらかな春の日射しが道場に差し込む頃、僕達弓道部の一年が始まります。皆さんの中には僕達の活動場所、つまり弓道場が水産大学校の敷地内に存在する事を知らない人もいるかもしれませんが、講堂へ向かう坂のふもとに、僕達の弓道場があります。床が抜けたり、ドアが壊れていたり、決して立派な道場とは言えませんが、毎週月・金曜日の放課後に活動が出来る僕達の大切な道場です。

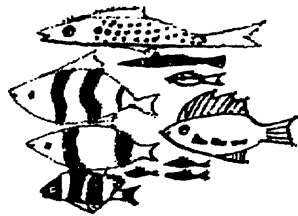
大会では成績こそ思う様に残せないものの、毎年インカレ・中国大会・中四国大会を柱に年間一〇大会近くの大会に参加しています。その他にも部内の行事として、新入生歓迎パーティーに始まり、七月の競射会、十二月の納射会に到るまで、引退された先輩方も含めて部員一同が集まる機会を多く取れるように努めています。

今年、僕達の長年の夢であった新しい道場が完成する事となり、気持ちも新たに頑張るつもりですが、部員数の若干の減少という問題に直面しています。少人数(二十人程度)

のために、先輩や後輩というような片苦しい関係はほとんどなく、アットホームな雰囲気の中で毎日楽しく練習に励めますが、もう少し多い人数で活動したいというのが僕達の願いです。

僕達が毎日楽しく大学生活を送れるのも、素晴らしい仲間達に出逢えたのも弓道部があったからだと思っております。その弓道部が先輩方のおかげで、二十八年間続いてきました。その歴史と伝統を守り、また発展出来るよう弓道部々員一同全力を注ぐつもりです。

最後となりましたが、新道場建設に携さわって下さった多くの方々にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。また今後とも、御指導、御鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。



学生部だより

平成九年度入試概況

本校の平成九年度入試は、学科改組による一期生の選抜試験であり、その動向が注目された。

結果として、志願者数は前年並み、志願倍率は、改組に伴い一時的に募集定員が減少したことから〇・四ポイントの増となったものの、全体として大きな変化は生じなかった。

一般入試の志願状況は、海洋生産管理学科二〇〇名(二・三倍)、海洋機械工学科一一一名(三・五倍)、食品化学科二二六名(六・八倍)、生物生産学科四四九名(一八・七倍)、計九七六名(八・一倍)であった。

また推薦入試には、全体で八九名が応募し、海洋生産管理学科一二名、海洋機械工学科一一一名、食品化学科一二名、生物生産学科六名の計四一名が合格している。

一般入試は平成九年二月一日に下関・東京・大阪の各試験場で実施され、二月二五日に合格発表を行った。

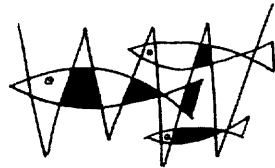
次年度の学生募集については、一八才人口の減少という厳しい環境の下で行われることとなるが、今年度の入試を深く分析し、問題点を浮き彫りにし対応する必要があると考えます。

平成 8 年度卒業予定者進路状況 (平成9年3月1日現在)

区 分	学 科	専 攻 科		漁 業 学 科	機 関 学 科	製 造 学 科	増 殖 学 科	研 究 科	計
		船 航 船 運 程	船 用 機 程						
卒 業 予 定 者 数		21	23	42	31	49	26	10	202
進 学 先	大 学 院			3	2	3			8
	研 究 科			3	4	3	3		13
	専 攻 科			23	12				35
	研 究 生	1			1			1	3
	そ の 他 進 学						1	1	2
計		1		29	19	7	4	1	61
就 職 先	国 家 公 務 員	1	2					1	4
	地 方 公 務 員	1	3	1			2		7
	各 種 団 体	1		1		2	4		8
	水 産	7		9	1	18	11		46
	船 舶	5	6						11
	造 機 ・ 造 船		5		6				11
	食 品		1	1	2	16	2	2	24
	そ の 他 の 企 業	1	1		2	3	1	1	9
計	4	5	1	1	3	2	5	21	
計		20	23	13	12	42	22	9	141
合 計		21	23	42	31	49	26	10	202

平成 八 年 度
卒 業 予 定 者 の 進 路 状 況

ある。本年度の進路状況は別表の通りである。



(分類内訳)

各種団体=水産関係各種団体
水産=水産関係・関連企業
船舶=船舶・海事関連企業
造機・造船=造機・造船関連企業
食品=食品・関連企業
その他の企業=その他の企業・
自営業
※その他=国家・地方公務員・
海技試験受験等の準備

平成 8 年度卒業予定者進路状況一覧表 (平成9年3月卒業生)

(平成9年3月1日現在)

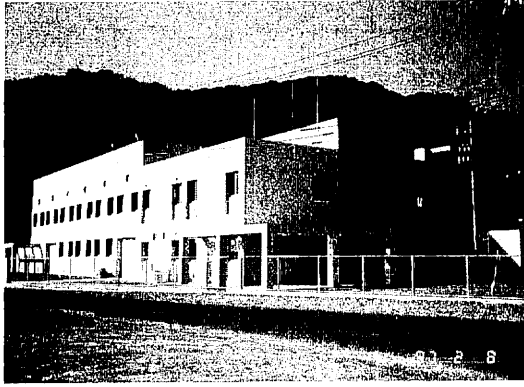
◎進学(大学院等)	◎就 職(官公庁)	大 東 魚 類 (株)	(株) 極 洋	ダイキンプラント(株)
東京商船大学大学院	池田興業(株)	南 日 本 ハ ム (株)	(株) 辻 野	筑 豊 製 作 所 (株)
東京水産大学大学院	(株) 海洋技術開発	東 日 本 ハ ム (株)	(株) ファミリーシェフ	日 本 ク ラ ウ ン コ ル ク (株)
神戸商船大学大学院	日本海洋事業(株)	中 島 水 産 (株)	(株) 九十九エスケイファーム	新 日 本 気 象 海 洋 (株)
三重大学大学院	博多港運(株)	東 洋 水 産 (株)	フ ジ ッ コ (株)	ウ ォ ル ハ ー ト プ ラ ザ - ス ジ ョ ン
九州大学大学院	四国急速冷凍(株)	大 京 魚 類 (株)	ケ ン コ ー マ ヨ ネ ー ズ (株)	日 東 ベ ス ト (株)
鹿児島大学大学院	やまや(株)	横 浜 冷 凍 (株)	エ ス エ ス ケ イ フ ー ズ (株)	阪 神 臨 海 測 量
水産大学校研究科	仙都魚類(株)	(株) 福岡魚市場	デ リ カ ウ イ ン グ (株)	み な と 新 聞
水産大学校専攻科	(株) シンメイ	福 岡 中 央 魚 市 場 (株)	い な ば 食 品 (株)	(株) ヒ ガ シ マ ル
水産大学校研究生	ホ ン ダ 水 産 (株)	金 子 漁 業 (株)	シ ー サ ッ ト (株)	日 東 製 網 (株)
東海大学研究生	長崎魚市場(株)	(株) 静 公 司	大 都 魚 類 (株)	マ ル シ ン 商 事 (株)
その他進学	ワ タ ナ ベ 水 産 (株)	サ ン シ ョ ウ (株)	川 商 (株)	江 ノ 島 電 鉄 (株)
	田 崎 真 珠 (株)	日 本 果 実 工 業 (株)	大 栄 フ ー ズ (株)	大 晃 機 械 工 業 (株)
		キ ュ ー ビ ー (株)	(株) タ カ ミ ヤ	(株) 浅野歯車工作所
		中 川 食 品 (株)	(株) ユ キ ワ	扇 情 光 (株)
		井 村 屋 製 菓 (株)	(株) 佐世保魚市場	(株) 日立物流
		中 央 フ ー ド サ ー ビ ス (株)	沖 物 産 (株)	釣 研 (株)
		東 都 水 産 (株)	神 戸 海 産 物 (株)	ミ ヤ コ 化 学 (株)
		岡 田 水 産 (株)	(株) ク ハ ラ	(株) 日本無線電気サービス社
		一 番 食 品 (株)	(株) 國 和 産 業	徳 倉 建 設 (株)
		(株) ジョイフル	大 一 海 産 (株)	辻 丸 自 動 車 (株)
		(株) ウインズ	(株) 大 市 珍 味	自 営 業
		コ ッ ク フ ー ズ (株)	モ リ 工 業 (株)	海 技 免 許 受 験 等 ・ そ の 他
		(株) ニチロ	山 武 エ ン ジ ニ ア リ ン グ (株)	

舟艇管理棟の紹介

漁業学科 濱口正人

平成七年度の補正予算で更新が認められた旧艇庫は、平成八年着工、同年十二月「舟艇管理棟」という新名称で完成しました。総工事費四・二億円、延建で面積一、二一八平方メートルの二階建て鉄筋コンクリート製の建物です。

一階の舟艇（カッター、ピンネス、和船、小型実技艇等）を保管する場所は、二階吹き抜け、四・八トン最大重量のホイストクレーンと舟艇巻上げ用のウインチが装備されています。その他、一階には、管理員室、属具庫（重量物、軽量物）、工作室、整備場、検査用具庫（気象観測室も



兼ねている）などが設けられています。また、二階には、学生の更衣室、帆走用具等の修理場が設けられています。

申すまでもなく、本校は水産の教育研究機関として、水産界で活躍を目指す学生が、まず最初に海と接触する基礎訓練というべき海技実習があります。さらに、学年が進むにつれ機動艇の操船、カッター・ピンネスの漕艇・帆走法などの海技技術の習得、沿岸海域の海洋動態、海洋環境、海洋生物の採捕など多岐にわたる実験、実習、調査などが実施されています。そして、これらに供試するための舟艇、属具、その他多くの船用品を保有しています。

旧艇庫は昭和四十年に建設され、鉄骨・スレート吹き葺きの建物でした。しかし、気象・海象の厳しい海面に面していることから、他の建物よりも腐食・破損が激しく、冬季の強風や台風時期にはその都度部分的に修理を重ねてきました。また、平成七年度に小型船舶操縦士の実技教習艇「海燕」が建造され、艇庫及び付属設備を使用する頻度も高くなってきたのと同時に手狭になっていました。このようなことから、早朝の立替えが要望されており、今回実現したところでした。

舟艇管理棟内の舟艇を保管する場所の面積は、以前の艇庫と殆ど変わりはありませんが、旧艇庫を使用し

ていたヨット部のヨット格納場と整備場のスペースを分離し、隣接部に確保することにより手狭を解消しました。また、属具・船用品の整備場、修理場が新たに設備され、スムーズな整備・修理はもとより海技実習中の結索や雨天時の実習が管理棟内で可能となりました。さらに、学生が実習準備を円滑に行うため、また女子学生が増えていることから服を着替える場所が必要であり、二階に更衣室を設けました。

建物の外観は船をイメージして、船首部分を塗料の色を替えて際立たせ、また建物上部及び棟内のドアの窓を円形にしております。さらに、作業効率を考慮した部屋の配置、温水シャワーの設置など今までの不便さを解消するよう設計されています。しかし、重点項目として考えていました、潮位に関係なく、省人で安全性の高い舟艇の揚降装置が市、自衛隊、漁協との関係で実現できなかったのが心残りです。

人物往来

〔平成八年度〕

〔水産特論講師〕

六月一四日

水産庁企画課長

七月五日

水産庁国際課長

篠原

海野

洋

孝

一〇月一七日

水産庁計画課長

十一月二十九日

水産庁研究課長

〔叙位・叙勲〕

三月一七日 勲二等瑞宝章

四位

高島末夫 (漁業学科教授)

四月二十九日 勲三等瑞宝章

廣瀬

誠 (元漁業学科教授)

五月二二日 勲四等旭日小綬章

正五位

大貝政治 (増殖学科教授)

十一月三日 勲三等瑞宝章

高井

徹 (名誉教授)

〔名誉教授〕

六月一日 大森定光 (元教養学科教授)

三月二三日 農学博士

〔博士号取得〕

三月二三日 農学博士

満谷

淳 (名誉教授)

三月二三日 農学博士

前田俊道

六月二八日 水産学博士

〔訃報〕

三月一七日

高島末夫 (漁業学科教授)

四月三日

林

桂 (名誉教授)

五月二二日

大貝政治 (増殖学科教授)



水産大学校の現況

水産大学校長 村上正忠

水産大学校
 ☎759-6595
 下関市永田本町
 2丁目7-1
 発行 学園だより
 編集委員会
 電話0832(86)5111



二十一世紀半ばには世界の人口が百億を超えることが予測される。この人口増を支えるための食糧の確保は至難の業と言える。ヒトにとって重要な食糧資源の生産性の向上や安定かつ安全な供給の確保に関する教育・研究はより重要である。

水産学の多くの分野は人類に持続的に動物性タンパク質を供給するための生産、管理、流通、消費等にかかわるものである。食糧生産の第一次産業のうち地球に最も優しいものは水産業であると言えるが、また厳しい環境の影響を受けるのも水産業である。ここに教育・研究のはばや

多様性も生まれてくる。

このように大学校案内で受験生に呼びかけていた矢先、行政改革会議の最終報告において、本校も民営化となり得る業務を行う機関として取り上げられた。このことは、下に示すように官界はもとより広く水産業界の第一線で活躍できる人材の育成に務めてきた水産大学校にとって、誠に遺憾なことであった。

水産大学校は、水産における生産技術（漁業、増養殖、環境）及び加工技術に関する高等教育を実施し、学士（水産学）の学位を授与されている。さらに、修士課程研究科による高度技術の開発・研究に努めている。また、漁業取締船や水産資源の調査船の乗員を養成する専攻科を設置している。このうち船用機関課程は本科の海洋機械工学科と共に水産系では本校のみの学科及び課程であ

る。特に、この乗員教育のため遠洋航海を行い、諸外国との共同調査などを通じて、新海洋法時代に対応可能な国際感覚豊かな水産人を養成している。

本校は、開校以来五十数年間に約七、五〇〇名を世に送り出し、その大多数の者が水産業とその関連企業及び水産系の国家・地方公務員として活躍している。特に、西日本の各府県の水産行政並びに試験・研究に携わる公務員のうち、本校卒業生の占める割合は高い。

また、本校は外務省・水産庁及び JICA（国際協力事業団）等からの要請により、外国の人に漁業生産・水産養殖に関する理論と技術を修得させるよう長期又は短期の研修を行うと共に途上国への派遣指導事業に教官が参加して、国際協力にも貢献している。

さらに、本校はルーツを同じくする韓国の釜慶大学校（旧釜山水産大学校）と学術交流協定を結び積極的交流を深めており、本校の前身である釜山水産専門学校の卒業生も韓国水産界の重鎮として活躍し、国際交流の道を築いている。このように、水産大学校は開校以来その時代の社会的要請に応えながら、水産業並びにその関連分野のリーダーとなる人材を育成し、我が国にとって重要な食糧政策を支えてきた。

二十一世紀における水産資源の安

定供給は我が国の重要施策であり、本校では、水産行政の企画立案部門と一体となった、水産現場を踏まえた実学重視の人材教育を行っており、この教育は民営や独立行政法人のものとは不可能である。ここに農林水産省所管での現状維持を大学校あげて強く要望している。今後は具体的検討を行う政府等に働きかけて、引き続き最大限の努力をしていきたい。

なお、在学する学生の身分等にはなんら影響のないことを申し添える。また、ご父母の皆様には現状存続へのご協力を切望する次第です。



水産大学校の組織改革とこれからの課題

学生部長 大崎 榮喜

現在、経済構造の変動、技術革新の加速化、国民の価値観の多様化、女性の社会参加の拡大など社会情勢が大きく変化しています。これに対応するため、大学では、教育研究の高度化、高等教育の高度化・多様化及び組織運営の活性化を図り、社会の変化に柔軟に対応できる創造性豊かな人材の育成を目指して改革が行われています。

水産大学校においても、水産流通・経営・経済・情報分析、国際的法秩序下での食糧の安定供給、海洋環境の保全及び改善、資源管理型漁業の推進、機能性食品及び生理活性物質の開発に対応できる人材の育成と教育研究内容の充実を図るため、組織改革を行いました。海洋生産管理学科、海洋機械工学科、食品化学科及び生産生物学科については、平成九年三月十一日に学位授与機構から課程認定され、すでに今年度から学生を迎え入れ、卒業時には学士の学位が授与されます。

改組元年に当たる平成九年度は、四専門学科の志願者一、〇六五名中一六三名が入学しました。(表参照)。志願者は、昨年に比べて若干減少したものの、志願者の出身高等学校数

では一四校増加しています。

水産情報経営学科については、平成十年九月に学位授与機構に課程認定の申請を行い、平成十一年度に学生募集(一学年二〇名)をするために、教職員一丸となって準備を進めています。今回の組織改革が完了すると、水産大学校では、特色あるカリキュラムの編成と柔軟でかつ充実した教育組織、学生の学習の充実、一般教育と専門教育の改善、多様な学習機会の確保など教育の改善ができ、情報、海洋環境、経営・経済、漁業学、化学、生物学、工学など多くの学問分野を包括した新しい水産学の教育・研究が可能になります。この組織改革を契機として、これからの水産大学校は、水産行政の重要施策である「新海洋秩序への移行」や「資源管理型漁業やつくり育てる漁業」などに的確に対応できる人材の育成に積極的に取り組むことにより、我が国の食糧資源の確保に貢献することが必要であると考えます。

今後、一八歳人口の急激な減少に対処するには、本学の教育・研究内容をよく理解した学生をたくさん集めること、生涯を通して学びたいという人々に対する生涯教育の実施などが不可欠であり、このことが、本校の活性化にもつながっていきます。このためには、単に受験生の量的な増加のみを目的にするのではなく、大学校において、どのような改組が

行われ、本校ではこういう学生こそ来てもらいたい、こういう学生こそうちの大学校で力を発揮してほしいというような、大学校の表情が見えるガイダンスとしての広報活動を積極的に行うことが必要であると考えます。

平成9年度入試状況

()内は女子学生

学 科	志願者	定員	入学者
海洋生産管理科	221(27)	45	42(8)
海洋機械工学科	129(5)	45	44(3)
食品化学科	237(66)	45	46(17)
生物生産学科	478(134)	30	31(12)
合 計	1,065(232)	165	163(40)

水産大学校―釜山水産大学校 学術交流懇談会(第三回)

国際交流委員長 杉原 滋彦

釜山水産大学校(当時)との間で、学術交流懇談会に関する合意がなされ、第一回目の懇談会が、釜山で開催されたのは平成七年五月でした。第二回目は、舞台を本校に移し、平

成八年十月に開催されましたが、第三回の懇談会は平成九年で再び釜山水産大学校に戻っての開催となりました。はからずも第三回目は、旧釜山水産大学校が旧釜山工業大学校と合併して、釜慶大学校として新たに発足して以来初めての訪問であり、校長の参加が強く望まれるところでした。幸いにも校長の日程調整が付き、校長以下七名が、平成九年十一月九日から十三日まで釜慶大学校を訪問しました。第一回の訪問者は前校長以下五名でしたので、今回は二名増えたこととなります。

十一月十日朝、釜山港に到着すると釜慶大学校水産科学大学の辛学長を始め、顔なじみの大学側関係者の暖かい歓迎を受けました。先ず日本領事館を表敬訪問し、釜慶大学校工科大学(旧釜山工業大学校)見学の後、水産科学大学に赴きました。学長室において水産科学大学側関係者と、旧交を暖めると共に意見の交換をしました。午後には水産振興院を見学の後、再び大学に戻り、翌日の懇談会の各講演者、討論者及び通訳者との間で個別的な打ち合せが行われました。

翌十一日午後二時から新築された水産科学館の国際会議室で、大学教官と学生が多数列席の下、懇談会が開催されました。先ず、学長より歓迎の辞、校長より訪問の辞に続き、第一回の懇談会から世話をされてき

た張教授から、両校間で懇談会を開催するに至った経緯とその後の経過について、報告されました。ついで本校各学科を代表する教官五名の講演発表となりました。多岐にわたる分野からの発表のため、各講演者にはその分野を専門とする二人の討論者が、通訳者とは別に割り当てられていました。一人の発表には通訳時間を含めて四〇分で討論時間が五分予定されていましたが、活発な質疑



応答のため予定時間を超過する発表もあり、懇談会が終了したのは予定時刻の七時を過ぎました。今回の訪問で印象的だったことは、韓国側が我々に示してくれた並々ならぬ暖かい心遣いをいただき、感謝の気持ちと共に頭の下がる思いがしました。これは両校が歴史的起源を同じくするためかも知れませんが、また、小生の勝手な想像ですが、事ここに至るまで、両校の先人達が多分経験した生みの苦しみも、余りにも永く余りにも大きかった結果かも知れません。ともあれ今回まで三回にわたる懇談会を無事終了することができ、

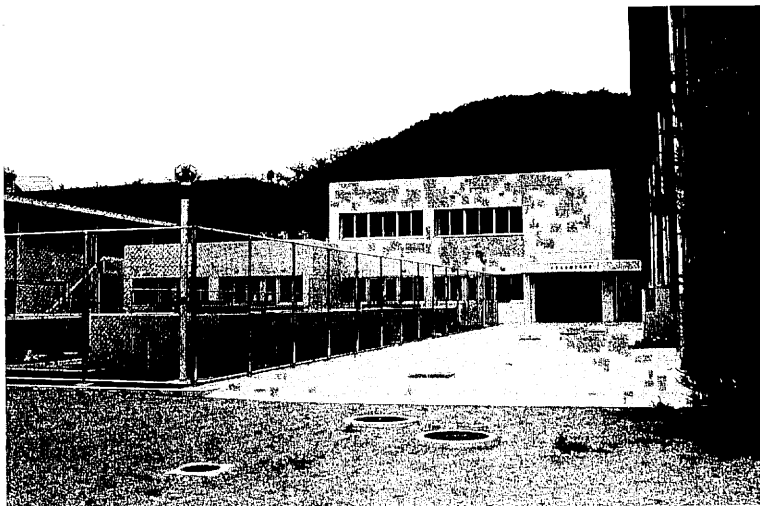
年々両校の交流が着実に強固なものとなって来たように思えます。誠に喜ばしい限りで、學術的にも親善的にも有意義なこの会が、今後永く続くことを祈っています。

生物飼育研究施設の紹介

生物生産学科長 鬼頭 鈞

従来、主として旧増殖学科が使用してきた屋外水槽は、その老朽化が

進み、平成八年度施設整備費により、総工費約二億四千万円にて、生物飼育研究施設として更新された。この施設は、室内の人工環境条件下での飼育培養を目的とした「生物飼育研究棟」と自然条件下での飼育を目的とした「屋外水槽」からなっている。建設に際し、最近の研究および教育の質的变化に伴う生物飼育条件の精密化を考慮し、特に、屋内飼育機能の充実が図られた。



生物飼育研究棟は延べ床面積六〇五平方メートル、一部二階建ての鉄筋コンクリート建築である。一階には流水飼育が可能な飼育実験室が四室と大型恒温庫を備えた培養室が二室、それに飼育のための準備室が一室配置された。各室には海水と水道水の蛇口が数多く設置されているし、ブローアの送気口も多数装備されている。また、各飼育室には一トンほどの円形水槽一個と同じぐらいの大きさの角形水槽一個が配備されたが、水槽容量は不十分で、補完整備は今後に行われなければならない。二階には飼育に関する学生実験を行う目的で、学生実験室が一室と実験準備室一室、それにゼミナール室が一室設けられた。従来、学生実験をするのに、飼育中の生きた材料を用いることが困難であったが、この実験室の設置により問題は解決したものである。

屋外水槽は全部新しく造り替えられた。水槽は延べ面積二二〇平方メートルで、従来より若干狭くなったが、リースウエイ式三〇トン水槽二面、同じく一二トン水槽が二面、それに角形の六トン水槽が二面、八角形の九トン水槽が二面、それぞ

れ鉄筋コンクリート製で装備され、機能的には格段の飛躍が伺われる。さらに、水槽に隣接して、面積一四〇平方メートルのたたきが設けられた。その中央部には一直線の形で、高さ二・三メートルの位置に、エアレーションのための送気管と海水管が装備され、可動式のパンライトまたはFRP水槽などを用いて、自在な規模での飼育培養が可能なスペースが確保された。

この生物飼育研究棟は、本年四月より新しく生物生産学科となった、本学科の門出に花を添えるようにタイミング良く新設され、生物飼育を中心とした新しい研究および教育分野に飛躍的な発展をもたらせてくれるものと期待される。

在校生の声

私と研究

福田 耕 児
(水産学研究科一年)

私は、現在、研究科で伝熱工学の分野を専攻し、熱交換器の性能について実験、解析の研究を行っています。

水産大学の機関学科に入学した頃は、私は特に工学に興味があるというわけでもなく、今、思えば、「卒業できればいい。」という程度

の考えしかありませんでした。無論、大学卒業後の進路のことなど考えてもいませんでした。

二年生の時、専門分野の熱力学の講義を受講し、私はその内容に非常に興味を持ちました。それから、三年次には、先生の勧めもあり研究室の伝熱工学のゼミに参加し、伝熱の面白さを知るとともに、この分野の研究について学びたいと思いい、四年次の卒業研究において、中岡先生の研究室に入り、「プレート式凝縮器の研究」というテーマで、熱伝達促進のために、伝熱面に磁石を用いた熱交換器の実験研究を行い、卒業論文としました。

現在は、このテーマの実験研究とともに、熱交換器の作動流体の混合冷媒を用いた性能解析研究を、先生の指導のもと、研究室の卒論生とともに、議論を交しながら楽しく充実した毎日を送っています。

このように過ごしてきた私のこれまでの五年間の水大での生活は、とても短かったと感じます。

そして、最後の一年間を、修士論文を書き上げるとともに、後悔しないようにしたいと思う。

教わる時、教える時

黒田 正 直
(製造学科四年)

大学を卒業すると同時に、学生生

活にピリオドを打つことになりました。小学校から大学までの十六年間常に教わる立場にあり、途中手を抜いたところはあるものの、それなりに勉強してきたことへの達成感を感じつつ、研究室に於いて卒業研究の日々を送ってきました。約一年ほど前からある縁で中学生の勉強の手伝いをする事になり、私もついに人に物を教える立場を経験していた次第です。

人に物を教えるという立場に立つと、何か自分が偉くなったような気がします。偉くなってみると教える子に対して、「何故これが理解できないのか」「どうすれば理解してもらえるだろうか」「どこが解らないのか」など、様々な試行錯誤を繰り返してみます。突然自分を振り返ってみると、「さて自分は……。」ということになってしまいました。自分も今まで様々な勉強をし、幾度となく実験を繰り返している最中理解できないことが多々ありました。しかし、私自身教え子にしてはしなかったこと、つまり解らなければ、その都度質問するということができていませんでした。自分が出来ないことを他人に強要している自分を見て、赤面していた毎日ですが、ある日ふと思ったのは、自分が教わる際に先生に対して背伸びをしていたのではないかとこのことです。「他人から見ても自分をよく見せたい」という虚栄心が強

卒業生の声

東京湾の上で

梶川 和 武
(漁業学科四十五期)

私は現在、東京水産大学生産システム学研究科で小型底曳網に取り付ける混獲防除装置の研究に取り組んでいます。この種の無駄な漁獲を防ぐ装置の開発は世界中で行われており、私もその一端を担っているという事になります。一端を担っているといえれば聞こえはいいのですが、まだまだ半人前で、たぐいまれな修業中といったところでしょうか。

この研究には網に入った何万尾もの漁獲物を測定するという気の遠くなるような単調な作業が必ず付いて回ります。また、漁船に乗る機会も

く働いていたことに気付いたのです。私の教え子は二人に増えていますが、その二人に置き換えてみても恐らく同じであろうと思われます。大事なことは、如何にして自分に対して正直になれる、また、なつてもらうかということが、教わる時、教える時の重要ポイントなのではないかということ、この二・三年で考えられるようになりました。後輩諸氏におかれましてはいかがが考えでしょう。

多く、いわゆる体力勝負といった面が多くあります。東京に来てからも小型漁船には何回も乗りました。水大時代、陸上部に所属し、夏は砲丸投げ、冬は長距離をやっていたので、体力には自信があり、酔いもほとんどしたことのない私なので、池みたいに波の立たない東京湾での操業なんか楽勝だと最初は思っていました。しかし、現実はそのなかに甘くないことを知るのにあまり時間はかかりませんでした。東京湾はタンカーなどの大型船の航行が多く、そのため大きい波が頻繁に襲ってきて立ってられない程です。また、死んだヒトデが大量に網にかかり、その匂いがたまりません。どこの漁場も海の厳しさは同じであることを悟りました。

そんな操業でもしだいに慣れ、今では結構楽しんでます。特に夜景はすばらしく、何回見てもあきません。今まで名前しか聞いたことなかったレインボープリッジ、東京タワー、ベイブリッジなどが美しいイルミネーションで装飾されて、キラ星のごとく輝き、夜の東京を演出しています。また、羽田空港が近くにあるため飛行機が五分おきに離発着を繰り返しており、ついつい見とれてしまいます。海上では豪華客船や巨大な貨物船が目の前を行き交い、それを縫うように操業を行っているのです。のどかな下関の響灘での操業とはまるで違い、こんな風景の一部になつて自分の気が付くと、改めてああ東京に来たんだな、今東京にいるんだなと再認識させられます。

輝ける自分に

上原 薫
(増殖学科四十七期)

水産大学校研究科を修了して早いもので一年が過ぎようとしています。響灘も東京湾も海は一つ、その同じ海の上で頑張っていきたいと思えます。

業とはまるで違い、こんな風景の一部になつて自分の気が付くと、改めてああ東京に来たんだな、今東京にいるんだなと再認識させられます。

水産大学校研究科を修了して早いもので一年が過ぎようとしています。響灘も東京湾も海は一つ、その同じ海の上で頑張っていきたいと思えます。

明がこれからの大きな課題、若しくは目標になつています。

私はこの困難な病気をどのように防げばよいか、飼料中に抗ウィルス物質や免疫機能を上昇させる物質を添加して、実際にクルマエビに食べさせて、どのように効果があるかというところについて調べています。しかし、生き物を相手にした仕事なので様々なトラブルもあります。そういった壁にぶつかる度に研究を進めていくことの困難さ、あるいは自分の知識の乏しさを痛感します。

入社一年目にしてこのような研究に携われたことを幸せに思い、そして実際に楽しんでます。しかし、その反面、責任の重さからくる不安とプレッシャーでいっぱいです。これに負けじと頑張っているものの、更なる努力の必要性を感じないではいられません。

学生時代を思い返せば、友達と過ごした楽しかった思い出とともに、もつと勉強しておけばよかったという後悔の念も少しあります。しかし、水大の先生をはじめ、先輩や友達と、多くの人々に助けられて、私も少しずつ輝けるようになってきたと自負しています。自分の仕事に自信が持てるようにもつとと輝きたい!!

皆さんも、学生時代を悔いのないように大いに楽しみ、自分のやりたいうことを見つけて輝いて下さい。

新任紹介

水産大学校勤務を発令されて

事務部長 竹内 俊 邦



響灘の潮騒を聞きながら、水産大学校と綾羅木の官舎を歩き来し

始めて早、九ヶ月がたとうとしています。

信州の山国から東京に出て、海に関係する水産庁に勤務、仕事上では、北は北海道の利尻、礼文島から南は沖縄の与那国島まで、全国各地に足を運ぶ機会に恵まれましたが、日々の生活はずっと東京でしたので、今回が東京に出てから初めての地方生活となりました。

私は漁政課での勤務が長かったため、本校には何度かお邪魔する機会があり見て来ましたが、今回見ました当校の施設は、昔の面影はほとんど無く、立派に整備されていることに感心しているところです。

このような学校と海に面した下関での生活は、ちよつと不安でもあり、また、初めて経験することからの期待感とが入り混じつてのスタートでしたが、周りの皆様方の暖かい

心情等により、どうやら生活にも慣れて参りました。

一方、水産大学校には、行政改革というとても大きな波が押し寄せておりますが、皆様方とともにこれを乗り越え、水産大学校が更に大きく発展できますよう、仕事は明るく楽しくをモットーに頑張つて参りたいと思つています。そして、下関の良さを十分味わいたいと思つて

水産大学校に赴任して

会計課長 佐々木 省 裕



昨年十月一日付けの異動で本校に赴任して半年が過ぎ、心地よい生活に少し慣れてきました。入庁時、配属先が現在の水産庁漁政課で、本校からの出向者がいたこと、また、当時課の倉庫にあつたラベルのない本校産の缶詰から下関に水大ありと、その存在だけは承知していましたが、三年前出張の途中初めて本校に立ち寄つた際、外回りを見学させてもらい、正直言つて施設の立派さに驚きを覚えました。下関の地は過去、戸畑と同様に大手水産会社の主要な漁

業基地であり、在庁の三分の一を遠洋底びき及びかつお・まぐろ漁業など遠洋漁業に携わつてきたものとして、遠洋漁業の縮小・厳しい状況下でのこの下関に何とも言えない思いがあります。水産資源は持続的利用が可能で、将来の食糧確保の観点からも極めて重要であり、このため、その増養殖、高度利用などのほか、先人達が開発してきた公海漁業を含め漁船漁業の維持確保が極めて重要であると考へております。その意味

で次の時代を担う若人に対する実学を重視する本校の役割が今後益々重要であり、今行政に求められる状況が厳しい中、本校の一員として努力していければと考へております。

練習船に再乗船して

耕洋丸機関長 末次 昂 之

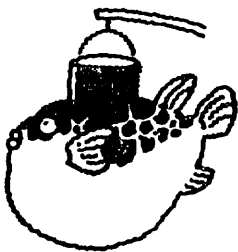


昭和四十四年の卒業以来二十四年間勤務してきた本校練習船から、

平成六年四月の九州調整事務所取締船白鷗丸への転船を皮切りに、本庁取締船白竜丸、東光丸と毎年取締船の転船を繰り返していましたが、平成九年四月に本校練習船耕洋丸に復帰しました。北方墓参航海、遠洋航

海と大きな航海を無事終え、早くも一年が過ぎようとしています。

練習船から離れ取締船に乗船して感じたことは、漁業の現場は非常に厳しいの一言につきます。東シナ海では、中国、韓国の小型漁船が大挙で押し寄せ操業を行つている現状では資源の枯渇は当然で、早急に排他的経済水域を設定し漁業資源の再生を図る必要を感じました。また、西オーストラリア、タスマン海域等での鮪操業取締りでは、各国の捕獲割当量の削減、操業海域の制限により、漁船が荒天のなか命がけで操業を行つているのを目の当たりにしました。今後、行政改革の中で本校がどのような位置づけになるか明確ではありませんが、練習船教育を行う立場として、「漁業は我が国の食料確保の根幹であり、船舶だけでなく各職種に即応できる力量を持った学生を育てる」ということを念頭に置き、乗船学生を指導していきたいと思つています。



天鷹丸赴任挨拶

天鷹丸船長 高 柳 進



平成九年四月一日付をもって天鷹丸に赴任し、はや一年が経ちま

した。練習船勤務はこれが二度目で、平成三年に一年間ほど耕洋丸の専任教官という職務で乗船したことがありますが、この時も今回と同様、何故私が練習船に配属されたのかよくわかりませんでした。

私は昭和四十年に本校を卒業後、日魯漁業鮪事業部に就職し、その後昭和四十六年に水産庁に移り現在に至つておりますが、船舶の人事異動の希望調書には、どの船でもいいと思つていますので、毎年「庁命に従う」の占張りで、多分この語句と水産大学校の卒業生だ、との思惑で練習船に配置されたものと思われまふ。練習船の業務は調査船や取締船のそれとは異質なものと思つています。また、士官の資格も違ふと思つてます。練習船の士官として残る、又は招聘される人物は、先ず教育に対するなみなみならぬ情熱を持つ人で、かつ、人格的にも成績も共に優秀な人材でなければならぬと思つています。ところが、私はこれらの資格には

程遠い人間でして、まったく自信がありません。こうなったら精一杯頑張るしかないと思っています。

初めての耕洋丸での一年、自分自身の苦労よりも、学生に悪いな、という思いで一杯でした。

そして今回の天鷹丸では今のところ、ただただ右往左往するだけです。が、何が学生の乗船実習のためになるのかを第一に考えていきたいと思っています。

赴任のご挨拶

天鷹丸機関長 佐藤 長 臣



平成九年
四月人事異
動で天鷹丸
機関長に任
命され、光
栄に思っ
て

おります。水産庁及び水産大学の関係者にまずは厚くお礼申し上げます。

私は水産庁船舶職員として調査船監視船に二十六年余乗船し、航海海域も世界一周を始め、南極海域、ベーリング海域、ニューヨーク海域、オーストラリア海域、アフリカ海域と世界ほとんどどの海域を航海してきた実績を有しております。現在の船舶の現状、外国の港湾事情、本校出身の水産庁船舶職員の活躍、そして、

これから新しい時代の船を目指す学生諸君への学生時代からの準備事項等を具体的に現場サイドから指摘し、時代の要請に答えられる練習船教育の一層の充実に努める所存です。

最後に今回の練習船勤務を通し、微力ではありますが母校・水産大学校のお役に立てば幸いです。今後とも、宜しくお願い申し上げます。

海洋環境と水産

水産情報経営学科 安 田 秀 一



環境問題は
今や人類
にとって最
重要課題の
一つです。

技術は、より快適な生活を求め、最先端の技術開発に大きな勢力を注いで来ましたが、この四半世紀は、様々な環境汚染の形で、そのつけが返ってきました。

私はこれまで工業技術院の研究所で、瀬戸内海を始め、琵琶湖やチェサピーク湾などの沿岸海域の環境に関わる研究に携わってきましたが、これまでの仕事は、ある事業に対するアセスメントを意識したモデルリングの一端として行ってきたように思います。指標を限定したモデルでは、それが技術的に高度であっても、海

の本当の姿を知ることとは不可能です。海の中では目に見えにくい変化が徐々に生じ、何らかの引き金によって、ある種の生物に壊滅的な影響を与える出来事も何度かありました。汚染によって引き起こされた生態系の変化は、回復不可能となることもあります。海洋生態系の研究をベラスにし、最も根本的な食糧問題と環境問題を扱う水産科学は、国策として地道に取り組むべき主要な研究課題であると考えます。

こちらに赴任して半年が過ぎようとしていますが、すでに水産科学の新たな分野にも触れたような気がしています。新設の水産情報経営学科の中では、最新の情報を取り入れ、尻拭いや儲けのためではない、人類の将来に役立つ海洋環境研究を目指したいと思っています。

特色のある科目に！

水産情報経営学科 立 平 進



昨年四月、
水産大学校
に赴任して
参りました。
大分県で生
まれ育ち、

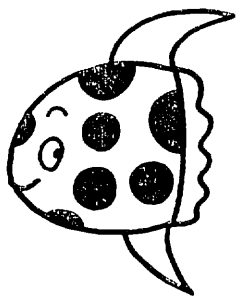
大学は東京で、長崎で二十三年間、社会勉強をいたしました。児玉先生の後任として歴史学を受け持っています。

ます。水産情報経営学科が始動いたしますと専門課程で水産史と水産民俗学を講義する予定です。

現在の歴史学では幅の広い学習をといて立場から、年間の四単位を四つに区分して授業を進めています。前期の歴史学Ⅰでは、史学概論的なものと考古学の入門的なものを扱いました。後期の歴史学Ⅱでは、文献史学的なものとして実際の史料を使って解説しています。さらに、近代史の理解を示すため民俗学的な資料も一部に応用しています。

このような試みは、本校のような理科系の大学で、幅の広い人材に育てていただくための良い機会ではないかと思っています。入学して一年次生の殆どが私の授業を選択しているのは、少々圧倒されますが、やりがいもあります。

自由な気持ちで、本校でも特色のある科目に育てあげていきたいと思っています。



水産大学校に着任して

海洋機械工学科 中 村 誠



平成九年
四月一日付
けで着任し
ました。講
義は、主に
電気・電子

工学の関連を担当しています。

私は、大学卒業後の四年間を民間企業で過ごしました。主な業務は、プラントの電気・制御設備の設計でした。対象のプラントは、山頂から海岸に及ぶ非常に広大な土地に設置された大規模なものでした。折しも、工期の短縮に、設計部門の深刻な人手不足も加わり、新人ながら面白い仕事を任せて頂いたことに、今でも感謝しています。その後、親元の事情で山口県へ十四年間勤めることになりました。職種は工業系試験研究機関の研究員で、業務は電子応用技術に関わる試験研究と、県内中小企業の研究開発の支援でした。その間に興味を覚えたのはファジイ理論です。これを基にいくつかの「人間―機械系」や「人間中心型システム」の構築などの実践的な研究に従事してきました。これらの研究開発は一般的に予算規模が大きく、かつ短期間に成果が問われることから、産官学の共同プロジェクトとして取り組

むものが多くありました。本校とのつきあひも、このようなプロジェクトの一つから始まりました。

着任後の本校に対する印象は、

「建家などの居住環境が小じんまりと良く整備されている」といったところですが、ただ、私が所属する講座では、昭和四十年代半ば迄に設置された研究設備(?)がほとんどで、更新もないまま温存(?)されてお

ります。ご存知のように、エレクトロニクスは技術革新が最も早く展開される分野の一つです。したがって、これらの設備に初めて接した際には、正直なところ学生時代に戻ったような錯覚と、ここまで大切に使用していることに対して一種の感動を覚えました。また、今後の学生の教育や自分の研究について、この状況下でどのように進展させ得るのかと、戸惑いを感じたことも事実です。

このような課題を抱えながら、慌ただしく日々が過ぎていきます。これらに対する回答は、時には外部機関の協力を得ながら、地道に一步ずつ進んで行く、ということですが、自分の人生に蓄えてきた産官学の経験を活かして、幅広く頑張っていきたいと思います。今年には厄年の私ですが、今後ともよろしく願っています。

はじめまして

海洋機械工学科 太 田 博 光



九七年四
月一日から
ここ水産大
学校海洋機
械工学科の
助手として

赴任している太田博光です。ここにくる前は佐賀大学大学院博士後期課程エネルギー物質科学専攻の学生をしていました。以前から下関にある水産大学校の名前は知っていました。がどのような目的で作られた大学なのか中にとどのような学部、学科があるのかということなどは全く知りませんでした。その程度の情報しか持っていなかったためいざ水産大学校へ行く段階になってみるとかなり不安感を持つようになりました。ただ海洋機械工学科には同じ佐賀大学の機械系工学科(現、機械システム工学科)から行かれた中岡勉教授、江副覚助教授さらに西田哲也講師の三名がおられることは非常に心強いことだと思えました。水産大学校は農林水産省系の大学校で五つの学科、水産情報経営学科、海洋生産管理学科、食品化学科、生物生産学科そして海洋機械工学科で構成されており、どの学科もユニークな教育、研究を

なりました。この水産大学校に来て最初に感じたことは教官たちが学生に対して非常に緊密で細やかな教育をしているなということでした。これは他の大学と比較して規模が小さいこともありませんが教官たちの気さくな人柄が最も影響しているのではないかと思えます。

後、感じたことは研究、教育機器施設などの質が一般的な地方の国立大学より優れている点だと思えます。現在、私が在籍しているのは海洋機器工学講座で主に材料、強度、機械工作などの研究、教育を行う講座です。私の専門は音響、騒音、ディジタル信号処理などですが現在は講座に則した研究、教育も行っています。

よろしく願います

海洋機械工学科 渡 邊 敏 晃



昨年の四月、海洋機械工学科海洋環境工学講座に着任しました。

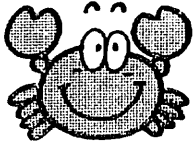
宜しく願います。出身は北海道旭川市、昨年の三月に室蘭工業大学大学院博士後期課程を修了し、オンポロ愛車と南下して参りました。下関には修士の時に一度訪れたことがありましたが、そのときにはこちら

にお世話になるとは思いもしており
ませんでした。さて、私の専門は一
言でいうと、熱流体工学です。学生
時代は低温流体の減圧沸騰（熱を加
える沸騰ではなく、液体を押しつけ
ている力を取り除くことにより起こ
る沸騰）に関する研究をしていまし
た。

こちらに移り住んでの下関の印象
は「道が狭くて複雑（その割に皆さ
んよくとばす）」、「風が強い」、「や
つぱりフグの町」といったところで
しょうか。水大は勉強、研究に没頭
するには誘惑が少なく、良いところ
にあると思います。

水大での研究としては海洋環境保
全を目的とした流体工学の応用、冷
凍工学分野における研究、相変化を
含む気液二相流の研究と三本柱でい
きたいと考えております。また、教
育面では非常勤講師、家庭教師の経
験を生かし、なるべくわかりやすく
なるよう努力していきたいと思いま
す。

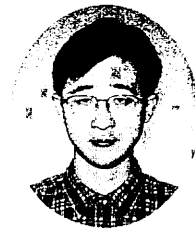
まだまだ未熟者ですが研究・教育
に邁進すべく頑張りますので宜しく
お願いします。



水産大学校卒業、そして着任

食品化学科 田 中 竜 介

(製造学科四十三期)



平成九年
十月一日付
で食品化学
科助手に任
命されました。私は、

平成五年水産大学校製造学科（現・
食品化学科）を卒業後、九州大学大
学院農学研究科に入学し平成九年九
月まで博士課程三年に在学していま
した。五年ぶりの母校は多くの建物
が新築、改装され、若輩の言うこと
ではありませんが年月の経過と言っ
たのを感じます。

私は健康食品として見直されてい
る水産食品に興味を持っています。中
でも青魚には高度不飽和脂肪酸の一
種であるEPA、DHAが多く含
まれる事は御存じかと思えます。高
度不飽和脂肪酸は動脈硬化、老化防
止に効果があり「頭がよくなる」と
まで極言される一方、空気中の酸素
と反応し易く、水産食品では褐変、
魚臭の原因となり品質、栄養の低下
につながります。そのため酸化を防
止する抗酸化物質の探索が必要とな
りますが、食品だけでなく生体内で
の酸化を考慮すると医薬的な面から
も要求されています。抗酸化物質の

探索はあらゆるエリアで行われ、私
は、未知の部分が多い海洋が抗酸化
物質の宝庫と考えています。水産大
学校は手の届く所に海があり、私の
研究を行う場所としてはふさわしい
と考えています。

今後とも皆様の暖かいご教示ご鞭
撻をよろしくお願い申し上げます。

水を得た魚

生物生産学科 高 木 基 裕



一九九七
年四月、水
産大学の
小野臨湖実
験実習場に
助手として

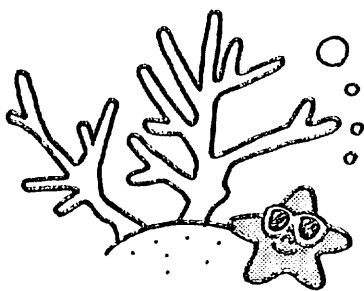
着任いたしました。一年が過ぎ、小
野湖の季節が移り変わるとともに、
ようやくこちらの水にも慣れてきま
した。

私は都会暮らしができないらしく、
これまでに長く生活した埼玉、滋賀
奄美、高知いずれも田舎でありまし
た。やはり今度も小野湖のほとりの
「同じ宇部市の一員なのか」と不思議に
思うほど空気のおいしいところ
であります。狸はあたりまえ、狐も
見ることができ、常々だまされな
いようにしなければと思っております。
さて、私の専門ですが、魚類の遺
伝・育種学であり、これまでは、主

に各種DNA多型解析手法を魚類遺
伝・育種学へ応用することでありま
した。DNAを用いることにより、
現代のキーワードの一つである「生
物の多様性」をより敏感に把握でき
るようになりました。今後は、これ
らの実験手段を用いて、独自性のある
研究を行いたいと思案中です。

現在、目標が二つあります。一つ
目は、水産大学校に着任したことを
機に研究者、教育者として、そして

「水を得た魚」として湖から川を下
り、大海原を遊泳すること。二つ目
は、技官の方が年休をとられた日な
どは、だれともしゃべらない日があ
りますが、決して独り言をいわない
こと。冗談はさておき、今後ともよ
ろしくお願いいたします。



クラブ紹介

ヨット部

日 高 健 雄
(漁業学科三年)

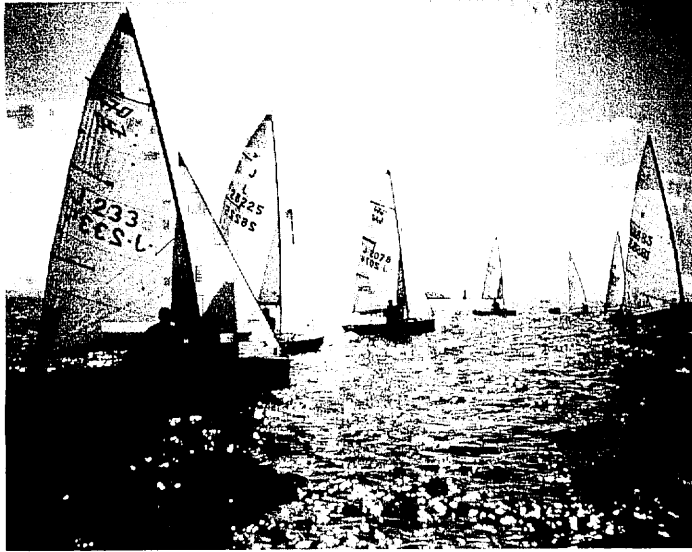
ヨットと言えば一九九六年に開かれたアトランタオリンピックでの四七〇級女子、重由美子・木下アリアシア組の銀メダルがみなさんの記憶に新しいかと思えます。

我々ヨット部はそれと同型のヨットに加えてスナイプ級、シーホッパー級の三種のヨット合計七艇で練習をしています。

ヨットが帆で走る船であるというのみなさん御存知かと思いますが、ヨットが何故真つすぐしかも風上に向かつて走れるのかということまではわからないかと思えます。少々難かしいかとは思いますが、原理としては飛行機が空を飛ぶ原理と同じで、揚力という力を利用して走ります。その飛行機の翼を縦にしたものがヨットのセールとなり、揚力に加え舵キール等を用いて初めて真つすぐ風上へと走ることが可能となります。レースでいかに速く走るかとなると艇のコントロールに加え、自然の力をうまく利用することが必要となってきます。ヨットをマスターするには五年かかると言われています。しかし大学生活は四年間しかなくこれ

からという時に引退となり、三年生全員やりきれない気持ちでいっぱいです。

我々ヨット部は現在部員数一四名で吉見の西のはずれにある下関市ヨット連盟に加盟しており、部活動の方もそこから出艇し春夏はほぼ毎日、秋冬は日の暮れが早い為、土日のみの練習となっています。また春、夏の長期休暇を利用して合宿も行っており、練習量では他の部活動に負けないと部員一同強い自信をもって日々練習しています。



我々の参加している大会は中国インカレ、中国・四国インカレ等のインカレの他に交流が主目的な大会もあり、年間を通して一番大きな大会が韓国との国際交流試合である関釜親善ヨットレースです。釜山市と下関市とで毎年交代で開催場所を受け持つて開かれるもので、今回は下関市側で開催されました。水大ヨット部が主管校としてレースの運営から宿泊の手配等、部員皆睡眠時間を削りながら手伝いをしました。レースに関しては韓国側の完全優勝となりましたが、この大会でお互いの国の文化や国内の事情、流行りの歌等様々な事を酒等を交わしながら教え合い交流を深めることができました。次回は日本側が韓国に行く年ですので皆今から楽しみにしています。

今年も冬も惜しまず練習し、春合宿では連盟の方を通じて世界でも指折りの選手に指導していただくことになっています。この合宿が無駄にならぬよう部員全員一丸となってインカレ優勝を目指して頑張っていくつもりです。

学生諸君にとっては、早期に積極的に企業等からの情報を得るよう活動すると共に、各学科担当教官から個別に緊密な指導を受ける等の対策が要求されます。

なお、平成九年度卒業予定者は、別表のとおり国・地方公務員、水産関連各種団体及び水産関連企業等に就職内定者の九三%が、本学での教育分野を活かすべく職場を選んでいきます。

学生部だより

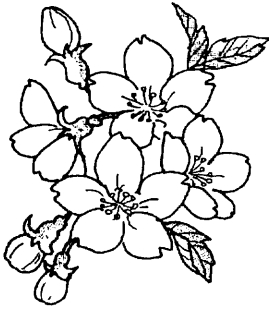
就職協定廃止に伴う現状について

日本の経済情勢が混沌している状況下、本年度から就職協定廃止という就職を希望する学生にとっては激動の年となりました。

このような、急激な環境変化の中で大企業の採用活動は一段と「早期化」し、中小企業にとっては景気低迷から「通年採用」の様相を見せる等、従来の採用方法を根幹から見直す動きもあります。

来年度の就職戦線について、「日経就職ガイド」担当者の情報では四月下旬までに企業説明会のピークを向かえ、五・六月中に採用試験が実施され、七月の夏季休業日前には就職戦線も一段落すると予想しています。

平成9年度卒業予定者進路状況 (平成10年2月26日現在)



(分類内訳)

各種団体=水産関係各種団体
 水産=水産関係・関連企業
 船舶=船舶・海事関連企業
 造機・造船=造機・造船関連企業
 食品=食品・関連企業
 その他の企業=その他の企業・
 自営業
 ※その他=国家・地方公務員・
 海技試験受験等の準備

区 分	学 科		漁業学 科	機 関 学 科	製 造 学 科	増 殖 学 科	研 究 科	計
	専 攻 科	船 舶 運 程						
卒業予定者数	23	13	52	44	46	31	8	217
進 学 関 係	大 学 院			1	1	3		5
	研 究 科			3	4		3	10
	専 攻 科			23	14			37
	研 究 生			1		2	4	7
	その他進学					1		1
計			27	19	4	11		61
就 職 関 係	国家公務員	3				1		4
	地方公務員	1		1		2	1	2
	各種団体		2	2	1	1		6
	水 産	4	1	14		7	12	1
	船 舶	9	7					
	造機・造船				18			2
	食 品			1	1	23	2	1
	その他の企業				3	7	1	
※その他	6	3	7	2	1	4	2	
計	23	13	25	25	42	20	8	
合 計	23	13	52	44	46	31	8	

平成9年度卒業予定者進路状況一覧表(平成10年3月卒業生)

(平成10年2月26日現在)

◎進 学(大学院等)	◎民 間 企 業	東 洋 水 産 (株)	タカギペーカリー(株)	山口ゼロックス(株)
北海道大学大学院	共同船舶(株)	中島水産(株)	いなば食品(株)	フタバ産業(株)
神戸商船大学大学院	阪九フェリー(株)	マルハ(株)	東海澱粉(株)	ニチモウ(株)
九州大学大学院	九州郵船(株)	大京魚類(株)	信田缶詰(株)	ポイント(株)
福山大学大学院	三光汽船(株)	横浜冷凍(株)	日本澱粉工業(株)	日東製網(株)
水産大学校研究科	琉球海運(株)	(株)福岡魚市場	近畿食品工業(株)	第一製網(株)
水産大学校専攻科	カストロール(株)	福岡中央魚市場(株)	Y O - Z U R I	日本配合飼料(株)
水産大学校研究生	大洋フェリー(株)	ニチモウマリフォームシステム(株)	日立機電工業(株)	オープン化粧品(株)
その他進学	東洋理リーファライン(株)	キュービー(株)	(株)西島製作所	藤原産業(株)
◎就 職(官公庁)	ナビックステクノトレード(株)	ロイヤル(株)	日本エービーエス(株)	(株)正 栄
農林水産省職員	(株)海洋技術開発	井村屋製菓(株)	リョービ(株)	(株)マイカルジェクスマック
文部省職員	日本海洋事業(株)	大栄大源(株)	(株)前川製作所	パラダイビングスクール(株)
北海道庁職員	フジトランスコーポレーション(株)	一番食品(株)	キタムラ機械(株)	大岡技研(株)
静岡県庁職員	新日本海事(株)	(株)秋川牧園	三光産業(株)	大平電業(株)
愛知県庁職員	岩手魚類(株)	(株)MMC食品研究所	ヤンマーエンジニアリング(株)	大分臨海興業(株)
山口県警	中国水産(株)	(株)クラ寿司	ハイテック(株)	有明技研(株)
東京消防庁職員	日本鯔鱈漁業開(株)	松田食品(株)	ダイキンプラント(株)	川崎油工(株)
北九州市職員	東都水産(株)	石井食品(株)	日本クラウンコルク(株)	ミヤコ化学(株)
下関市役所職員	大東魚類(株)	イカリ消毒(株)	ニチモウプロダック(株)	(株)日本無線電気サービス社
◎水産関係各種団体	大阪魚市場(株)	松月堂パン	カミハタ養殖グループ(株)	三洋コンサルタント(株)
名古屋港管理組合	北九州魚市場(株)	いずみ製菓(株)	日本総合科学(株)	寿 屋
鳥後町村組合	大栄水産(株)	ヤマコ(株)	J R 九州(株)	日本工作所(株)
隠岐合同庁舎	大 洋 水 産 (株)	日 本 ハ ム (株)	神戸発動機(株)	自 営 業
新日本検定協会	田 崎 真 珠 (株)	伊 藤 ハ ム (株)	ヤマハ発動機(株)	ダイビングインストラクター
兵庫県漁業協同組合連合会	(株) 極 洋	ケンコーマヨネーズ(株)	吉田工業(株)	海技免許受験等・その他
全国共済水産漁業協同連合会	(株) ニ チ ロ	スーパードヤ(株)	(株) T S T	
長崎県漁業組合協同組合連合会				

平成一〇年度 入試概況

本校の平成一〇年度入試は、本校の存在が根底から問われる中で、かつ、各大学が押し並べて志願者を減少させているという、内外ともに極めて厳しい条件の下に実施され、志願者の動向が注目された入試でもあった。

結果は、志願者総数で対前年比で一割の減、応募倍率は〇・八倍減の七・三倍と当初予測された大幅な落ち込みは杞憂であった。

一般入試の学科別の応募状況は、海洋生産管理学科一四九名(募集人員三二名)に対する応募倍率四・七倍、海洋機械工学科一三三名(同三・八倍)、食品化学科一七一名(同五・三倍)、生物生産学科四三〇名(募集人員二四名)に対する応募倍率(一七・九倍)で、海洋生産管理、食品化学両学科の応募者減が目立ち、他の学科は、ほぼ前年並みの応募者を確保できた。

また、先に行われた推薦入試には、全体で八〇名が応募し、海洋生産管理学科一三名、海洋機械工学科一三名、食品化学科一〇名及び生物生産学科六名の計四二名が合格している。一般入試は、平成一〇年二月一日に下関・東京・大阪の各試験場で実施され、二月二四日に合格者を発

表したところである。次年度以降の学生募集に関しては、十八才人口の減少が現実に応募者減として各大学を直撃することとなり、大学間の生き残りを懸けた受験生確保競争は熾烈になると思われるが、本校の特色を前面に出し、魅力ある大学作りを進める中で対応して行く所存であります。

人物往来

〔平成九年度〕

〔水産特論講師〕

七月四日

水産庁企画課長

七月一〇日

水産庁研究課長

一〇月二二日

水産庁水産流通課長

〔叙位・叙勲〕

四月二十九日 勲三等瑞宝章

〔名誉教授〕

六月一三日

六月一三日

六月一三日

〔博士号取得〕

三月二七日

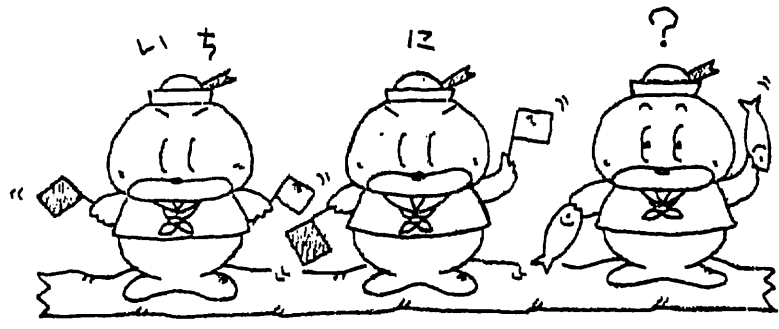
〔計報〕

一月一七日

編集後記

学内には殆ど毎年、新しい建物が建ち、現在も全学科が共同利用し、教育、研究を行うための共同研究棟が建設中です。これらハード面の整備に加えて、学科改組というソフト面の充実により、教育、研究の一層の向上が期待できます。

ご多忙の中、多くの方からご寄稿いただき有難うございました。今回の原稿が集まり始めた時に、学内の他の委員会に出席した際、学園だより在校生のために就職のガイダンスとなるような記事を掲載してみたいかどうかという意見がありました。他大学では、学内の広報誌に就職に関する特集記事を載せているところが多くあります。この経済不況で就職難の時に、一考の価値がある意見だと思いました。残念ながら、今回は編集途中でのご意見でしたので見送らざるを得ませんでした。今後の編集方針に生かしたいと思っています。



工学博士 前田 和幸
 (海洋機械工学科) 山浦 寿幸

(元校長) 松生 洽
 (元校養学科教授) 兒玉 識
 (元機関学科教授) 金岡 浩

鶴田 新生 (名誉教授)
 高橋 博

林 建之
 杉浦 正悟



水産大学校
 ⑦759-6595
 下関市永田本町
 2丁目7-1
 発行
 学園だより
 学園編集委員会
 電話0832(86)5111

校長就任にあたって

水産大学校長 三本 善昭



水産大学の改組、行政改革という大きな問題に、先頭に立って取り組んでおられた村上前校長が、突然体調を悪くされて退官され、その後任として平成十年十月十六日付けで水産庁中央水産研究所長から、就任いたしました。

私は直前まで水産大学の校長に就くなどということは夢にも思いませんでしたので、大きい不安と懸念がありました。現下の水産大学を取り巻く状況を顧み、また、水産業を支える人材を送り出すという水産大学校の使命を考えますと、空白が一刻も許されない重要な職責であると

考えてお引き受けした次第であります。なお、水産大学校は、私が三十三年間過ごして参りました水産庁研究所と同じ農林水産省付属の機関ということもあり、また、水産業関係の研究、教育、行政の分野には、研究所での仕事をとおしての知己も幸に多いことから、学内に加えて、これらの方々のご支援ご協力を得て大学校運営の任に当たっていきたいと考えているところであります。

ところで、水産大学校の学生が将来活躍することを期待されている水産業界が求めていることを簡単に述べますと、わが国においても国連海洋法条約が発効し、新しい海洋秩序の時代に適切に対応していくということが第一であります。

新海洋秩序の下では、国際慣習として長い間定着してきた「海洋は自由である」とする考え方、この原則により、わが国漁業は漁場を拡大し生産量を飛躍的に増大させ、水産物

を供給して国民生活を支えてきたわけですが、大きく方向転換すること余儀なくされる状況になっていきます。すなわち、国連海洋法条約の規定では、沿岸国は二〇〇海里までの範囲で排他的経済水域を設定でき、その水域における生物資源についての主権的権利を有することになり、二〇〇海里体制が名実ともに確立されたわけです。このことにより、わが国は遠洋漁業から撤退する一方、国土面積の約一〇倍の排他的経済水域の設定するところとなり、この水域内の水産資源を効率的に管理し、国民に安定的に供給していくことが大きな課題になっていきます。なお、わが国二〇〇海里内では漁業対象種のみならず漁業対象種以外の生物、さらに、海洋生態系の保全という新しい概念のもとで、環境と調和した漁業を開発することが漁業先進国としての責務になっております。

もう一つの重要な点は、国際社会では新たな行動原則として「持続可能な開発」が一般的な合意となっていることでもあります。すなわち、世界的にみても水産資源は有限であり、さらに、環境の悪化の進行により、最悪の場合には二〇一〇年に人間の直接消費のための年間供給量は四千万トンに落ち込むとの厳しい予想もなされており、水産資源は厳しい状況に置かれていることから、水産資源を世界人類全体の財産として、そ

の持続的利用に寄与していくグローバルな視点も求められていることでもあります。

二十一世紀の水産業は上記のほかにも多くの課題を抱えておりますが、そのような時代は、新しい発想、意欲のある人材にとっては活躍の絶好の機会でもあります。

二十一世紀に向けて人類のために必要不可欠な産業である水産業のフロントイアを拓くという大きな夢に積極的に挑戦できる先見性を持つ人材を社会に送り出すことが農林水産省所管の水産大学校の責務であると考えております。

しかし、大学生生活は勉強だけであってはならないと思っております。私自身の研究者として過ごしてきた三十数年間を振り返ると、学生生活の四年間は、友人や先生と人生を語り、世情を憂い、学問を論じて過ごした時代であり、この時期に得た経験や友人は今も掛け替えのない財産となっておりまして。現在の社会では、何事にも効率化が求められ、水産大学も行政改革の荒波に洗われておりますが、せめて、水産大学校では余裕のある学園生活を楽しんでほしい。そのように過ごせる大学校となるよう微力ながら尽力してまいりたいと考えておりますので、ご父兄の皆様および関係者各位におかれましてもご協力を切にお願いする次第であります。

就職関連特集

特集記事へのご案内

編集部

一昨年度から就職協定は廃止され、原則的に自由な活動・採用ができるようになりました。就職活動の遅れは早い段階でチャンスを失うことにもつながります。また、景気は厳しい局面を迎えており、雇用環境は樂觀を許さない状況です。他大学では、学内の広報誌に就職関連の特集記事を載せているところが多くあります。このような状況を考慮して、今回は新しい試みとして就職に関する特集を組むことにしました。記事の内容は、公務の傍ら学生の就職のお世話をなさっている先生方の記事と自分の希望する職種あるいは企業に内定が決まった学生の記事に大別されます。学生の就職の心配もされておられる四学科の学科長にはこれまでのご経験から最近の就職戦線の印象を簡潔に述べていただくとともに、就職対策委員長から就職活動に当たっての心構えをご教示いただきました。また、努力のかいあって自分の希望する職種あるいは企業に内定が決まった学生お二人に試験勉強の仕方や就職活動の方法について、経験を述べていただきました。なお、編集部の都合で昨年十二月時点の就職状況

を年頭にお書きいただきました。この特集が、皆さんの就職活動に少しでもお役に立てれば、と願っております。

海洋生産管理学科

学科長 藤石昭生

日本経済は本年度に入っても回復基調が見られず、本校卒業予定者の就職戦線も例年になく厳しい状況で推移している。本年度の就職状況は平成十年十二月現在、昨年度のそれに比べて悪く、本科の五十一名の卒業予定者中、専攻科・研究科進学者が二三名、就職内定者が一七名、未定者が一名であり、専攻科では一六名の修了予定者中、七名が未定者である。これらの未定者の中には口頭で内定の通知を受けた者も含まれているので、事実上の未定者はかなり減少する。また、本科生の一名の中には、他大学の大学院受験・来年度の公務員試験や特定の団体にチャレンジする準備に入った学生も含まれる。以上を総合すると、進路決定者は八〇パーセント以上には達するであろう。例年師走を迎えると、求人案内も激減し、入社試験や面接試験を受ける機会は極めて少なくなる。以上の実態を深く認識して、この時期以降に進路を決めなければならぬ学生諸君は選択の幅も狭いことを

覚悟すべきである。文部省の平成十年「学校基本調査」…大学の進学・就職等に関する卒業後の状況調査…によると、本年三月の大学学部卒業者は全国で五十二万八千六百八十九人強、大学院への進学者が四万九千五百人強、就職者が三十四万六千九百人弱となっている。つまり、就職率は六五パーセント程度であつて、過去最低の水準であると指摘している。本学科の現在までの就職内定率から類推すると、全国レベルより高いが満足すべき状況にはない。

さて、例年の学生諸君の就職活動を見ると、新学期前の春休み期間中に会社訪問を自主的に行つた学生もいる。訪問した企業は一社に限らず複数に及び、新学期開始後も積極的に会社を訪問する学生も多い。この種の事前活動については、本校OBを介して人物紹介を実施したり、学科内の教官各位にも各種の応援をお願いしているところである。会社訪問は自己をPRするよい機会である。そのPR技術に一工夫しているのでないか。履歴書の「志望の理由」の説明欄に、幼稚な文章しか書けなければ知的レベルを疑われる。企業側は、将来性や指導的立場に成長すること期待して内定通知を出すのであるから学生側のルール無視は極度に非難される。例えば、早い段階で内定通知を受け取り、三月の卒業直前になつて、学生側から一方的な入社辞

退の申し入れなどである。こうした非礼は翌年の受験希望者への大きなマイナス要因となる。最後に、職種別内定者の概要を下記に紹介する(平成十年十二月八日現在)

- 本科(在学五十一名)
 - 水産・食品関係企業・・・十四名
 - 水産関係団体・・・二名
 - その他企業・・・一名
 - 進学(専攻科)・・・二十三名
 - (研究科二名を含む)
- 専攻科(在学十六名)
 - 船舶(国家公務員)・・・二名
 - 船舶(企業)・・・四名
 - 海事関係企業・・・二名
 - 地方公務員・・・一名

平成六年度の研究科充足以来、本年度に初めて「修士」資格の求人案内が届いた。

海洋機械工学科

学科長 吉原 計 一

学生諸君の就職活動に関して、参考になるような最近的特徴的なことを書く様にとの依頼を受け、筆をとりました。バブル崩壊後の不況と金融制度改革の影響による複合不況による景気の低迷で、新卒者の就職活動はきわめて厳しい状況におかれています。

今回は、企業の採用担当者との応

対並びに一部新聞の報道などで得られた情報を紹介いたします。

大卒者に対する企業の最近の採用活動には、将来の幹部となる優れた人材を確保しようとして、活動の開始が早期化し、期間は長期化する傾向が見られます。これによって、早いところでは面接試験が四月中旬から始まり、遅くとも五月の連休明けから第一回目が行われる例が多く、優良企業では五月いっぱいが一次試験の期的目処とも言われています。

これに対する学生側の準備としては、前年の年末位から会社の資料集めをはじめ、当年の三月には必要なものが手元にある状態が望まれます。試験の種類とその準備についての説明はその種のマニュアルに譲るとして、学生諸君が是非検討して備えるべき点は、自分の希望と能力(自分は何がしたい、何が出来るか)、志望の理由(何故その会社、職種を選んだのか)及び選択の際の優先順位(仕事の内容、収入、勤務地、休暇日数などの内、何を最も優先させるか)を明確にすることです。

自己希望と能力については、仕事に対する関心の度合い、自分の性格特徴などをよく知ることです。また、遣りたいことと出来ることは違うので、能力を知ること肝要なことです。実際に、能力を客観的に知り、力をつけるには、専門の問題を解くことが必要になります。企業の

求めるものは、本質的な専門の基礎力と発想の転換などの応用・展開力です。将来の幹部として求められるのは、管理能力のある人、論理的に意見の言える人だと言われています。

志望の理由としては、企業の内容を知り、自分が遣りたいことが業務内容と合致するとか、社風と自分の生活信条が合うなど、相手に納得して貰える理由を考えておくことは必要なことです。会社によって社風も異なるし、業務分野によって要求される適性も違います。自分の性格との相性は将来の職場環境や昇進並びに人生設計、家庭生活にも関係して来ます。

次に、面接試験の重要性を認識して下さい。面接試験では、ペーパーテストで見えない処、足りない面を見ることになり、性格、特徴、人間関係能力などを総合的に判断されます。飾らない自分を出し、ハッキリと発言し、さわやかな印象を与えることが大切です。

人間関係能力は、チームワークで仕事をやる組織では極めて大事なものです。技術系の採用においても、企業の人事担当者が重要視している事項です。短期間に醸成出来るものではありませんが、学生時代は人や書物から学び、自分を陶冶出来る一番良い時期です。

会社について言うならば、テレビや新聞雑誌などのCMでよく知られ

ている企業が優良企業とは限りません。大幅な赤字を隠しながら倒産直前まで宣伝する企業もある位です。規模は小さくても、確かな見通し、独自の方針や他にない技術を持つている堅実な企業は優良企業と言えます。

雇用情勢は極めて厳しいが、採用人事担当者の言外には質の良い人材の不足を感じさせるものがあります。その意味で学生諸君が真の実力を備えて臨めば道は狭くないと言えます。要は、自分がしっかりと目標を持って、会社を選び、挑戦し、実力で評価を勝ち取ることです。

学生諸君の努力が実ることを祈っています。

食品化学科

学科長 原田勝彦

平成九年より就職協定の廃止ということであったが、本年も以前と求人企業数、求人数、職種や締切日も変わらないように思える。というのは多くの多くの食品関連企業がそんなに慌てていないようであるし、技術系は一般公募が多くなったというものの、かなり固定されて採用を行っている企業が多いからである。

しかし、食品関連企業では、厳しい環境の余波を受けるのは、ボクシングのボディーブローであるといわれ

次年はより厳しい就職戦線になる可能性を指摘する企業も見られます。

人生の重要課題の中で、出生と死亡は自分自身で選択できないのに対して、就職と配偶者は自分自身で選択できるといわれています。このような観点から、企業への就職を決定するに当たり充分考慮しても過ぎることはありません。つまり今なお、終身雇用の強い会社においてはなおさらでしょう。働きたいがあり、将来性のある企業を念頭において選ぶべきですが、本人の考えが大きく左右することは間違いありません。とはいいながら、就職環境は厳しい環境にあり、選択すると言っても、一方的な学生の選択とはならない条件(障害)が多くなっているのが現状でしょう。この条件(障害)とは企業の求める学生の能力と適性が厳しくなってきたからです。学業成績が優秀であることは絶対条件ではなくなり、積極性、努力、実行、協調性のいずれかがまた複合的に多くの企業に求められています。このような状況を踏まえて、企業の求めている学生像と学生の求めている企業を一致させることが選択に重要な役目を果たすはずはです。

学生、企業と生徒の間には、信頼の上に基づいた密接な三角関係が成り立っていることを学生に説明してきましたし、求めてきました。これは長い間に培われてきた最適な関

係と考えられます。現在もこの関係は多く機能していると云えますが、必ずしもうまく機能しているとは言えません。三者のどこかで不都合があれば、連鎖します。例えば学生と学校との関係で、企業訪問はいくらでも自由であるが、ひそかに複数の企業を同時に「受験」することはいろいろの問題を含んでいます。企業と学校間にも不信を醸し出す原因となつてゐる。同時の複数受験を避けるように強く要請しているところで、職業の選択の自由を考慮しながら、三者間の信頼関係を更に強めて、男女学生に多くの企業メニューの中から最適な企業を選ぶように努力していきたい。最後に履歴書は多くの間違いが見られるので、充分推敲して、卒論指導教官に校閲を受けることを希望しておきたい。

生物生産学科

学科長 鬼頭 鈞

今年度の就職は前年度にも増して一段と厳しいものがありました。本学科で今春卒業を予定されている四年生は四六人います。例年であればほぼ全員がなんらかの形で就職の目途がついているはずの十二月においても、まだ行き先のはっきりしない学生は男子が七人女子が二人いました。もっとも内三人は公務員志望で、

今年再度挑戦するようです。それにしてもこの十二月の時期にまだ六人の未定者がいたことは、近年にないことで誠に頭の痛い話です。

本年度の就職戦線が始まってしばらくして、これは大変だなと思つたのは、企業がなかなか内定を出してくれないということでした。そして夏も過ぎてとうに就職戦線も終結しかけたころ、突然不採用の通知を送り付けてくるのです。とりわけ女子採用については厳しいものがあります。転勤の問題、残業それに勤続性等といった問題を抱えている女子学生はどうしても敬遠されがちのようです。

不景気になると学生は少しでも安定した職種を考えると、このところ公務員志向が強まっています。どの県でも、水産専門の上級職一名程の公募があると、受験者が四〇―五〇人集まります。それも殆どが、大学受験の時と同じ様な受験勉強をしてきた学生がです。

このような厳しい状況ではありますが、救われるのは多くの学生諸君がそれほど深刻には受け止めていないということです。彼らは大変おおらかに育っています。彼らが就職時に最も気にすることは、給料の額ではなくて、土日が完全に休みかどうかということ。公務員になりたというの、休みがきちんと決まっているからというのが主な理由

の一つのようです。人の役に立ちたいからといった高尚なものではないからといって、従って、公務員なら別に水産職でなくても、警察官でも、消防士でも自衛隊でも、何でもよいわけです。事実これらの職種をとつかえひつかえ受験する学生が多いのには驚きます。逆に、彼らが最も気が進まない職種が、魚市場のような人とは違った時間帯に働かなければならない職業のようです。彼らにとつては友達と一緒のアフター5やウィークエンドの生活が、職場の仕事と同様大切な要素の一つなのです。

多くの若者が水族館を希望してあります。その割りに実現しないのは、この分野の就職が一部の私立大学に古くから押さえられていて、ガードが固く、食い込む余地がないからでしょう。水産という職場について、若者は既成概念にとらわれず、全く新しい発想でつき進んでいくことがよくあります。その結果、一つでも新しい分野に誰かが進出してくれれば結構なことだと思います。一面識もない方々に、慣れないお願いの電話をし続ける毎日です。

就職のための準備と心得

就職対策委員長 高橋 幸則

昨年度、好転するかに見えた学生

の就職戦線は、今年度になつて一段と厳しさを増しています。労働省及び文部省の調査によると、平成九年の十月一日現在における大学生の就職内定率は七三・六%であったのに対して、平成十年十月一日現在のそれは六七・五%（男子七一・三%、女子五九・二%）と約六%低下しており、来年度はさらに厳しくなることが必至の状況にあります。

本校では、就職戦線が厳しくなることを見越して全国の国立大学に先駆け、六年前から日経就職ガイド・ディスコ社にお願いして就職ガイド・デスを開催しています。このガイド・デスによって、地方に住む本校学生は驚くべき就職戦線の実態を知って大きな刺激を受けたことでしょう。

例えば、本校学生が企業に資料請求する会社数は、四社程度であるのに対して、その全国平均は八四・七社であり、本校学生が企業訪問する会社数が約三社であるのに対して、全国平均は一七・八社にも及んでいません。さらに、平成九年の就職協定の廃止以降、企業の採用活動が早い時期から開始されるようになったことに伴って、学生の就職活動も早くから行われ始めました。全国的にみると、企業への資料請求が前年の十二月から始まり二月前半がピークで、会社訪問は二月前半から始まり、五月前半がピークとなつていきます。興味深いことは、採用内定を得た学生

のほとんどが二月前半までに資料請求を行い、四月前半から五月後半までには会社訪問を終えているのに対して、採用内定が得られていない学生のほとんどが、三月後半までに資料請求を行い、四月後半から七月に会社訪問を行っていることです。このことは、就職のための準備と行動が遅れると、就職が益々困難になることを意味しているものと思われ、早い時期から次のような綿密なスケジュールを立て、入社試験のための周到な準備をする必要があります。

まず、本校が毎年十一月頃開催する就職ガイダンスを必ず受講し、十二月には自分がどのような職業に適し、どのような仕事をしたのかを自己分析しておくとともに、多くの情報に基づいて業界及び企業についての研究を開始すべきです。また、公務員志望者はかなり早期から、企業志望者においては十二月頃から、筆記試験及び適性試験のための対策を開始したいものです。年が明けた一月からは興味のある企業に資料請求を開始し、二月には志望動機と自己PR案をまとめておくとともに面接の練習を始めるようにしよう。

三月は、自分が希望する業界及び企業を絞り込み、会社セミナー実施日程の問い合わせと申し込みを行う時期です。四月には会社訪問を開始し、企業説明会に参加して、入社試験

に備えましょう。最近では、ほとんどの会社が四月後半から六月にかけて入社試験を実施していますので、早めに志望書と推薦書を提出し、志望動機や自己PR案を十分練り直して本試験に臨んで下さい。

日本経済の著しい低迷によって、企業等は求人数を減らし、質の高い学生しか採用しなくなりました。企業が学生一人を雇用すると、定年の六十歳までに三億一千万円もの経費を必要とすることから、次のような特長を有する優れた人材を厳選し始めたことは当然の理といえるでしょう。すなわち、企業、官公庁、団体などのあらゆる組織が共通して求めている人材は、①光り輝くものをもちいきいきとした学生 ②自分のセールスポイントをもっている学生 ③物事に対して常に前向きに考え夢を抱いている学生 ④しつかりとした自分の考えをもち行動する学生です。

このような社会のニーズに応えるためには、日常の学生生活にめりはりをつけ、授業、実験・実習、卒論研究、クラブ活動など、何事にも意欲的に取り組んで自己を確立しておく必要があります。そして、一日も早く自分がどのような能力を持ち、どのような職業に適し、どのような仕事をしたのかを客観的に自己評価し、分析しておくことが重要です。そのうえで、どのような職種が自分

にとって最も好ましい職業であるかを明確にしたのちに、就職戦線に臨んでほしいと思います。

ある公務員勉強法

山下 亜純

(増殖学科四十五期 愛媛県上級職内定)

不況を反映してか、ここ最近、公務員を目指す学生が増加し、信じられないような倍率でしのぎを削っています。本年度まで私自身もその中の一人でありました。その経験をふまえ、公務員受験に対する私なりの考えを述べたいと思います。私の話が今後公務員を目指す人たちの参考になれば幸いです。

さて、皆さんが感じている公務員のイメージとは一体どんなものでしょうか。一般的な公務員のイメージとは安定した収入で、解雇されることのないと言った所でしょう。しかしながら、現在の社会情勢をみるとこれらの事が必ずしも当てはまるとは思えません。国家レベルではすでに行政改革の一環として公務員数を削減する政策が検討されています。県のレベルでも将来、国と同様の政策が行われる事が十分予想されます。事実、公務員の募集人数は減少傾向にあり、一部の県では給与の据え置きやボーナスカット等、私達が抱く公務員像を根底から覆すよう

な状況がみられるようになってきました。今までのように公務員になってしまえば安泰という様な考えは極めて危険なものではないでしょうか。

そのような観点から、私は公務員になることを最大の目標にはせず、水産の技術職に就くことを最大の目標に置いていました。そのため、自分自身の中では公務員受験を過程の中の一部分として捉え、合格を最優先に考えた勉強は極力避けるようにしていました。具体的に言うところ合格する為に必要最小限程度の知識をただ暗記するのではなく、どんな分野に対しても興味を持てるように時には専門書を読んだり、時には最近の研究例を見たりと、自分自身の知識の幅が広がるような勉強を心がけました。受験勉強としては大変効率が悪い方法ですが、将来的には自己啓発も兼ねた有効な勉強法の一つだと私は考えます。

遅かれ早かれ公務員の世界でもリストラが行われるような時代が来るでしょう。その時に生き残れるかどうかは自分自身の力で決まります。これから公務員を目指す皆さん、合格の為だけの勉強ではなく、自分自身の知識の幅を広げるような勉強をしてみてはいかがですか。その方が自分自身の実力アップにもつながるし、何よりも遊びたい盛りに大切な時間を使ってせっかくな勉強する

のですから・・・。
最後に後輩諸君の健闘を心からお祈りいたします。

就職活動について

岡 頼 幸

(製造学科四年 山崎製パン内定)

この就職難の時代に、内定をもらうことはもちろん難しいことだと皆さんお考えでしょう。しかし僕は、そう一概には言えないのではないかと考えます。この不況の中で企業はどのような人材を求めているかという、有能で会社の為貢献してくれる人を今まで以上に要求してきています。だから自分はこの会社に本当に入りたいのだという気持ちを素直におつけければ、必ず道は開かれると思います。僕の就職活動は次のように行いました。

まず少しでも気になった企業に資料請求したり、インターネットで調べたり、大学にある資料を使ったり、その企業に就職されているOBの先輩とコンタクトをとったりして、経営状態、労働条件や時間、待遇、勤務地、職場環境、職種、手などを詳しく調べました。そして自分の将来を預けられるか、本当に自分のやりたい仕事か、条件は整っているかどうかなどを検討してみました。また就職活動や大学の試験の合間

を見て、SPIの練習をしていました。今、多くの企業で筆記試験として用いているのがSPIです。暇を見つけて勉強しておくことを進めます。それほど問題自体は難しくないので、問題数が多いのが特徴です。練習しておくといふ心構えも変わってくると思います。

そして受けるセミナーを四社までにしほりこみました。セミナーを受けて、最終的にその中で本当に僕が受けたと思った企業を二社受けました。二社ともに成績表、筆記、面接で採用試験は行われました。成績は平均的でしたが、筆記試験は二社とも自信がありませんでした。しかし結果は、自慢ではありませんが、一社は最終試験で辞退、もう一社は内定をもらいました。

ではなぜ内定をもらえることができたのかというと、それは面接です。内定への最も近い道は、面接だと僕は考えます。企業は人柄、性格、人間性などを重視し、企業に対し受験者はどのくらい興味を持っているのか、入社への意志はどのくらい強いのかなどを見られます。どのような事が聞かれるかある程度予測したり、自分の考えをまとめておいてしっかり準備しておく必要があります。また面接では、自分に自信を持つ、その企業に対して質問を考えておく、姿勢をよくして元気よくハキハキと答える、最後まであきらめずにがん

ばる、などに注意して挑みました。初めに言いましたように、世間は不況の時代です。しかし僕は、不況だからこそしっかりと就職活動ができたのではないかと考えています。来年四年生の方は自分の進みたい道をしつかりと見極め、悔いの残らない就職活動となるようにがんばってください。少しでもこれを読んで参考となれば幸いです。

在校生の声

私の『野性の呼び声』

高橋 左 府

(専攻科船舶運航課程)

海洋生産管理学科(旧漁業学科)四年次からの遠洋航海に引き続き、専攻科船舶運航課程のカリキュラムは、四月から九月末までの乗船実習と十月からの吉見キャンパスでの講義で構成されています。十一月現在、乗船実習における練習船の航行区域がマレーシア・インド洋・シンガポール・沖繩と暑いところ尽くめでこの時期の日本の寒さを忘れていたためか、季節風の吹く吉見の気温がなんだか妙に寒く感じられます。乗船実習中の出来事について思い起こすと、強烈な印象として残って

いるのがマグロ操業実習です。実習における漁獲対象は、メバチマグロ・キハダマグロ(小売店で刺身用として売っているもの)であり、主に太平洋やインド洋の亜熱帯・熱帯海域に生息するものです。練習船は波の高い太平洋、中国・韓国漁船の多い東シナ海を南下し、穏やかで所々にカツヤクを浮かべる南シナ海を横切り、さらには海賊の多いマラッカ海峡を北上し、赤道直下のインド洋に向かいます。マグロ操業は、延縄の仕掛け作りから始まり、魚探、投縄、揚縄、魚体の処理といった一連の作業でも忙しく、操業中において船内には活気があふれています。マグロとの駆け引きや捕れた時のうれしさにおいては、ジャック・ロンドン著『野性の呼び声』ならぬ、自分の中に存在する『野性の呼び声』を、瞬間ではありますが『聞いた』気がしたことを今でも鮮明に覚えています。そしてこれこそがこの学校で自分が学びたかった、感じたかったことであつたのではないかと考えたりしました。

船内生活における人間関係、クラブ活動、又は趣味として行ってきた自転車競技。そういった在学中での自分を取り巻く出来事においては、楽しさよりも厳しさ、または挫折等も味わいました。将来社会に出てから、そのような経験を生かし、自分なりの人生を歩んでいきたいと意気

込んでいるところです。

大学時代を振り返って

山根美沙
(増殖学科四年)

皆さんは将来、何かをやりたいという具体的な目的をもって大学を選び、入学したのだろうか。おそらく自分は何々をしたい、と強い意志をもって入学してきた人もいれば何となく入学した人もいるだろう。私はどちらかという後者であった。

私は昔飼っていた魚が病気になる、この魚に正露丸を与えたところ病気が回復したことから魚病に興味を持ち、また生物が好きだったこともあり水産大学校に入学した。しかし将来何になりたいといった具体的な職業観を築き上げていなかった私は大学三年間を何となく過ごしていった。そして、四年になり就職活動をするうちにある一つの事が心に残った。私はこの大学四年間に何か本当に打ち込んだことはあっただろうか。

私は大学三年生までは部活動に励み、また日々の大学の講義もそれなりに真面目に取り組んできた。しかし大学に入学した当初から就職のことしか頭になく、大学四年生の前半は就職活動にばかり励んでしまった。そして就職活動が一段落したころ卒

論指導教官に「就職のための勉強ばかりしてきた人は社会に出ると駄目になる」と忠告された。それまでの私は自分のやりたいことがはっきりせず、将来やりたい仕事を描けていなかった。だが、このような私に指導教官は時に厳しく時に優しい助言を与え、未熟者の私を成長させて下さった。

今、私は植物学を専攻しているが将来は藻場造成により水産資源を増やし、未来の水産業に貢献したいと思っている。また植物学の知識を生かして地球環境にも貢献できたら本望だと思っている。大学の四年間は何か自分のやりたいことを見つけたために社会が与えた最後のチャンスだと私は思う。水産大学校は教官と学生の距離が非常に近く、先生に質問や相談をしやすい学校であると私は思う。皆さんもこのような恵まれた環境を生かし、ぜひこの大学四年間のうちに何かに打ち込み、また将来の夢を抱いて欲しいと願っている。

卒業生の声

在校生の皆さんへ

石渡直子

(機関学科 四十七期)

私は現在、東京商船大学大学院のエネルギー変換講座で、ヒートポン

プの研究を行っています。近年、フロンによるオゾン層破壊が問題になっていますが、私が現在ヒートポンプに使用しているフロンは、オゾン層を破壊しない物です。ただし、この種のフロンは近年使われ始めたのでまだ伝熱特性がはっきり解明されていません。したがって、様々な企業がこの種の研究を行っています。私の研究室でも企業から依頼を受けて研究を行っています。

水産大学校の機関学科(現在の海洋機械工学科)に入学したときに、「女子学生は、途中でやめてしまおう人が多いから頑張るようよ」と言われてとても不安に思ったのを鮮明に覚えています。女性の辛いところは、一人が駄目だと、まるで女性全体が駄目だと思われてしまうところだと私は思います。ですから絶対に途中でやめないで頑張ろうと思えました。大学院への進学を考えたのは二年生の後半の時でした。卒業でもお世話になった中岡先生の熱力学の講義を聞き、大変興味を持ちました。そして、進学して知識を深めたいと思いました。四年生になり、卒業論文を中岡先生の下で書かせていただきましたが、大学院の受験勉強もしなければならなかったので大変苦労しました。余りにも辛いので、途中で何回も投げ出しそうになりましたが、入学式での決心を忘れずに何とかやり遂げました。

就職も自分が希望していた電気メーカーの研究職に決まり、修士論文も首尾よくまとめることができました。ここまで来るのに大変苦労しましたが、今は途中で投げ出さないと良かったと思っています。今、水産大学校で勉強されている皆さんも四年間の中で辛い時期があるかと思いますが、自分にとって大きな財産になると思いますので最後まで頑張ってください。特に女性の皆さんのご活躍を期待しています。

今を大切に

玉野美絵
(製造学科四十六期)

平成八年三月に水大を卒業し、早いもので三年が過ぎようとしています。現在、私は下関市役所に勤務しています。就職してから二年間は保健所に食品衛生監視員として勤め、現在は異動があり水産課で働いています。

仕事は海底から底引き網にかかって揚がったゴミの処分や水大への海の調査の委託等です。海へ不法投棄されたゴミは網を破り、漁師さんたちに大変な迷惑をかけています。現場に出て学ぶことも多いです。漁師さんや水大の先生、上司からいろいろなアドバイスをもらいながら仕事に励んでいます。まだまだわからな



新たな地で

庶務課長 大谷 博美

昭和四十二年水産庁に採用され、漁政部計画課管理班、海洋一課捕

新任紹介

いことばかりで就職してからこそ勉強が必要だと痛切に感じています。私は公務員になろうと入学した当時から思っていました。が本格的に試験勉強を始めたのは三年生の時でした。しかし、今になって思うことはひとつひとつの授業の大切さです。大学の授業は学ばうという意欲を持って受けなければいけないと思います。仕事でわからない事があった時、家に帰って授業のノートを見るとその事について書いてある事が何度かあり、本当に大切な事を教えてもらっていたんだと感じました。私が在校生に言いたいこと、それは今を大切にということ。今はしかできないことを見逃さずにチャレンジしていつてほしいです。私も今を大切にしようとして改めて決心する次第です。

鯨班、漁場保全課調査班、漁船課無線班、漁業保険課共済班、振興課養殖指導班を経て、平成十年十月から本校に参りました。

今、水大校は行革で民営化の対象にされており、転任に当たり多くの方から助言をいただきました。A県水産試験場長、B県漁連専務、C真珠会社社員の方から、自分は水大校出身だが、行革で心配している。民営化になったら大変。頑張つて欲しい。出来る事があれば協力するのでとどしどし連絡して欲しい。。。ため、本校卒業生が各界で重職を担っていること、本校の重要性を認識すると共に、こうした皆さんから注視されていることを自覚しました。また、生活面では、私は山に凝つたこともあり(北洋、南氷洋の捕鯨母船乗船後の肺結核で、ハイキング程度しかしなくなりましたが)、こちらの自然に囲まれた生活に堪能し、妻も持病の喘息が軽く成つたと喜んであります。

この水大校が、ますます働きやすい職場として、また、学生の皆さんに喜ばれ、地域、業界の方々に愛される学校になるよう、皆様とともに頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。

海洋番組と水産情報

水産情報経営学科 草薙 浩



去年は、国際海洋年一九九八の一環としてNHKテレビで海洋を

テーマとした大型の特集番組「知られざる世界：海」が毎月放映され、最新技術で初めて明らかになった、深海生物や海底資源さらには全地球的な海流発生メカニズムー海洋が地球環境の基本的枠組みを支えていることなどが紹介され、海は人類の未来を託し得る貴重な財産であることを教えていました。

私は昨年十月に本校に赴任しましたが、それまで民間企業において、コンピュータと赤外法・NMR法などを用いて物質を分子レベルで解明する基礎研究と、結節強度の強いフロロカーボンテグス開発など高分子製品の実用研究に携わってきました。NHKテレビで得た知識を理解するため、この基礎手法を応用して「海と空の分子イメージ」なるものを書いてみました。ミクロな視点で海を見ると、水温変化による水分子の集まり具合の変化やナトリウム・塩素イオン分子の濃度のミクロな揺らぎ

が海流発生の源であることが理解できました。このようなミクロなもの、海に発展させてゆくことにより、海に関する「新しい情報」を与えてくれないだろうかと期待しています。

ところで、皆さんは、高分子は最も身近な生活材料の一つであることをご存知でしょうか。アルミ缶などと共にペットボトルやカップ麺容器など、コンビニの店頭に並んでいる商品は高分子を抜きに考えることは出来ません。水産業においても、ト口箱や魚介類のバック容器に既に使われていますが、高分子材料の更なる応用により、加工・流通の経営効率化が可能ではないかと考えます。そのためには、高分子の構造や物性についての広い情報が必要となります。

本年四月、水産情報経営学科に一期生が入学してきますが、実学を重視する水産大学の伝統を踏まえ、「コンピュータと情報」に精通した人材の育成に取り組んでゆきたいと思えます。



出会い

海洋生産管理学科

奥田 邦晴

本年四月から海洋生産管理学科運航システム学講座に着任しました。よろしく願いいたします。



今から二昔以上も前に日本大学水産学科遠洋漁業学専攻科を修了し、東京商

船大学大学院に進学しました。そこを修了した後、そのまま勤めたのが私の教官としての出発点です。その後、国立弓削商船高等専門学校に二十一年間勤務していました。高専では航海学科に十三年間、情報工学科に八年間在籍しておりました。大学院の時の研究課題が衛星航法でしたので、高専では当初、航海学関係の科目と情報処理関係の科目を受け持っていました。情報工学科に併せて、情報工学科に移り、情報工学科関係の科目を担当しました。研究の方はずっと衛星航法を主体とした航海関係のものをつけており、その他担当授業科目に関係のある研究をしてきました。

高専での学生指導は、大学と比べて複雑なところがあります。学生の

年齢層が十五才から二十一才以上(商船学科は五年半の修業年限)であるため、高校生と大学生(低学年と高学年として分けている)未成年者と成年者が混在しているわけです。教官は学年によって対応し、年齢によって対応し、その間に矛盾の無いようにしなければなりません。

クラブにしても高校のリーグ、大学のリーグとあつてそれぞれに対応し、飲酒、喫煙、服装などの厚生指導もそれぞれに対応しなければなりません。数少ない教官の人数ですべてに対応していかねばなりません。結構大変なところがあります。その分、学生と教官の距離が短くなり、休み時間などに教官の研究室を訪れる学生は数多くいます。このあたりの関係は良いところだと思います。本校においても、このような関係を築いていきたいと思っています。

私の専門は、前に述べましたように、衛星航法が主体ですが、今では皆さんもカーナビゲーションなどでご存知のGPS関係をやっておりまして、GPSの前はNNSSというシステムがあつたのですが、この研究の時にはデータが紙テープで出力されていたので毎夜毎夜紙テープの巻き取りに学校に通つたものでした。この時の解析手法や解析結果が蓄積して、後にそれを纏め、発展させることにより東京水産大学から博士(水産学)の学位を得ることができ

ました。また、このような研究を通して水産大学の先生と学会などで知り合うことが出来、本校に転任するきっかけにもなつた訳です。

学生の時の練習船で鮪を追い、専攻科の時に鮭鱒母船に乗つたときの強烈な印象は今でも忘れることができません。このことは、私の水産に対する思いの原点となっています。それから東京商船大学での研究生活の出発、高専での学生指導と研究との葛藤、東京水産大学での学位授与、そして水産大学校への転任、そこには今現在の宝物である「人との出会い」が数多くあり、その宝物に自分が助けられてきたような気がしています。社交下手の私にとって、今後とも大切にしていきたいと思っています。

本校にも行革の風が吹いておりますが、学校の存続を切に願うものであり、私も微力ながら尽くすことができればと考えています。

はじめまして

海洋機械工学科

小川 和雄



平成十年 四月一日付
けで海洋機械工学科に
着任しまし

た。海洋機械工学科では、機械設計、設計製図「I」、工業力学「I」、海洋機械工学実験、工作実習、基礎工学セミナー「I」卒業研究を担当します。ですので、宜しくお願い致します。

私はこれまで高分子粘弾性材料を対象にして、破壊に関する実験・研究をしてきました。高分子粘弾性材料とは、私たちの身の回りに沢山あるプラスチック材料のことで、現在では、プラスチックのない生活は考えられません。同様に、工業界でもあらゆる分野で使用量が増加しています。この高分子材料を安全かつ有効に使用するためには、各種負荷条件に対する設計データとして利用に耐えうる破壊基準の確立が急がれております。ところが、この種の材料は金属材料にない非常にユニークな性質を持っています。これがくせ者で、例えば、金属材料では力学量の代表である縦弾性係数は便覧を見ると直ぐに判りますが、高分子材料では温度上昇に伴い、ガラス領域から粘弾性領域、ゴム状へと変化し、縦弾性係数に相当する応力緩和弾性係数が約千倍にも変化します。加えて、プラスチック材料は単体で工業用材料として用いられることは少なく中に繊維(材質はガラスから金属とバラエティに富んでいる)を含んだFRPとしての利用が多く、現象解明をより困難にしています。

この研究を続けていることは勿論

ですが、水産大でなければ出来ない研究テーマを今、考えているところ。色々な情報をお知らせいただければ幸いです。

私は、これまで青山学院大学理工学部機械工学科にお世話になっていました。青山学院理工学部は私立大学では、学生数も少なくこじんまりとして居ましたが、ここ水産大海洋機械工学科は一学年四五名と非常に少人数でスタッフは一六名と少数精鋭で中身の濃い教育が出来ると期待している所です。この恵まれた環境を活かして教育・研究に頑張りたいと思いますので今後とも宜しくお願い致します。

よろしくお願ひします

生物生産学科

半田 岳志



平成十年四月に、田名臨海実験実習場に就任いたしました半田岳志

志です。私は、平成四年三月に水産大学校増殖学科（現生物生産学科）を卒業後、平成十年三月まで広島大学院に五年間、研究生として一年間在籍しておりました。専門は生理学です。これまで、コイの血液性状、

心拍動、血圧の調節や、マダイ、ヒラメなどの呼吸機能に関する研究を行ってきました。

私が着任しました田名臨海実験実習場の大きな仕事のひとつに、生物生産学科一年生を対象とした臨海生物学実習と、生物生産学科二年生を対象とした臨海増殖学実習の準備・実施があります。実習内容は、浅海観測、水産植物の分類と生態、魚類甲殻類、軟体動物の分類、食性の調査など多岐に渡っております。

私も、増殖学科在籍時、平生町の静かな海辺の宿舎に泊まり込んで、ギリギリした太陽に照りつけられながら、潮だまりにいる動物を採集したり、泥まみれになりながら干潟にいる生物を採集し、種の同定・スプレッド・解析を行ったこと、また、眠い目をこすりながら潮汐の連続観測を行ったことなどを覚えております。これらの実習は、私にとって、水産生物の世界に足を踏み入れる第一歩となりました。

田名臨海実験実習場に就任するまでは、思い出の中にあつた臨海実習でしたが、これからは実際に準備、運営していく側の一人となりました。実習する一・二年生に、どれだけ海洋環境や水産生物に興味を持ってもらえるようにできるかを考えますと、その責任の重さを痛感しております。実習を円滑にすすめることを、そして全ての方々が気持ち良く実習場を

利用できるようにすることを心がけていきたいと考えております。どうぞよろしくお願ひします。

クラブ紹介

ワンダーフォーゲル部

持塚 健太郎

(機関学科三年)

ワンダーフォーゲル部というと、普段どのような活動をしているか学内でも知る人は少ないと思います。ワンダーフォーゲルとはドイツ語で渡り鳥という意味で、活動もその名の通り自由なクラブです。部員の個性も様々で、いろいろなタイプの人がいます。夏と春に部内で合宿を行います。ワンゲルの合宿は、何を使っ

てもどこへ行ってもよい、とても自由な合宿です。山へ行くのも海へ行くのも、電車、自転車、フェリー、海外への登山に行く部員もおります。合宿は、三年生を中心とした少人数のグループに分かれ、綿密な計画をグループ内で話し合います。

各自の意見をリーダーは取り入れ、全員が満足のできるような合宿を目標に打ち合わせを行います。また、またた意見は、各グループパンフレットを作成し、部内の人達、他大学のワンゲル部に発表します。

また、五月には、一〇〇km歩行を毎年行っています。萩から水産大学を目指して、一晩中歩き続けます。一〇〇km歩行も、三・四人のパートに分かれ、リーダーを中心に全員がリタイヤをしないように協力し合っ



学生部だより

平成10年度卒業予定者の就職等内定の現況等について

昨年度からの就職協定廃止に伴い学生、企業共に自己責任において自由な活動が可能となった。

このような、急激な環境変化のなか採用活動は一段と早期化し、一方長期にわたる経済不況のなか企業に

てがんばっています。とても苦しい行事ですが、終わったときの達成感はとても満足するものがあります。七月には部員全員で島でキャンプを行う強化合宿があります。この強化合宿で新入部員は、食事の作り方やテントの張り方などキャンプに必要な基本知識を身につけます。これは夏の合宿でちゃんと一人一人が割り当てられた仕事を素早く行えるための予備合宿です。

また、ワンゲルは他大学との交流がとて盛んです。秋には、北九州・山口の大学が集まり竜王山でキャンプを行ったりします。また、各大学の幹部交代式には、他大学を招待して楽しい酒の席で情報交換やアドバイスを得ることが出来ます。様々な事にチャレンジできて、それをサポートできる仲間がいるワンゲルフォーゲル部は無限の可能性を秘めたクラブだと思えます。

よつては必要な人材を必要な時期に採用する「通年採用」への見直しも急速化している。

本年度の本校の就職状況においても既にその傾向にあり、昨年度と比較し大変厳しく、別表のとおり就職浪人と見受けられる「その他(海技免許・公務員受験準備等)」の欄で顕著に表れておりその数は五十名(昨年度末 十三名)と過去最高となっている。

就職情報誌によると日本企業においても終身雇用・年功制などの「日本的雇用システム」を支える根幹となつている新卒者の定期採用と合わせ、来年度以降は本年度以上に変革

が本格化するとの見方が大勢である。学生諸君にとつては、一段と厳しい状況にあり、早期に積極的的確な情報を得るよう活動すると共に、各学科担当教官から個別に緊密な指導を受ける等の対策が要求される。

<分類内訳>
 各種団体=水産関係各種団体
 水産=水産関係・関連企業
 船舶=船舶・海事関連企業
 造船・造船=造船・造船関連企業
 食品=食品・関連企業
 その他の企業=その他の企業・自営業
 ※その他=国家・地方公務員・海技試験受験等の準備

平成10年度卒業予定者進路状況 (平成11年 3月卒業予定者)

区分	学科	専攻科		漁業学科	機関学科	製造学科	増殖学科	研究科	計
		船舶運	航海課程						
卒業生数		16	15	51	57	39	47	13	238
進学関係	大学院				1	3	2		6
	研究科			1		2	6		9
	専攻科			18	23				41
	研究生					1			1
	その他進学								
計				19	24	6	8		57
就職関係	国家公務員	2	3	2		1			8
	地方公務員	1					3		4
	各種団体			3			3		6
	水産	1		14	2	13	13	2	45
	船舶	5	5				2		12
	造船・造船		2	1	16			3	22
	食品			1		16	1	1	19
	その他の企業				5	1	9		15
※その他	7	5	11	10	2	8	7	50	
計	16	15	32	33	33	39	13	181	
合計	16	15	51	57	39	47	13	238	

卯波
 風吹きて磯香ほのかに卯波立つ

海
 海夜しおのれの心もああ広し
 夜中七曲りを通して思つた
 名月を淡くうつす吉見海
 ヨット

授業
 風吹けば我が身も揺らぐヨットかな
 舟底に蹴られし水のきらきらと
 昼下がりが大息つきて果てにけり
 授業中私はいつも浮寝鳥

恋
 ただの道彼女のもとに行くために
 彼が通れば「恋路」となりぬ

試験
 炎天下試験近づきええ点か
 パーベキュー
 海岸でパーベキューする我らの夜
 山女(やまめ)

せせらぎの岩にこしかけ山女魚釣る
 岩魚(いわな)
 神の炉に岩魚焼くなり夜の月
 秋刀魚(さんま)

一人暮らし秋刀魚も食えぬ秋なのか
 冬
 冬海音穏やかに波高く

河豚
 山口に来たけど河豚は高かった
 柳葉魚(ししゃも)

風音(かざおと)に日本の心柳葉魚食う
 冬休み
 冬休みみひたすらバイトかまほこ屋
 水鳥
 水鳥を見ることできるふるさと思う

人生
 夕日見て明日は何を思うかな
 止まりはしない我が一生

日本
 日本よどうしてそんなにへばいのか
 以上 水産大学校2年生

平成10年度卒業予定者進路状況一覽表

平成11年1月29日現在

◎進学(大学院等) 水産大学校研究科 水産大学校専攻科 水産大学校研究生 東京水産大学大学院 九州大学大学院 高知大学大学院 ◎就職(官公庁) 農林水産省職員 文部省職員 陸上部自衛隊 海上自衛隊 航空自衛隊 気象庁職員 東京都職員 静岡県職員 山口県職員 金山町役場	◎民間企業 マルハ(株) 太平洋フェリー(株) 共同船舶(株) 阪九フェリー(株) 東栄リーフライン(株) 大洋フェリー(株) インテグレーション(株) 近藤海事(株) 商船三井客船(株) ナビックステクノ(株) 日本海洋事業(株) 神戸日本汽船(株) 旭洋造船蔵産(株) 東中洋水産(株) クハ野珠養殖(株) 西村真珠(株) 丸魚水産(株) 金子漁業(株) 和歌山魚類(株) 中島水産(株) 東洋水産(株) 大阪魚市場(株) 北九州魚市場(株)	福岡中央魚市場(株) ニチモウ(株) 水研(株) サンヨーフーズ(株) 伊藤ハム(株) タケダハム(株) ケノシタ(株) 大都会魚類(株) 勝目水産(株) 寶洋水産(株) 山崎製パン(株) ロイヤル食品(株) カキベーカー(株) いずみ製菓(株) ロイヤル食品製造(株) 東九(株) 中国物産(株) 竹八竹味真(株) 日本クラウン(株) コープ食品(株) あじか(株) ケンコマヨネズ(株) ユキワ(株) 花園食品(株) 濱一(株)	(株)尾形養鯉場 ゴト一養殖研究所 田崎真珠(株) 丸善製薬(株) ミヤコ化学(株) 古野電機(株) J&J東計(株) 小田(株) テクノ中(株) 日本総合化学(株) スグル食品(株) 日本ハム食品(株) 不二製油(株) 長谷川精工(株) ミカサ金属工業(株) 三浦工業(株) マミ(株) 川崎金属工業(株) ティーエステ(株) 東洋鋼板(株) エラステック(株) 鷹取製作所(株) ヒガシモト(株) 西日本プラント工業(株) 九州鑄鉄(株)	(株)日本工作所 ダイキンプラント(株) 新笠戸ドック(株) 光洋精工(株) スーパーヤマナカ(株) マツオ(株) 菊谷茂吉商店(株) ムロオ(株) 総合科学(株) 日本環境管理センター(株) 前川製作所(株) 第一化成(株) 西日本流体技研(株) 成山中央書店(株) 中海洋建設(株) 日本テクニカルセンター(株) 日本管財(株) 葵九州製作所(株) 川重防災工業(株) ヤンマーエンジニアリング(株) 大興業(株) 自営 その他 (海技免許公務員等受験準備等)
◎水産関係各種団体 日本鯉魚協同組合連合会 福岡県漁業共済組合 全国海苔貝類漁業協同組合連合会 愛知県漁業協同組合連合会 財九州環境管理協会 財宮崎県漁業保険組合 焼津漁業協同組合	丸魚水産(株) 金子漁業(株) 和歌山魚類(株) 中島水産(株) 東洋水産(株) 大阪魚市場(株) 北九州魚市場(株)	丸魚水産(株) 金子漁業(株) 和歌山魚類(株) 中島水産(株) 東洋水産(株) 大阪魚市場(株) 北九州魚市場(株)	丸魚水産(株) 金子漁業(株) 和歌山魚類(株) 中島水産(株) 東洋水産(株) 大阪魚市場(株) 北九州魚市場(株)	丸魚水産(株) 金子漁業(株) 和歌山魚類(株) 中島水産(株) 東洋水産(株) 大阪魚市場(株) 北九州魚市場(株)

平成十一年度入試概況

本校の平成11年度入試は、厳しい行革の荒波が打ち寄せる中で、受験生の反応に神経を尖らせながらの募集からスタートした。加えて、水産情報経営学科の第一期生募集も重なり、その応募状況にも注目が集められた。

結果は、志願者総数で対前年三割増の八九九人で、受験者も近年にない高い数値(九六%強)を残した。

一般入試の学科別の応募状況は、水産情報経営学科四五名(募集人員一四名に対する倍率三・二倍)、海洋生産管理学科一五四名(募集人員三二名に対する倍率四・八倍)、海洋機械工学科一三三名(同四・二倍)、食品化学科一八六名(同五・八倍)、生物生産学科三八一名(募集人員二四名に対する倍率一五・九倍)で、生物生産学科が一〇%強減少した反面、他の三学科は全て前年を三〜九%程度上回った。

また、先に行われた推薦入試には、全体で六八名が応募し、三九名が合格している。

一般入試は、平成十一年二月十一日に下関・東京・大阪の各試験場で実施され、二月二十四日に合格者を発表したところである。

次年度以降の学生募集に関しては、十八才人口がまだまだ右下がりを示す中で、かつ、本校の独立行政法人化と相俟って、厳しい条件を背負った対応となるが、新設学科を含めた本校の特色と個性豊かな教育方針を前面に出し、受験生に魅力ある大学となるよう一層の努力をして参る所存であります。

人物往来

平成十年度

【水産特論講師】

七月六日

水産庁漁場資源課長

十月九日

水産庁企画課長

十月二十九日

水産庁水産加工課長

十一月十九日

水産庁遊漁・海面利用室長

一月一八日

水産庁管理課漁業管理推進官

四月二十九日

【叙位・叙勲】
勲三等瑞宝章
久保田 善二郎
(名誉教授)

十一月三日

勲三等旭日中綬章
青山 恒雄
(元水産大学校長)

十一月二十五日

正四位勲三等瑞宝章
柳 瀨 安生
(元名誉教授)

六月十一日

【名誉教授】
瀬戸山 徹二郎
(元教養学科教授)

六月三十日

【博士号取得】
水産学博士
三輪 千年

九月三十日

水産学博士
毛利 雅彦



水産大学校
 ☎759-6595
 下関市永田本町
 2丁目7-1
 発行
 学園だより
 学術交流委員会
 編集委員
 電話0832(86)5111

水産大学校の現況

水産大学校長 三本菅善昭



二十一世紀の人類の課題は、食料問題と環境問題とされています。

この二つの問題は、わが国において最も深刻になる可能性が高く、これを克服することは国家的な課題となっており、国際的貢献の面でも極めて重要であります。特に、周囲を海に囲まれたわが国では、海から食料を確保するとともに海洋環境を保全することは重要であ

り、そのための基盤となる水産及び海洋に関する教育研究の果たす役割は極めて大きいものがあります。

水産大学校は、海に関する諸問題に対処するとの視点で人材を育成しており、その役割は二十一世紀においてますます重要になるとの確信のもとに教育研究を行っております。

水産大学校は、国際交流も積極的に進めており、平成十一年十一月二日と三日に第五回水産大学校・釜慶大学校(旧釜山水産大学校)学術交流シンポジウムを釜慶大学校(釜山市)において開催し、本校から校長及び学術交流委員長鬼頭教授をはじめ六名の教官が参

加して、研究成果の発表と意見交換等を行い相互理解を深めました。また、練習船耕洋丸の遠洋航海の一環として、平成十一年十一月末から十二月始めに南太平洋大学(本部フイジー)との学術交流と共同調査を行い、本年一月十七日に全員無事に帰港しました。これには学生も参加しており、学術的な交流に加えて、国際感覚を身に付ける上でよい機会であったことと思います。

水産大学校は、水産先進国であるわが国の農林水産省の大学として国際的な研修を実施しており、本年度も、国際協力事業団の二つの研修コース、生産管理及び魚類防疫・環境管理を本校において開講して、アジア、アフリカ及び中南米の国々から参加した多数の研究者、行政担当者等を本校の教官が熱心に指導し、大変好評でありました。

さらに、学術交流ではありませんが、第二〇回下関市・釜山市ヨット交換競技が本年度は本校を主管校として開催され、本校のヨット部員の学生が中心になって、日韓両国の若者の交流と親善及び相互理解に貢献したところであります。

また、学生を中心に例年開催されております大学祭(海燕祭)が昨年十月十六日及び十七日に開催されました。テーマは、本校の学生らしく

新海洋秩序の時代を担う若者として、現下の多難な社会情勢の向かい風の中で、水産の将来を考え、自分たちの進むべき方向を模索するとの視点で「Sailing」として盛大に行われました。頼もしい限りです。

ところで、皆様ご承知のように、現在、戦後最大といわれる国の行政改革が行われており、本校も先の国会で平成十三年四月に農林水産省所管の独立行政法人に移行することが決まりました。これにより、本校はより自律的な運営、外部有識者等による定期的な評価、それらの結果の公表等が義務付けられることになりましたが、教育研究の内容及び学生の処遇等に従来と変わるところはありませんのでご安心下さい。

なお、文部省所管の国立大学についても見直しが行われており、文部省は独立行政法人へ移行する方針であり、現在、各大学で検討が行われていると聞いております。

わが国の高等教育は大きな変革の時期にありますが、その中であって、水産大学校は、冒頭に述べた視点で、真摯に人材育成と教育研究を行い、期待に応えたいと考えておりますので、関係者各位におかれましてはご協力を賜りますようお願いをします。次第であります。

学生部長に就任して

学生部長 濱口正人



平成十一年
四月一日付け
で学生部長を
仰せつかり、
早一年が過ぎ
ようとしてお

ります。ご承知のとおり、本校は平成十三年四月から独立行政法人としてスタートすることとなりました。今だ不透明なところもありますが、文部系の国立大学についても、現在独法化の活発な論議がなされており、このような激動する社会情勢の中、独立行政法人の大学として、そのメリットを十分に活かし飛躍しなければと思っております。

独立行政法人となりますと、総務省、農水省による三～五年毎の評価委員会で評価を受けるようになりませんが、大学としては評価に耐え得る実績を残すことが必要となります。学生部として最重要課題として考えていますことは、学生の入学者の確保と就職の確保です。現在も、入学志願者確保のために、キャンパスガイド・ポスターの印刷・配布、インターネットを通じた本校ホームページの充実及び高校訪問を行っております。

ます。特に、高校訪問は毎年約一〇〇校を訪問して、本校の教育・研究の目的・性格を提供しておりますが、これからも少子化を念頭に入れ、積極的に本校のPRを機会あることに行い情報提供してまいります。

また、就職については、不景気による就職内定者の減少対策が考えられます。今年度の就職状況について触れますと、昨年八月には本校学生の就職内定率は平均四三%と過去に例を見ないほどの低水準でありました。このことから就職対策実施委員会を設置し、高校訪問形式を採用して各学科長クラスの教官による企業訪問(約一〇社)を行ってまいりました。おかげをもち、今年一月の時点では例年を少し越えた内定率を確保することが出来ました。

最近の大学への進学者は高校卒業生の約五〇%近くとなっておりますが、十八歳人口は確実に減少しております。更に、大学が入学生を選択する時代から選択されるという時代が変わってきました。このような時代背景を考慮しつつ、大学の入口としての入学生の確保と、出口としての就職の確保が出来るよう鋭意努力していく所存です。

図書館長として

ほぼ一年たちました

図書館長 鬼頭 鈞



昨年の四月に図書館長を拝命いたしました。その間、私なりに判断を下さなければならぬ問題がありました。それらを紹介しながら、図書館の仕事の内容、今後への思いなどをお話して、挨拶に代えさせて頂きたいと思っております。

この数年、図書管理を電算化すべく取り組んできております。データの打ち込みが結構大変で、完全利用には至っておりません。思い切って今年度から、打ち込み作業の外注を試みました。他大学の図書館の実状など見るに、外部への開放も考えてゆかねばならない時期かと思えます。電算化管理は急がねばなりません。

標本館も図書館の管理下に置かれております。魚介類はアルコール漬けになっているのですが、その濃度が六〇%以上だと消防法にふれるというので、改善命令を消防署から受けました。併任の標本課長や庶務

課の皆さんには大変なご苦勞をかけた。新資料館計画などに向けても経験を生かしてゆきたいと思っております。

昨年十二月になって突然事務職員一名の定員削減を申し渡されました。閉館時間の延長等を内部で検討しかけていたときだけに、大ショックです。大学内図書館と言えどもサービス業務です。数が減ると言うことは大問題で、今後の対応に苦慮しています。現在職員六名(内併任二名)、パート五名で結構忙しく日々がすぎゆきます。

図書館員の喜びは、何と言っても学生諸君や職員の方々のそして外部からの利用が増えることです。足をお運び下さい。

特集

水産情報経営学科の第一期生を迎えて

学科長 草 薙 浩

水産情報経営学科では昨春に第一期生を迎え一年が過ぎましたので現況などご報告したいと思います。この一年間を振り返ってみますと、一昨年十一月の推薦入試に始まって、昨年二月の一般入試、四月の入学式

と父兄懇談会等々、新入生を迎える準備は水産情報経営学科の教官にとつて初めての経験であるので必死に過ごしてまいりました。五月の連休と夏休み前には学生補導教官の安田先生が学生を集めてミーティングをして休暇の過ごし方等に対する注意など行いました。特に、長い夏休み中、気の緩みによる車運転の交通事故に対する注意喚起が十分であったかなど気になっておりましたので九月に全員元気な顔を見せてくれたときは教官一同ほっとしました。他学科の先生方に色々とお世話になりました。この一年間を大過なく過ごすことができましたことを感謝したいと思えます。諸般の事情から学科の定員は二十名であり、在学生も現在十七名と少ないですが、その分だけ学科単位で受ける授業、たとえば情報科学 I および II ではゼミに近いような少人数でコンピュータ教育を行うことが出来るなど時代を先取りした授業ができております。

我が国には地球全表面積の七〇パーセントを占める広大な海洋の各地域から大量の水産資源(物)とこれに関わる大量の情報が集まってきていることは平成十年度漁業白書を見て明らかです。二十一世紀には水産物の情報は益々密接になり水産物の国際化と情報化が図られます。我が国水産業の置かれているこのような状況下に水産業の経営や海洋諸現象解明のためのコンピュータ利用研究を進める水産情報経営学科が水産大学校に設置されたことは時代の要請と捉えられます。

この四月には第二期生が入ってきますので一期生の諸君は水産情報経営学科の卒業生が担うべき役割について自分達の立場に対する自覚と自信をもって日本の水産業に貢献するとともに、先輩と共に水産情報経営学科のよき校風を創って行つてくれることを望んでいます。また、教官一同としても、この二十一世紀の日本の水産業を支える人材の育成を目指して熱意をもって努力しますので今後とも父兄の皆様および関係各位のご支援よろしくお願いいたします。

水産大学校公開講座について

公開講座委員会委員長

吉原 計一



本年度で四回目を迎えた公開講座を、例年と同じく、学園祭初日の十月十六日(土)十三時から国際交流会館で開催いたしました。

今回は、地域社会、産業界との交流を図る試みとして、下関市、山口県の代表魚である「ふぐ」をテーマに選び、「毒があるけど超美味 下関の顔あれこれ」をキャッチフレーズに、水産大学校後援会共催の特別講演を加え、本校教官によるものと合せて、四講演を実施いたしました。講演の教官並びに特別講演者の方々とその演題は次の通りです。

野田幹雄(生物生産学科)
トラフグの生い立ちとその仲間たち
近藤昌和(生物生産学科)
フグ毒と体を守るしくみ
今井千文(海洋生産管理学科)
トラフグ資源はなぜこんなに減ったのか

松村 久(下関唐戸魚市場株) ふぐと下関

参加者は、例年学外の方が少なく寂しい思いをしておりましたが、この度は学外参加者五十名、学内参加者を含めると八十数名に達し、盛会裏に講座を終える事が出来ました。

これは、地元名産の「ふぐ」をテーマにしたこと、業界からの講演者として、曾ての「フグの袋せりの顔」松村氏を招き、特別講演を共催したことによるものと思われまます。

各々の講演に対する質疑応答も活発に行われ、アンケートにおいても、「フグを学ぶのに当を得た構成であった」、「水産下関のバックボーンとしての水大の活躍と市民に身近な大学の存在を期待する」、「内容のある意義な講座であった」など水産大学校及び今回の試みに対する評価を頂きました。ここに、関係者のご支援ご尽力に深く感謝し、厚く御礼申し上げます。

これからも、教官の研究と産業界及び生活に係わるものをテーマに選び、地域社会との交流並びに産業界との連携を密にする様な催しを企画したいと考えております。ご父兄の皆様及び関係者のご支援ご協力をお願い申し上げます。

北方領土墓参航海

耕洋丸 田 淵 清 春

北方領土墓参は昭和三十九年に初めて実現された。そのとき最初の墓参船として使用されたのが先代天鷹丸である。天鷹丸は水晶島及び色丹島の墓参を行ったが、当時は上陸が許可されず洋上墓参だったと聞いている。

その後、ロシア側の了解が得られなかったり、パスポートとビザの携行を求められたため、十数年間墓参の断念を余儀なくされたが、昭和六十一年に再開され現在まで続いている。

本校練習船が墓参航海を実施したのは、前述の先代天鷹丸以降、平成四年耕洋丸(国後島)、平成六年天鷹丸(多楽島、国後島)、平成八年耕洋丸(志登島、色丹島、国後島)、平成九年耕洋丸(択捉島、国後島)、そして平成十一年耕洋丸(択捉島、国後島)の計六回である。これらの航海で、延べ五二八名の遺族及びその関係者を運搬したことになる。

北方領土墓参渡航経費の予算化に難渋を示している財政当局は、広範な戦後処理経費への波及を恐れ、その代替措置として政府所有船舶(練習船)の便宜供与を行うこととなっ

たわけである。本校練習船の墓参航海もこの経緯に沿い、総務庁の依頼によって実施されている。

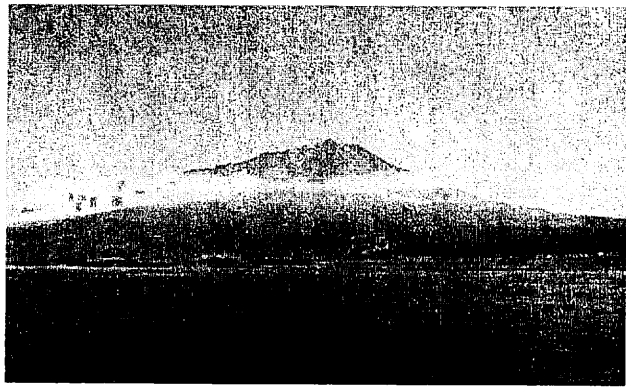
墓参航海は海況が最も安定している八月下旬から九月初旬に限定されている。しかしこの時期は、根室地方を中心としてしばしば濃霧が発生する。納沙布岬沖の瑤瑤瑠水道通過時など、僅か数十メートル先の漁船が視認できず、レーダに頼らざるを得ない航海を強いられることも少なくない。また、本船錨地より各島に墓参団を上陸させるため、ロシア側艇または随伴船を利用する。その際、うねりが大きいため、それらを本船に接舷させ、高齢者の多い墓参団を安全に移乗させるための作業は困難を極め、いつも乗組員の悩みの種となっている。

そうした問題を含みつつ、墓参への関わりにはプラス面もある。平成八年から学生・乗組員の一部が墓参団介助のため島に上陸する機会を得ることになった。学生達は荷物の運搬を援助するなど墓参団の介助を積極的にに行い、大変感謝されている。

また、ある島では僅か数メートル幅の川をカラフトマスが遡上する様子を観察できたり、電力供給が十分でないばかりか、生活物資不足のため、不自由な生活を余儀なくされている

島民生活を垣間見る機会を得た。飽食暖衣を当然のことと思っている学生達にとつて、貴重な体験となったことと思う。

墓参航海の都度、学生には様々な課題を与えている。資料の少ない北方航海についての航行ルート、気象・海象、各島及び錨地事情などの資料収集、墓参事情(墓参団への聞き取り調査を含む)、また、入出域手続きなどの調査である。学生はこれらの課題にも熱心に取り組み、過去三回の航海とも、下関帰港時には一冊の報告書として提出されている。



山 布 散 南 島 捉 択

本校練習船は、平成六年から総務庁長官より墓参航海実施の度に感謝状を頂戴している。それは勿論名誉なことだが、過去六回の墓参航海で墓参団に誰一人怪我人を出すことなく航海を終えたことが、我々の誇りとするところである。

就職活動

今年の就職状況と 学生諸君への要望

就職対策委員長

須田有輔

景気の上向きとは裏腹に就職に関してはここしばらく低迷が続くといわれています。幸い本校の昨年十一月末日時点での内定率は全学で七一%と一昨年と同程度でしたが、このような数字に安心しているわけにはいきません。事実、求人企業件数は一昨年に比べて十二%も減少しています。

このような状況の中で、限られた予算、人員の中で、大学側でも就職支援のための様々な活動を行ってきました。昨年六月には、水産庁農政部国際課 山下 信 北方第一係長 製造四十三期卒) による公務員受験希望者を対象にした講演会を開催しま

した。例年に比べ受講者が多く、公務員志向の学生の増加を感じさせました。十一月には日経就職ガイド・デイスコ社にお願いして例年のように就職ガイダンスを開催しました。このガイダンスに対しては聴講した学生の七〇%以上が年間に二回以上の開催を希望しており、学生が情報収集に渴望している様子がうかがえました。

今年度の就職状況の特徴は、企業説明会や内定通知の早期化および内定を複数もらう学生と全くもらえない学生の二極化が進んでいることです。三年生の春休み(三月中)には企業説明会を済ませ、五月の連休明けには内定を出すところが増えてきています。また、内定の二極化は、企業側ができる学生できない学生を峻別する結果だと言われています。本校でも、早くから真剣に就職対策を講じている学生は複数の内定をもらう例がみられます。

そこで、学生諸君は自分が何をしたいのかという具体的な目的意識をもって、その実現に向けて早くから自分を磨かなくてはなりません。大学そのもので学ぶ専門性を身につけることは言うに及ばず、全国の就職学生共通に必携の英語、整理・要約、企画力、レポート作成、パソコン操

作などの能力高め、さらには関連する分野についての資格を取得したり、学外の講習を受けたりすることも重要です。また、その業界における動向・展望を日頃から研究しておくことは、即戦力となる人材を求められる昨今、不可欠の要素でもあります。企業に対しては自分が商品であるという自覚を持つことが必要だと思います。すなわち、自分のセールスポイントを明確に打ち出せるかどうか、言い換えると、その企業に対して具体的にどのよう貢献できるかということなのです。どれだけ自分を磨いたかということがまさにセールスポイントになるのです。威勢が良いとか、体力には自信がある、ということだけではもはや通用しない時代なのです。

就職活動

村上智也

(漁業学科四年
大阪魚市場株式会社内定)

現在、大学を卒業しても就職がない時代だと、新聞などで報じられています。しかし、就職活動をしてみて一概にそうとは言えないのではな

いかと感じました。内定をもらうのは確かに難しいこ

とだと思えます。しかし、もらえない人間とももらえる人間には、違いがあると思います。私なりに、採用試験の集団討論などから推測すると、内定をもらえない人間は、自分の将来のビジョンを持ってないと感じました。民間の会社が求めている人間は、今の能力より将来性です。一〇年後にどういう社会人になっているのか、また会社にとってどういう利益があるのかを、明確に相手に伝えることができないと内定はもらえないと思います。そのため、大学でこのような生活を送ってきたからこそ、会社でもこれだけの働きができるという根拠がないといけないと思います。これは、勉強に限らずクラブ活動であったりアルバイトでもいいと思います。大学生活で打ち込んだものがないと、会社としてもこの人は口だけで行動に移せないのではないかと、不信感を持つからです。

私は、全部で八社の会社を受験し、約七〇社に資料請求しました。これは、水産大学の平均から考えると、かなり多いと思います。私は、ただ多くの会社を受験したわけでもなく、資料請求したわけでもありません。資料で、会社の概要を知り、興味を持った会社に関しては、実際に働か

際に受験をするかどうか決めました。これは、自分の将来のビジョンと、会社の業務内容や考え方が合うのかを確かめるためです。資料だけでは、会社の詳しい業務内容や考え方が分からないので、先輩などに詳しい話を聞かせてもらうべきだと思います。また、面接に関しては、会社が望んでいる答えを答えるのではなく、自分が本当に考えていることを答え、ありのままの自分を見てもらい

ました。就職活動にも、確かにテクニクがあると思います。何社か受験すると、相手の望んでいる答えはおのずと分かってくるものです。しかし、会社のいいところだけでなく、先輩等に話を聞かせていただき裏側も見て受験しているのだから、自分のすべてを見て選んでもらった方がいいと考えました。

最後に、私にとって就職活動は相思相愛になれる会社探しでした。今の自分を認めてもらい、将来の自分にも期待してもらえ

る会社と出会った。自分自身もこの会社のためならやっ

就職活動について

文屋 孝哉

(機関学 科四年
社団法人 日本船用工業会 内定)

私は就職先を決めるということは、これからの人生の大まかな部分を決めることだと思っています。ですから就職先を決める時には、自分自身でしっかりと考えて、悩んで、納得して決める必要があると思います。しかし就職難の今となつては、自分が理想とする職に就くことが更に難しくなつてきています。このようない時代ですが、自分が求める職に就くことは不可能ではないと思います。

民間の一般企業を希望する場合でも、公務員を希望する場合でも、はたまた違う道を希望する場合でも、自分が求める道への真剣さが現れ、そして相手に伝われば必ずと道は開かれていくと思います。その真剣さや、思い入れの強さを表すのが履歴書であつたり、ペーパーテストであつたり、面接であつたり、作文であつたりするのだと思います。しかし、資格試験や大学のテストと違って、ペーパーテストや面接の評価が基準点以上であつたとしても内定をもらえるわけではなく、同じ道を希望している他の受験者たちに打ち

勝つて初めて内定をもらえるのだと思います。そこで、他の人に打ち勝つためにやつておくべきことがいくつあるかと思っています。まずは、本当に自分が望むものをはっきりとさせることです。そのことがはっきりしているならば、具体的に希望する企業などが絞り込め、やらなければならぬことが見えてくると思います。次には、ペーパーテストに慣れることです。一般企業ならSPIと一般常識を、公務員なら公務員試験の問題集を、なるべく早い時期から始めるべきだと思います。それから、面接やエントリーシートのための自己分析と企業分析です。自己分析では自分を売り込むためのセールスポイントを見つけ出し、企業分析ではなぜその企業でなければいけないのかという理由を見つけ出して、入社が強いことをアピールすることが必要であると思います。

就職活動は自分から動き出さなければ何も始まらないと思います。自分が望むものを手に入れるため、真剣にそして積極的に取り組んで悔いの残らないものにしてほしいと思います。



在校生の声

一年間を振り返つて

妙木 綾

(水産情報経営学科一年)

四月に夢を膨らませて入学して、早いものでもう一年が過ぎようとしています。水産情報経営学科という先輩のいない学科での一年間は、初めてというので学校側も戸惑いがあるのか専門科目というものは他の学科に比べて少なかつたように感じました。

まだ具体的にこれを専門としてやつていくというのが決まっていないうので第一期生としての重みを感じつつ、後輩のために、しっかりとした第一歩を踏み出していかなければならないと思っています。

初年度は学科を越えての授業も多く、各方面からの友達もできました。学校という所は、勉強をする場でもあります。人との交流の場でもあり、同級生や、先輩、先生方など色々な人と話をする中で、学ぶこともたくさんありました。

また、独り暮らしをしているのもありますし、授業も選択できるので、高校の頃よりも、自由な時間という

のが増えました。しかし、実際には無駄に時間を過ごしていることの方が多いので、もう一年経つてしまいましたが、残り三年間を趣味をみつめてみたり、将来というものをしっかりと考えられるような充実したものにしたいと思っています。

大学生二年目の感想

佐藤 典子

(海洋機械工学科二年)

私が水産大学校に入学してもうすぐ二年が過ぎようとしています。この二年をふり返つてみると、なんと時間の過ぎるのは速く、そのわりには二年前の、高校生であつた頃の、自分と変化がみられないなあと感じました。

今、二年生で授業も一年生の頃と比べたら専門的なものもずつと多くなつたし、実験や実習も増えてそのレポート提出に大変な日もでてきました。でも、実験をするようになってから同じ学科の男の子とも話せるようになりました。それは私にとつては大きな変化であることには間違いありません。また、アルバイトをしてから人と接する機会が増えました。人付き合いが上手とは言えない私にとってそれはとても刺激的なこ

とです。

時々、もし水産大学校ではなく他の学校、地元の大学、東京とか大都市の学校、あるいは就職していたらと考えます。でも、やっぱりここで良かったと思います。私にはこののんびりとした校風というか雰囲気、がピッタリだと実感するからです。

変化がないような学生生活も二年が過ぎ、もうすぐ三年目です。これからは自分の将来について真剣に考えなくてはならない時期になります。いわば今が人生の岐路の一步手前なのではないかと思えます。ここはあせらずゆっくりと自分のペースで自分のことを見つめて考えたいし、またそうありたいです。

今までの大学生活を振り返って

永 森 恵 子

(食品化学科三年)

私はここ水産大学校に入学したときに具体的ではないけれどもひとつの目標をたてました。それはこの四年間の大学生活でできるだけ多くのことを体験して見聞を広めるということです。もちろん学生ですから大学での生活を中心としてですが、それだけではなく校外にも足をのばし

ていろいろな未知の体験をしようとした決めたのです。その具体的な行動のひとつとして国内外に関わらず旅をしてその地方の独特な料理を食べ歩き食材を見てきました。国内では中国地方や九州を周り、海外では韓国のタンやヨーロッパのカスレー、サングリアなどの未知の食べ物と出会いました。そしてこれらの旅では当初の目的を達成することはもちろんのこと、それ以外にも多くのことを学ぶことができました。もともと私がこの食品化学科へ入学したのは食べ物への興味からでしたので、これらの旅は私の学問的好奇心と趣味としての好奇心の両方を満たしてくれました。日常、非日常的な日々すべてを含めてこれまでの約三年間の大学生活は私に自らの好奇心を探究することだけでなく自分自身をレベルアップさせる機会を与えてくれました。残された一年間の大学生活もさらに自分自身に磨きをかけるような有意義なものにしたいと思っています。

卒業生の声

目的意識を持つて

末 藤 浩二郎
(漁業学科 四十七期)

平成十年三月、専攻科船舶運航課程を修了して、水産庁に入庁し、現在、母校水産大学の練習船天鷹丸に臨時三等航海士として乗船しています。

一昨年は、北海道区水研 北光丸を皮切りに、東北区水研 若鷹丸、本庁 白嶺丸と乗船し、我が国周辺の漁業資源調査や日韓漁業協定等に基づく外国漁船の取締の航海等、毎日が慌ただしく過ぎていきました。

私が卒業後の進路として水産庁を選んだのは、二年生の秋の乗船実習で、当時、天鷹丸船長の久保田先生の講義を聞いたときです。商船と違い海洋の調査・観測に携わる水産庁の船舶に強い関心を抱き、三年生の前期から本格的に海技試験の勉強を始めました。努力が実り、在学中に一級海技士の筆記試験に合格できましたが、就職活動では自信のなさから別の組織を受験し、失敗してしまいました。しかし、その一回の「逃げ」はその後の生活に大きく影響し、

同級生の内定の話聞く度にいたたまれない状態で毎日を送っていました。そのような心理的に不安定な気持ちで落ち着けるため、補導教官であった本村先生の研究室にしょっちゅうお邪魔して励まされたことが懐かしく思い出されます。就職浪人を覚悟していましたが、水産庁の追加募集試験があり、二月に合格の通知を受けました。

近年、就職状況は非常に厳しく、今だ就職が内定していない学生が多いようですが、諦めずに目標に向かって頑張ってください。運不運もありますが、必ず道は開けると信じています。

話は変わりますが、一、二年生の実習生を見ると、将来の目標が定まっていらないのか実習に対してあまり興味を示さず、不平不満を言う学生が目立ちます。もちろん、船内生活は陸から離れた特殊な環境下における団体生活ですから、不慣れな故にストレスがたまることは分かりますが、もう少し前向きに取り組みむべきだと思います。そうする内に、自ずと将来の目標が見えてきますし、また実習の経験が将来何らかの形で必ず役に立ちます。

私はまだ新米航海士で知識・技能そして経験が浅く、練習船の航海士



として反省すべきことは多くありますが、多くの船に乗船した新たな目標を設定して技能を磨いていきたいと考えています。

たくさんの生き物に 触れよう!

永 田 理 雄
(増殖学科 四十九期)

私は非常に好きな淡水魚の研究をしたかった。そのため、大学での最初の目標はできるだけ数多くの淡水魚を生で見て触れることにあった。

二年生の前学期、卒論で山口県河川の淡水エビ類の分布調査を行っていた先輩の手伝いをする機会を得た。ほとんど毎日先輩と友人たちと暑い中胴長を着込み、川の中でタモ網を振り回し魚・エビ獲りに燃えた。おかげでオヤニラミ、イシドジョウなどの貴重な淡水魚を見ることができ感動したものであった。

その年の夏休み、ある先生の紹介で和歌山県の串本海中公園の水族館で約一ヶ月の住み込みアルバイトを行った。僕の仕事は約三十個の小水槽にいる海の住人たちの世話。サンゴなどに共生するカクレエビの仲間たち、食欲旺盛なヤドカリ、前脚で貝をたたいて割るシャコ、パチンと

音を鳴らすテツポウエビ・・・この不思議な生き物たちは僕に新鮮な驚きと新たな興味を与えてくれた。

現在、僕は研究科でテツポウエビの分類学的研究を行っている。もちろん、串本での経験から甲殻類についてもっとしりたいと思ったからだ。新入生の中には「これから大学でどんな生き物に興味をもって研究すればよいのか?」と考えている人もいるだろう。大切なことは良い先生と先輩をできるだけ早く見つけ、生き物を直に触れるチャンスを得ることである。こうした機会を生かすことによつては、この大学で自分にしかない研究を発見することができるのではないだろうか。

研修生の声

研修生として思うこと

下関水道局浄水課

松 田 満 夫
金 子 謙 太郎

私たちは、下関水道局浄水施設の長府浄水場に勤務し、下関市民のみなさんに安全な水を安定供給させるために二十四時間体制で浄水になるまでの水処理の過程を監視・管理する仕事をしています。

しかしながら、昨今の原水水質の悪化に伴いさまざまな問題が起ってきており、その中でもプランクトンは欠かせない要素の一つで、種によつては水処理を大変に困難にするものや、逆に水質をよくするものがあるなど、水道と密接な関係を持っています。ですから原水や処理水中に含まれるプランクトン種の選別や繁殖の程度を把握することは、水処理を行う上で絶対条件となります。

したがって、プランクトンの同定調査を徹底する必要があるため、今以上に検査等を密にしていかなければなりません。そこで水産大学校生物生産学科の上野俊士郎先生の研究室で専門的にプランクトンの勉強をさせて頂くため、研修生としてお世話になる事になりました。

私たちは高卒ですぐ今の職場に就職しましたので、大学というものを経験したことはありませんが、研修をして思うことは、各専攻する分野を学ぶ環境が整っており、実社会に出てもすぐに学んだ知識が役に立つ状況にあるんだということです。皆さんもこれから就職されていくと思いますが、専門的な知識を携えることは非常に心強いものになると思います。

このような恵まれた環境の中で、

今の仕事に役立つ知識と結果を得て、この貴重な研修を終えたいと思います。

新任紹介

就任にあたって

事務部長 中 島 義 人



平成十一年
十月一日付け
で事務部長に
就任いたしました。
よろしくお願ひいた
します。

私は今回で三回目の転勤になりましたが、ここ下関市は海と山の自然環境を始め、古墳、遺跡、温泉が近くにあり、生活環境としては申し分ないところです。新しい土地での人との出会いが、サラリーマンの財産であり宝であると思っています。一人でも多くの人と知り合い、人の輪を広げてゆきたいと考えています。

さて、水産大学校は行政改革の真っただ中にありますが、既に平成十三年四月から独立行政法人に移行することが決定しています。現在は内部組織等の規程を整備しておりますが、教職員を始め学生の皆さんに

不安を抱かせることなく、スムーズに移行したいと願っており、私も微力ながら尽くすことが出来ればと考えております。

一方、水産業の現状をみると、世界の海で自由に操業ができた時代から、今や、国際的な協調の下にのみ利用可能という時代に枠組みが整えられつつありますが、国民生活にとつて必要不可欠な水産食料を安定的に供給する上で、水産業は重要な一翼を担っております。

当水産大学校は、水産に関する人材を養成することを使命として、また、新しい発想で挑戦できる人材として、社会に巣立ってゆくわけですので、学生の皆さんが余裕を持って過ごせる環境づくりを心がけてゆきたいと考えております。

三度目の水大校にて

会計課長 河内洋司



平成十一年十月一日付けを持ちまして、東北区水産研究所(塩竈市)から当校会計

課に赴任して参りましたが、実は三

度目の水産大学校勤務となりました。思い返しますと、昭和四十三年に最初の勤務となって十八年間お世話になり、その後、今は無き西海区水産研究所下関支所・南西(現瀬戸内)海区水産研究所・九州漁業調整事務所と渡り歩いて六年前に古巣へ戻ったのでありますが、四年後突如に東北水研への異動命令が下されて二年半の勤務の末、再び舞い戻って来た次第であります。

この間、三十年余り水産庁関係の職員をしていますが、最初の水大校では学園紛争、西水研下関では行政監察、南西水研では研究部門の改組、九州漁調では日韓・日中の漁業協定の見直し、再度の水大校では学科改組、東北水研では再び研究分門の改編と行政監察、そして今や、試験研究機関や教育機関等は独立行政法人化へ進みつつありまして、何だか変動・変革の世界そのものを生きて来たような気がしております。

そして今や、まさしく水産大学校も否応がなしに独立行政法人化にならざるを得ない厳しい情勢にありますが、これからの水産業を担う若者たちの教育(育成)を行うために、教官・船員・事務官が一体となって様々な課題に取り組んでいく必要があり、小職も微力ながらその一員と

なって努力して参る所存でありますので、皆様方におかれましても、以前にも増しての御指導・御鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

二十五年ぶりに 帰って参りました

施設課長 高本 實



私は、昭和四十八年本校庶務課に採用され、在籍一ヶ月半で東京駐在員として

漁政課(当時は長官官房総務課)に赴任し、二十五年ぶりに帰って参りましたが、採用当時の木造の建物が校内に散在していた当時と比べ、近代化された施設の変わり様に驚かされました。

東京駐在を四年近く経験した後、本庁では、庶務、金融、補助金、漁港整備、労務管理等の事務を行い、その他海洋水産資源開発センター、水産研究所、漁業調整事務所と幅広く経験させていただきました。昨年一月一日付で着任して二年が過ぎましたが、この一年間は本校の独立行政法人の移行に伴う種々検討等にあたふたとした一年間でしたが、

「独立行政法人水産大学校法」も成立し、来年四月一日の移行に向け設立準備や共同研究棟建設等を通じ微力ですが、より一層の水産大学校の発展に努力をして参りたいと思っております。

漁業センサスと 共に歩んで

水産情報経営学科 井元 康 裕



昨年四月から情報経営システム講座に兼任し、早や一年が過ぎました。一昨年十月、三十四年間の国家公務員生活にピリオドを打ち、参議院議員の秘書に転身し、半年後に再度、農林水産省に新規採用となって本校にまいりました。

私は、昭和三十九年農林省に採用され、統計情報組織で漁業センサスの調査設計・取りまとめを行うセクションを中心に仕事を参りました。経済企画庁や水産庁に出向もしましたが、入省以来実施された七回

の漁業センサスのうち、実に五回に
ついて携わることになったのは、よ
ほど漁業センサスに因縁深いものが
あったのだとしか言い様がありません。

漁業センサスは、日本の漁業構造
を解明するのになくはならない統
計であるとされる一方、膨大な報告
書が作成されることから、果たして
十分に利用されているのかとの批判
の声が聞かれます。これに応え、新
たに作成された統計を中心に漁業構
造の分析に手を染めるうちに、いつ
しか漁業経済研究の分野に足を踏み
入れる結果となりました。

今、日本の漁業は、新海洋秩序の
下で、かつてないほど大きな転換期
を迎えています。このような時であ
るからこそ、的確な判断に資する統
計データを始め、あらゆる情報を駆
使し、将来展望の開ける漁業の方向
付けを行い、漁業関係者のみならず
国民全体で取り組んでいける体制を
作り上げることが何より大切と考え
ます。

このような情勢にあつて、水産情
報経営学科は明日の我が国水産業の
展望を切り開いていける人材を育成
する重要な学科であるとの思いを深
くしています。これまでの経験を活
かし、そうした人材育成に微力を尽

くればと願う次第であります。

着任にあたって

耕洋丸船長

長 友 洪 太



五年振りに
母校の練習船
へ戻ってきました。
卒業後、
二年足らずの
民間船の経験

以外は、三十年弱の永い年月を練習
船職員として過ごしてきた私が、福
岡に所在する業務内容の全く異なる
九州漁業調整事務所所属の取締船白
鷗丸船長として四年を過ごしました。
この四年間は、韓国・中国を間近に
控えた北部九州海域の漁業秩序の維
持を担当する九調及び白鷗丸にとっ
ては、激動の時期だった様に感じま
す。このときの経験の一部を述べて
みます。

世界中が二〇〇海里経済水域を主
張する中で、我が国は両国に対して
その適用を免除していたために、距
岸十二海里の領海・漁業水域間際ま
で進出して操業する両国漁船を目的
の当たりとする日本の沿岸漁業者に
とっては、目の上のたんこぶ以上に
憎つくきものであつたに違いありま

せん。全漁運を中心にした二〇〇海
里全面施行・全面適用の強い要請が
ようやく実を結び、まず韓国に対し
て平成十年初めに日韓漁業協定の終
了通告が伝えられました。それを境
にして白鷗丸も「監視船」から「取
締船」への体制切り替えのための訓
練等々忙しい毎日となり、監視？取
締？、韓国語・中国語はちんぷんか
んぶんで、練習船業務しか知らない
私にとって、韓国・中国漁船を相手
にした勤務はまさに異質のものでし
た。現時点になつても韓国との暫定
水域問題や日中漁業協定は解決して
おらず、日本の漁業者には満足のい
くものとはなつていません。早期解
決が期されるところです。

この間の本校も、改組・改革が進
められてハード・ソフト面で大きく
変化しようです。身近なところに
本校にとつても重要な関心事でなけ
ればならないはずの日韓・日中問題
があり、新しい漁業秩序を守るため
の取締体制に即応できる人材を養成
することも、本校の使命と考えた改
革が必要ではないでしょうか。今後
ともよろしくお願いします。

耕洋丸に乗船して

耕洋丸機関長

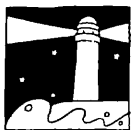
松 下 博



二年振りに
練習船にもど
り、学生達と
航海を続けて
います。この
航海は定年を

前にした最後の遠洋航海でもありま
す。それだけに想い出深い航海にし
たいと、日夜、学生を厳しく指導し
つつも和やかに過ごしています。し
かし、この二年間の空白は大きく、
航行中の講義と実習のための準備に
追われ、毎日がアツという間に過ぎ
ているのが実状です。初めて、練習
船に赴任してこられた士官の苦勞が
身にしみて分かります。

昨年四月から、三年生、専攻科、
四年生とそれぞれ学年が異なる学生
と生活を共にしています。水大生
の気質は今も昔もそれほど大きくは
変わっていないようです。男子学生
は男子なりに、女子学生は女子なり
に、その海に向ける気持ちは十分持
ち合わせています。ひと昔前までの
学生は、少々それを出しすぎて抑え
ることで苦勞をさせられましたが、
現在はそれをどのように引き出して



教育するか、この点が我々士官に課せられた役目であり、これまでと異なるところで。

練習船での教育は講義と実習とに別れています。講義は実習を行う前の大切なものですから、サボるわけには行きません。全員受講、全員実習が大原則、これを三年生の乗船から始め、専攻科の乗船終了まで、延べ三六五日繰り返し行います。初めて乗船してくるときの彼らは、船内の共同生活への不安、また船酔いの心配などでいっぱいのように見受けられます。しかし、実習が終える頃は見違えるほどに成長し、自信をつけて胸を張って船を下りて行きます。この姿をみると、時化の海でもに苦労したことなどは、どこかに吹っ飛んでしまい、学生達とともに過ごした楽しい思い出だけがあとに残ります。だからこそ、練習船での教育に情熱を傾けてこられたのではないかと思えます。

今航海も即社会に役立つ優秀な学生を育てることを目標に、乗組員と協力して頑張っています。



出戻りの記

天鷹丸船長

貞 包 弘 之

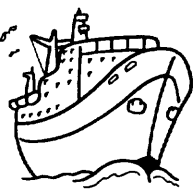


昭和四十二年に本校漁業科専攻科を卒業してすぐに天鷹丸に乗船、耕洋丸と天鷹丸に交互に勤務して三十年間、まさか学園便りの新任紹介に記事を頼まれる立場になるとは思ってもいませんでした。平成八年人事異動の風に吹き飛ばされて、北海道水産研究所北光丸の船長として釧路に転勤し、練習船勤務では味わえない、様々な経験を積むことが出来ました。例えば鮭鱒流し刺網、レーダー故障での霧中航海、着氷、流氷の中での調査等々。航海士として三十年間過ごした割には船長の苦労を何も知らず、いざ一船を預かってみると、今まで見てきた先輩船長達の何気ない指揮の基には相当の熟慮があったのだと思ひ知らされました。釧路で二年間

過ごした平成十年に中央水産研究所蒼鷹丸に転勤し、横浜暮らしとなりました。蒼鷹丸では日本一周の放射能調査航海で実施した一万m深度のベントスネットと採泥、五千mの深海

艦が印象的でした。二隻の水研調査船しか知りませんが、厳しい環境の中、甲板部も機関部も一致協力して調査を実施しているのを体験し、目を洗われるような気がしました。今まで練習船で実施してきた調査に真剣味が足りなかつたと反省しています。平成十一年四月天鷹丸船長で出戻りました。水産大学を離れていたのは僅か三年でしたが、その間に学科の名も変わり、人も代わり、丸で今浦島みたいな気持ちでした。しかし、乗船してくる学生は昔も今も変わりません。遠洋航海はインド洋の鮪操業が主目的でしたが南シナ海、シンガポール海峡での海賊被害が報じられ、二十一世紀の日本を担う若者を多数乗船させての航海なので緊張の連続でした。これからも安全第一の運航を心掛けるつもりです。大

学校は独立行政法人化に向けて着々と準備を進めています。練習船としては先輩方が現在まで積み重ねてこられた実績を踏まえ、乗船実習を実施していけば何の心配もないと考えています。



赴任挨拶

天鷹丸機関長

古 賀 勝 之



昨年四月より天鷹丸に水産庁白竜丸より転船赴任しました、よろしくお願ひします。

平成八年三月迄は、耕洋丸で皆様には大変お世話になりました。練習船とは業務の異なる漁業取締船でしたが、未経験の漁船取締業務で、対馬周辺・山陰沖、三陸・北海道襟裳岬沖が主な取締海域でした。外国小型漁船と我国沿岸漁業との競合、外国大型トロール漁船の船名隠蔽しての操業等には、旗国主義の取締りに疑問も在りました。

翌年、同じく白竜丸に転船しまして、五、六月は北洋の公海でのサケ・マス捕獲禁止、十一月より三ヶ月はインド洋での南マグロの漁期外(クローズ)取締等に行きました。

国内では、日韓漁業協定の終了が望まれ、平成十一年一月二十二日新協定の発効に対応した取締訓練の実施や現認を通して、接点での厳しさ、国際間の困難さを痛感しました。

大 学 祭

99. 海燕祭を振り返って

99. 大学祭実行委員長

高 橋 正 浩
(海洋生産管理学科三年)

本校は、平成九年度より改組が施行され、学科名も変わり、時代を取りし一段と充実した高品位な学理と研究の教育が要求され、外部からは、独立行政法人化と言うサバイバルレースの号砲が鳴り、革新的流動的な中で練習船も、特色ある答えを出さなければならぬと考えます。心機一転、これまで得た知識、経験を活かし、今後練習船での指導教育に当たりたいと願っています。これからも、何分よろしくお願いいたします。

今年度の海燕祭を一言で言い表すと、地域密着の海燕祭でした。地域とのつながりから、たくさんのことを学びとり、貴重な経験をさせていだきました。下関という大きな地域とのつながりでは、五月の海峡まつり、八月の馬関まつりに参加しました。そこで知り合った青年会議所の皆様には、大学祭のPR、広告協賛等様々なご支援をいただき、人と

のつながりの大切さを実感しました。そして、前年までとの変化・進歩として一番大きかったのが、吉見地域とのつながりです。ほたるまつりでの模擬店の手伝い、ふるさと夏祭りのステージ企画の運営。多くの人から、「盛り上った」、「活気があった」という言葉を聞くことができてとてもうれしく感じました。忘れられないのが、「どうして今まで地域と学生が結びつくことがなかったのか」という言葉を聞いたことです。こんな大きな「つながり」を僕達がつくることができたということが本当に良かったと思います。

こういった地域社会とのつながりによって、大学祭の内容にも今までと一味ちがった企画をつくりだすことができました。吉見小学生の書道・絵画・工作の展示、下関原爆の会の方々の協力による原爆展、大学祭の枠というものを広げることができました。

99. 海燕祭を振り返って、今年度は本当に大きな一歩を踏み出すことができたと思います。それは今年度のテーマであった「Sailing」に僕が込めた、向い風の中でも力強く前に進んでいこう、という心意気通りの結果になったと思います。

三年間大学祭実行委員を続けて、

本当に貴重な経験をする事ができました。二〇〇〇年の海燕祭がさらに大きな素晴らしいものになることを願っています。



ク ラ ブ 紹 介

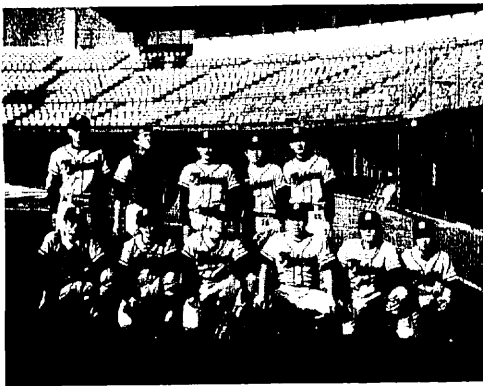
野 球 部

高 田 慶 信
(海洋機械工学科三年)

我々、野球部は弱小チームと言われてきました。本当に、ここ二、三年勝っていません。自分達が入学して以来、試合をする度にラグビーのような大量失点で負けた記憶しかありません。

しかし、今は弱小チームから抜け出しつつあります。三年生を軸に、一年生の経験者の加入でにわかには活気づいてきました。日々の練習は、キャッチボールから始まり、ノック、トスバッティングと単純ですが、我々チームのモットーは、明るく、楽しく、元気良くを念頭においています。なにか困ったことが発生したら、部員全員でミーティングを開き、皆が納得するまで話し合っています。授業終了後から、日が暮れるまで毎日汗を流しています。

昨年十一月十三日にインカレが行われました。前回の優勝チーム、西日本工業大学に十一対四で八回コールドゲームで負けましたが、確かな手ごたえをつかみました。十一点は、



平成11年度卒業予定者進路状況一覧表

平成12年2月1日現在

◎進学(大学院等)	豊丘村役場 金山町役場	大東魚類(株) 九州活魚センター(株)	(株)大近 (株)アリスト	旭機装(株) 大洋エーランドエフ(株)
水産大学校研究科	◎水産関係各種団体	北九州中央海産市場	(株)トーホー	(株)前川製作所
水産大学校専攻科	海外協力隊	高森興産(株)	理研ビタミン(株)	(株)西島製作所
水産大学校研究生	(社)日本舶用工業会	(株)ダイフク	(株)スナダフーズ	協和製作所
広島大学大学院	(財)日本海洋レジャー安全協会	(株)チカヨー	日本食品(株)	ヤンマーエンジニアリング(株)
三重大学大学院	(財)広島県漁業共済組合	城山合産(株)	ディリーフーズ(株)	川崎油工(株)
九州大学大学院	(財)山口県保健協会	坂本飼料(株)	(株)平野屋	東ソーラー(株)
鹿児島大学大学院	兵庫県漁業協同組合連合会	四国興産(株)	(株)ほんぼ	日立機械電工業(株)
長崎大学大学院	山口県漁業協同組合連合会	マルハ食品(株)	(株)石村萬盛堂	(株)アイム
高知大学大学院	長崎県信用漁業協同組合連合会	いなば食品(株)	但馬食品(株)	ゼニライトブイ(株)
その他の進学	◎民間企業	マリンフーズ(株)	ヤマハ食品(株)	前沢工業(株)
◎就職(官公庁)	日本郵船(株)	(株)東京かねふく	(株)福さ屋	日東製鋼(株)
農林水産省職員	神戸日本汽船(株)	(株)ホクチン	マルモト(株)	(株)日本電線電気サービス社
文部省職員	大王海運(株)	(株)西昆	ヤマエ久野(株)	太平電業(株)
海上自衛隊員	日本海事(株)	(株)ハローズ	メディアミックス(株)	サニックス
愛知県職員	東洋水産(株)	(株)キュービー	(株)アランスケピッチ	聖徳ゼロックス
茨城県職員	日本水産(株)	(株)マルタイ	(株)シェブ・アップ・ハウス	ビック・モーター
山口県職員	(株)極洋	(株)サンヨーフーズ	総合科学(株)	自営業
山口県警職員	大水研(株)	(株)木村勝	中山商店	その他
神戸市役所職員	大阪魚市場(株)	(株)横浜新	ケンコーマヨネーズ(株)	
姫路市役所職員			中国水興(株)	
下関市消防署				

平成十二年度入試概況

本校の平成十二年度入試は、本校の独立行政法人への移行が決まった中で、受験生の反応に神経を尖らせたがらの募集からスタートした。

結果は、志願者総数で対前年十一%減の七九三人で、当初の予想を大幅に上回る減少となった。

一般入試の学科別の応募状況は、水産情報経営学科四一名(募集人員一四名)に対する倍率二・九倍、海洋生産管理学科二三名(募集人員二二名)に対する倍率四・三倍、海洋機械工学科八〇名(同二・五倍)、食品化学科一五六名(同四・九倍)、生物生産学科三八〇名(募集人員二一名)に対する倍率一八・一倍)で、生物生産学科が前年の志願者を確保した反面、他の四学科は総て前年を大きく下回った。

また、先に行われた推薦入試には、全体で六八名が応募し、三六名が合格している。

一般入試は、平成十二年二月十一日に下関・東京・大阪の各試験場で実施され、二月二十三日に合格者を発表したところである。

次年度以降の学生募集に関しては、十八才人口がまだまだ右下がりを示す中で、かつ、本校の独立行政法人化と相俟って、本校の生き残りをはけると言っても過言でない対応となるが、本校の特色と個性豊かな教育方針を前面に出し、受験生に魅力ある大学となるよう一層の努力をして参る所存であります。



〔平成十一年度〕

〔水産特論講師〕

七月九日

水産庁企画課 課長補佐

保科 正樹

七月七日

水産庁国際課海外漁業協力室 室長

衆 知文

十一月十七日

水産庁管理課 課長補佐

堤 眞治

十一月二十六日

水産庁計画課 課長

長 野 章

一月二十八日

水産庁栽培養殖課 課長補佐

淀 江 哲 也

十一月三日

勲三等瑞宝章

藤 澤 浩 明

〔叙位・叙勲〕

〔名誉教授〕

六月九日

村上 正 忠

(前水産大学校長)

〔博士号取得〕

平成十年

二月二十三日

博士(農学)

荒 木 晶

平成十一年

二月十二日

博士(農学)

永 井 毅

(計 報)

平成十一年

四月十八日

橋本市 雄

(元漁業学科教授)



水産大学校
 ☎759-6595
 下関市永田本町
 2丁目7-1
 発行
 学園だより
 編集委員会
 電話0832(86)5111

水産大学校の 独立行政法人への移行について

水産大学校長 三本 菅善昭



本校の教育研究につきまして、種々ご支援賜り厚くお礼申しあげます。

前号でお知らせいたしました、本校は、平成十三年四月一日に農林水産省所管の特定独立行政法人へ移行することになっております。独立行政法人制度は、国の行政改革の一環として、自律的に運営させた方が

効果的・効率的な機関・組織等を、国の行政組織の附属機関等としての位置づけから独立させるために導入されるものであります。独立行政法人には二つの形があり、本校は、特定独立行政法人となります。特定独立行政法人は、営利等を目的とする法人等とは異なり、国の業務を実施するために設置されるもので、職員は国家公務員、必要な経費は国から支出されることになっております。

平成十三年度から独立行政法人となる機関は、試験研究機関、文部省所管以外の文教施設などであり、本校と同時に、国立研究所や海技大学校、航空大学校、農業者大学校なども独立行政法人となり

ます。なお、新聞などで既にご存知のことと思いますが、先般、文部省所管大学につきましては、文部大臣が独立行政法人化するとの方向を示し、現在、各大学で検討されていると聞いております。

本校は、独立行政法人となりました。本校が国として行っている教育研究業務を引続き実施することとされており、教育組織は現在と同じく、水産情報経営学科、海洋生産管理学科、海洋機械工学科、食品化学科および生物生産学科の五学科、それに専攻科、水産学研究所で、何ら変更はありません。当然のことですが、学生も従来と同様に教育を受けることとなります。

教育の組織と内容などに変化はありませんが、独立行政法人になりますと変更される主な点について述べますと、その第一は、現在は国の行政組織の一部であり、役員は置かれておりませんが、独立行政法人には役員を置くことが法律で定められており、独立行政法人としての水産大学校には、役員として理事長および監事が置かれ、それぞれ農林水産大臣によって任命されます。これによって、本校は、理事長のもとでの管理運営が行われるようになり、従来は水産庁長官が、その権限として行ってきた職員の任命等の多くの事項が理事長の職務になります。本校

は管理運営の自立性が高まる一方、その責任が重くなります。これが最も大きな違いであります。第二は、農林水産大臣によって中期目標が定められ、これを達成するための年度計画および中期計画を、本校が作成して教育研究を実施することが明確化されたことでもあります。なお、毎年および中期目標の最終年に、目標の達成状況等を報告するとともに、農林水産省に置かれる評価委員会の評価を受けて公表することが義務づけられます。これによって本校においては、効果的で透明性の高い教育研究が行われることとなります。第三は、学生の就職対策や教育研究の企画広報機能を強化することが必要であり、事務部門および教務部門を新たな組織に再編するための見直しが行われます。

現在、新年の四月一日のスムーズな独立行政法人への移行と、より充実した体制とするための準備を進めております。

独立行政法人は、自立性が高まる一方、評価委員会による評価と透明性を求められ、運営の責任を問われる制度であります。職員一同、本校の一層の発展のために従前以上の努力をしましてまいりますので、関係各位におかれましては、変らぬご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

独立行政法人に向けて

学生部長 濱 口 正 人

平成十一年七月、独立行政法人通則法の成立に伴い、本校は平成十三年四月から独立行政法人水産大学校としてスタートすることが決定しました。二十一世紀となった年が本校の歴史の新たな二頁を飾るのも何かの縁だと感慨深いものがあります。独立行政法人となった経緯や内容などについては、校長が詳しく書かれておりますが、最近在校生や受験生本人またはそのご両親から、独立行政法人と今の大学との違いは何かという問いかけが多々あります。今だ不透明なところもありますが、現在までに決まったことについて、特に学生の立場からみた違いについて述べたいと思います。

学生の入学検定料、入学科、授業料、寄宿料、奨学金制度などについては、従来同様の国立大学と変わりはありません。また、卒業時の学士の授与や学割など学生の身分についても従来と変わりはありません。更に、本校が各省庁から認可を受けている、例えば船舶職員、食品衛生監視員などの資格についても変わりはありません。

教育・研究面では、個別法の中で

本校はその使命である「水産に関する学理及び技術の教授及び研究」を行うことにより、水産業を担う学生を社会に送り出すということがうたわれており、従来以上にこのことを強く意識して教育研究を実施することが必要になります。

また、昨年も申し上げましたが、独立行政法人となりますと、総務省、農水省による三・五年毎の評価委員会での評価を受けるようになります。本校としてはこの評価に耐え得る実績を残すことが必要となり、このことから学生部として最重要課題として考えていますことは、学生の入学者の確保と就職の確保です。現在も入学志願者確保のために、キャンパスガイド・ポスターの印刷・配布、ホームページの充実及び高校訪問を行っております。就職については、就職ガイダンス、学科長クラスの教官による企業訪問を行っておりますが、独法化後も少子化を念頭に入れ、オープンキャンパスの実施、就職ガイダンスの複数回開催など、これらの充実に努め、積極的に本校のPRを機会あることに行い情報提供してまいる所存です。

独立行政法人として新たな出発が決まりました以上、制度の利点を最大限に生かして、一層の教育研究の

向上に努め、皆様の期待に応えるべく努力して参ります。

特 集

水産大学校

水産学研究所のあゆみ

水産学研究所長

林 健 一

水産大学校では修業年限一年の研究科を廃止して、修業年限二年制の水産学研究所を平成六年四月に開設した。この新たに設けた研究所の教育課程は同年六月に修士（水産学）の学位の授与を受けることのできる大学院に相当する教育を行うものとして、学位授与機構（現在は大学評価・学位授与機構）から認められ、名実共に修士課程として動き出した。組織・教育課程としては、漁業技術管理學および機関工学の二専攻分野からなる水産技術管理學専攻と水産資源利用學および水産水産資源管理學の二専攻分野からなる水産資源管理利用學専攻を有し、学生定員は一学年十名である。

この五年間の修了者は漁業技術管理學専攻分野が十名、機関工学専攻

分野が十一名、水産資源利用學専攻分野が六名、水産資源管理學専攻分野が十九名である。本校の課程を修了した全員が、そろって学位授与機構から修士（水産学）の学位を授与されている。現在、平成十一年度入学生が十二名、平成十二年度入学生が九名在籍し、研究に励んでいる。これら修了生や在学生の中には韓国と中国からの留学生が各一名、他大学の卒業生を一名含んでいる。修了者の就職先は国家公務員・地方公務員、水産関係の団体、大学教官、水産会社、水産関連機械メーカー、水産食品会社、調査会社、製業会社などが、他大学や海外の大学に進学し、研究を続けている者もいる。

認定以来五年を経過した平成十一年度に、大学評価・学位授与機構による研究科教育の実施状況審査があり、設立当初よりも多くの教官の認定を受けることができた。平成十三年四月から独立行政法人水産大学校となっても、研究科組織のより一層の充実が図られ、学生にとっても選択肢が拡がり、水産学における広い分野での研究ができるものと確信している。

第五回水産大学校公開講座

「水産おもしろセミナー」
開催報告

公開講座委員会委員長

上野 俊士郎

本年度で第五回を数える公開講座を、十一月十二日(日)十三時から新築の共同研究棟四階多目的会議室で開催いたしました。

今回は、水産大学校教官のオリジナルな研究を地域社会と産業界の方々によりご理解頂くために、興味深く且つ分かり易くをモットーに、「水産おもしろセミナー」とサブタイトルを掲げ、五学科から講演者を一人ずつ出して実施いたしました。

講演題目と講演者は次の通りです。関門海峡を後悔せずに航海するため……?!

木村絃治郎(海洋生産管理学科教授) 目から「うろこ」(@)。「うろこ」から……??

江副 覚(海洋機械工学科教授) 「ヒ素は怖い!」とは限らない?

花岡 研一(食品化学科教授)

ノリにのったバイテクのお話し

水上 謙(生物生産学科教授)

水産物「商品」は消費者がつくる!?

三輪 千年(水産情報経営学助教授)

参加者は今までで最も多い二二五

名で、二〇〇名収容の多目的会議室に立見者まででる盛会振りでした。

そのうち学外からの受講者は八九名、水産大学校学生二〇八名、水産大学校職員一八名でした。今まで学外者は多くて三十名前後でしたので、これは実にうれしい飛躍的な増加でした。

この受講者が増えた要因として、講座の演題を、一般の方には堅苦しい専門的表現ではなく、くだけたものにし、公開講座のサブタイトルも「水産おもしろセミナー」としたことと思つています。このように専門用語をできるだけ排除して、分かりやすい公開講座はあるべき本来の姿でしょう。



また、今回広報活動を少し変えてみました。新聞、テレビなどのマスコミに案内をお願いし、JR車両や路線バスにポスターを掲示いたしました。また、水産大学校に近い下関地区などの公共機関や自治会組織に案内やチラシを配布しました。この効果も確かにあつたと思つております。また、インターネットを通して講演が生中継もされました。

受講者に答えていただいたアンケートには、今回のテーマは魅力的であつたこと、分かりやすい内容であつたことなどが書かれていました。水産大学校教官の本来の仕事は水産学に関する学生教育ですが、今後専門以外の一般の方に理解いただく気持ちがありますます要求されてくることでしょう。

今後、本校教官の研究を広く知つて頂けるようにこの公開講座を充実させ、地域社会及び産業界と連携を密にするものにしていきたいと考えておりますので、ご父兄の皆さま及び関係者の暖かいご支援とご協力をお願いいたします。

第六回釜慶大学校との
学術交流懇談会を終えて

実行委員長 安田 秀一

韓国の釜山にある釜慶大学校との

学術交流懇談会は、毎年交互に訪問しあう形で行われ、今年は学長や講演者ら八名をお迎えして、水産大学校で開催された。

一昨年は、歓迎会最中の釜慶大学校学長の急逝で全日程が中止となり、その後の交流も一時危ぶまれたが、当時の水産大学校側スタッフの誠意に満ちた対応で、交流はさらに親密さを増したようであつた。

昨年は水産大学校側が釜慶大学校を訪問し、私も講演者の一人として訪問団に参加したが、一昨年の出来事のためか、手厚い歓迎を受けた。

今年には六回目となり、主要行事であるシンポジウムは十一月十六日に水大校内で執り行われたが、その準備のために、九月以来、釜慶大学校側の張榮振先生と、EメールやFAXなどで打合せを重ねてきた。この交流の実行委員会に初めて参画する私が委員長を仰せ付かり、当初は不安も感じたが、実行委員会のスタッフの多くはこれまでの経験者で、ミーティングを重ねるにつれて不安は払拭された。各スタッフは他の業務に追われながらも、この交流会を盛り上げるために、それぞれが積極的に分担業務をこなされ、万端の準備を整えて、この行事を迎えることができた。

今回は、釜慶大 学 校 側 の 都 合 で 準備のスタートがかなり遅れたことも不安の一つであったが、十一月十五日の福岡空港での迎えから始まった行事は、下関駅での歓迎式、夕方の歓迎会、翌日の水大校内の見学、午後からのシンポジウム、その後の水大校教職員との懇親会、さらなる親睦会、その翌日の下関市内の観光、福岡への同道、その間の二度の昼食会など、多くの教官や事務官の惜しめない協力も得て、恙無く見事に終えることができた。

紙面の都合で詳細を報告することができないのは残念であるが、最後に、この交流会が水産大学校後援会の援助で成り立っていることに感謝するとともに、さらに今後も引き継がれ、新たな共同研究の礎になるなど、実質的により実りあるものになることを願う次第である。

就職活動

就職活動記

本 田 夕 子

(食品化学科四年)

就職活動には百人百様のやり方がある。だから、どうすればいいのか、何がいいのかそれは一概にはいえない。

い。自分自身で判断していくことこそ、結果、悔いのない就職活動ができたといえるようになるかもしれない。ここで、私がどう活動したか、活動をとおして感じたことを紹介したい。

近年、「企業が学生を選ぶ」傾向が色濃い。企業側主導で事は進む。しかし、企業も学生も対等な立場にあると言う信念を持って活動した。特に、面接には、弱気になると思われそう、入社したいという姿勢を一瞬たりとも震ませまいという気持ちからである。

私が企業に資料を請求し始めたのは冬休み明け。実際、活動の方針すらおぼつかない状態だった。そして、会社説明会に初めて参加したのが三月中旬、それ以降四月中旬まで会社説明会に参加した記憶がない。逆にいえば、私が説明会に参加できる会社が少なかったといえよう。それはなぜか。資料を請求した会社からの反応が少なく、説明会の連絡さえもらえなかったから、また、エントリーシートで落とされ説明会まで呼んでももらえなかったからだ。三月、四月はこんな活動のやり方でいいのかという不安ばかりが募った時期だった。私の活動が軌道に乗り始めたのは五月中旬になってからだ。

この頃になって、何をどうすればいいのか、そして、どうするべきだったのか、がやっと分かってきた。今思えば、自分の考えがまとまってきたのも、企業に対してどうやってアピールしようか考える余裕ができたのもこの頃だったと思う。どれだけ早く自分の確固たる就職活動のやり方を見つけることができるかが、成功へのカギであるのではないかと。

最後に、活動中は何をどうすればいいのかいろいろ考え、そして迷うことだろう。うまくいかないと思っても、ほとんどの人が通る「内定」をもらうまでの通過点である。また、就職活動には「運」もつきもの。自分の人生を左右するターニングポイントを前向きに乗り切つて欲しい。

私の就職活動体験記

金 子 緑

(生物生産学科四年)

私が就職活動を始めた時、養殖をしたいと言う希望はありましたが、何の養殖か、会社の規模は、勤務地は、と言ったようなことは何も考えていませんでした。それに加え、学校で行われる就職説明会に出席したことがなかったので何をどうしているのかと言うことが全く分からず、

他の人と比べてかなり出遅れてしまいました。養殖で募集している会社が多くなかなか見つからず、焦っていたので、とりあえず一社受けてみようと思い、福岡で一次面接を行う企業を受けてみましたが、うまくアピールできず一次で落ちてしまいました。就職に関する本を読んでいるうちに、致命的な欠点はないが魅力が感じられなかったのではなかったかと考えました。私が誇れることと言ったら「女性にしておくのは勿体無い」とよく言われる体格と、なんにでも興味を持ち挑戦していく行動力と、部活で養った責任感、忍耐力だと思います。自分の個性が最もいかせて、したいことを選ぶのが一番私らしくていいのではないかと考え、それ以降は養殖のみで活動しました。

水産業の中でも特に男性のしごとだと思われている養殖業を選び、活動をすすめていく内に考えたことは、十分な準備が必要だということです。二つ目の準備は、業界の景気、会社の雰囲気、実際に働いている人の話、女性の待遇、過去数年の採用状況等を調べ、自分にあつた会社かどうかということ調べると言うことです。二つ目の準備は、社会に出る為の準備です。活動してみても、女性が働くことはまだまだ大変だと思いました。

実際に、女性を採用したことはないし、体力的にも無理だろうと言う理由で断られた会社もありました。でもこれがいんだと言う強い希望を持ってれば、男女関係なく理解してもらえた企業もありました。その理解を得る為には、大学生活の中で自分の進みたい道を見つけ、有意義に過ごし、魅力的な人間になっていくことだと思います。

在校生の声

一年間を振り返って

田 中 順 子

(海洋生産管理学科一年)

柔らかな春の日差しを浴びて、私はあこがれの大学生になりました。期待に胸躍らせた入学式から、はや一年、私はどのくらい成長できたのでしょうか。この一年をふり返ってみると、あっという間に時間が過ぎてしまつて、そのことに少し戸惑っている自分がいます。

海洋生産管理学科の学生になったものの、海に関して全くと言っていいほど知識が無かった私にとって、専門科目はとも新鮮なものでした。魚について、魚を獲る方法について、

その他いろいろ、この一年間で、海や魚が自分の身近なものになっていったように思えます。

海洋生産管理学科では、七月の終わりに海技実習がありました。その中で遠泳があり、全く泳げない私にとって「絶対に自分には無理だ」という気持ちがとても強くて、かなりの戸惑いがありました。しかし、教官や先輩の熱心な指導のもと、最終日には二時間の遠泳を無事に完泳することができました。この実習の中で、私は集団行動による協調性と忍耐力を学びました。

この一年、計画を立てずに思いつきのまま行動したり、無駄な時間を過ごしたり、と後悔する面も多かったです。残りの三年間は自分が思っている以上に短いと思います。趣味を見つけて没頭したり、いろいろな資格に挑戦したりと、有意義な大学生活にしたいです。

学生生活

吉 原 良

(水産情報経営学科二年)

僕は、この大学に入って二年目になる。そして、去年の一年生の頃と比べるとずいぶん学生生活にも張りが出てきた。そのことにより、学習

面や生活面にも良い影響を与えたように思う。

まず、学習面については、とにかく学校へ行くということを心がけた。まだ、足りていない単位が多いからだ。また、学校へいくと自分と気の合う友達と、いろいろなことを話したりして、気分が新鮮になる。自分と同じ考えを持った人が一人でも二人でもいると楽しく学校へ行けるのは不思議だ。そして、僕の学科では、水産経済・経営、情報処理・統計、海洋・環境学、漁村文化などの内容を専門として学んでいる。この中どの分野を専攻していくかは、まだ決めていないが、学年が上がれば、しっかりと考えをまとめようと思っている。

生活面では、下宿で一人暮らしをしていることもあって、ほとんど一人でいる。一見、「暗い」とか「わびしい」というイメージで考えてしまいがちだが、そうとは限らない。一人だからこそ、他人にふり回されずに自分の考えをしっかりと持つことや自分自身を見つめ直すことができた。だから、僕自身、この吉見という穏やかな環境で、自分を磨くことが精神的にも出来ているので、良かったと思っている。

このように、僕は、この学生生活

に十分に満足している。そして、これからもマイペースで頑張っていきたい。

誇りをもって

魚 返 拓 利

(生物生産学科三年)

私が水産大学校に入学して三年の月日が流れた。一年、また一年と後輩が増えるにしたがつて思うことがある。全ての学生に該当するのではないが、大半の学生がいったい大学に何をしに来ているのだろうかという感じを受ける。小中高とそれなりに勉強し、受験を乗り越えて大学に入ったのだから、毎日をなんとなく暮らすのではもったいないと思う。「勉強すべきだ」と御馴染みの馬鹿げた文句は言わない。趣味、遊び、サークル、アルバイト。何でもいから打ち込めるものをつくってほしいと思う。何らかの形でそれが役に立つはずだ。

「大学は勉強する場所」確かにそうであるが、私は「自分を見つける場所」でもあると思うし、後者の方が重要だと考える。私もすべり止めで入学した大学なので、はじめはやる気もなくダラダラとすごしたが、真剣に打ち込める趣味が見つかり、そ

れからいろいろなことに意欲的に取り組めるようになった。間違いなく、今までの自分とは違う自分がいた。そして今は将来の大きな目標が見つかり、充実した日々を送っている。

私は水産大学の学生であることに誇りを持つている。だからこそ、他の学生には希望を持って生き生きと毎日を過ごしてほしいと思う。希望がかなうか否かは、結果という名のおまけに過ぎないのだから。

卒業生の声

就職して思うこと

平岡 淳

(機関学科 四十八期)

平成十二年四月に研究科(計測・制御研究室)を修了後、川崎油工(株)に現在籍を置いています。今、会社で技術部開発グループで仕事をしています。研修期間が九月に終わってからは、まだ三ヶ月間しか居ないので分からないことだらけです。当社は大型の油圧プレス機械を製造販売していて、仕事の内容としては、新しい構造のプレス機械、また、プレスを応用した新しい加工法の開拓です。会社に入って、学生との大きな違いに気づきました。それは、会社で

する仕事にはかける事のできる時間が予め決まっています。それが目に見える形で利益に影響するという事です。やはり、お金を払ってする勉強とお金をもらってする勉強との根本的な違いを感じました。学生の頃、先に就職した友人にことごとく、学生に戻りたいとグチられて、そんなに学生がいいのかと思いましたが、今は同感です。

さらに、最近よくこんなことを思います。学校で勉強ばかりして人間関係を築くのが苦手な人間と、学びかつそこそこ遊んでいた人間のどちらがいいのか。私は後者のほうが自分のためになると思っています。いくら学校で勉強ばかりしていても、会社で年配の人と比較するとペーペーです。一から勉強しないと使えない学歴だけならば何の役にも立たない、と思うのですが(?)。

学生時代は正直なところ勉強より友人と遊びまわるのに必死でした。よく遠方まで友人を拉致したものでした。しかし、学部二回生であまり学校にも出ないでフラフラしていた時の生活は決して面白くはなかったです。今になって考えれば両立しているときが一番楽しかったように思われます。

近況報告

井上 英

(製造学科 四十七期)

製造学科を平成九年三月に卒業し、早いものでもう4年が経とうとしています。が、私自身年に二〜三回は水大校に行くのであまり懐かしさを感じないといったところが正直な気持ちです。

私が水産大学校製造学科に入学したのは、平成五年四月でして、もう八年が経とうとしています。中学・高校と東京の池袋にありましたが、吉見に来た当初は、環境のあまりの違いに戸惑いを感じました。しかしながら、住めば都という感じで、すぐに吉見の環境に見事に染まってしまい、卒業して福岡市内に引っ越した直後は、逆の意味でもの凄いと違和感を感じました。

現在、九州大学の大学院博士後期課程二年に在籍している私ですが、ここ(生物資源環境科学研究科生物機能科学専攻)には水大校で同期の柴田君(製造出身)と木村君(増殖出身)もいます。

現在私は、「トリブチルスズの沿岸海域における分布と環境動態および二枚貝への影響について」という内容で日々実験しています。トリブ

チルスズは、主に船底や漁網への防汚剤として広範囲かつ大量に使用された物質ですが、極めて強い毒性を持つことが分かり、最近では巻貝のメスにペニスを形成させる現象、imposex(インボセックス)がトリブチルスズで引き起こされることでTVなどで報道されたのでご存じの方も多いかと思えます。近年、アサリをはじめとする二枚貝の漁獲高が減少しており、その原因の一つとして化学物質によるものではないかと考え、さらに沿岸域に広範囲に分布しているトリブチルスズが影響を及ぼしているものの原因の一つではないか?という考えから研究しています。実験自体は大学よりも他の研究機関で行うことが多く、これを書いている今現在は、広島県大野町にある水産庁瀬戸内海区水産研究所にお世話になってます。が、ここには製造学科で同期だった佐々木さんがいます。

以上のように結構呑気に未だに学生生活を送っていますが、来年度は課程修了の年なので学位取得と就職を目指して励んでいます。

研修生の声

研修を終えて

宮崎海洋高等学校 教諭

諏訪田 登

幾多の水産大生が、時折りの冷たい北風に吹かれながら網代橋を渡り、勉学に勤しんだであろう同じ道を辿りながら、「今日で研修も終わりか」と思うと少し寂しい思いがします。

今回、三ヶ月の短い期間ではありましたが、集中して一つのテーマについて研修できたことは大変幸せでした。研修中に思ったことは、ある会社の技術部長が話した「理論あつての技術（実践）」という言葉です。技術は実社会に入れば本人次第でいくらでも磨かれます。理論はそれなりの環境の中、例えば学生にとってゆつたり流れる大学生活の時間の中でこそ蓄えられていくのではないのでしょうか。理論が少しずつ分かってくれば、今まで体験的に理解していたつもりにも新たな感動を覚える気がします。また明日から現場に復帰しますが、理論を大事にして、座学や実習の中で研修期間に学んだことを生徒と一緒に活かしていこうと思います。

最後に、このような機会を与えて下さった水産大学校と直接ご指導頂きました海洋機械工学科動力システム工学講座の森下先生、前田先生、津田先生と同研究室学生の樋川君、高田君に心からお礼申し上げます。お陰様で充実した研修生活を送ることができました。

新任紹介

漁民を師として

水産情報経営学科 助教

森 本 孝



二〇〇〇年の五月に水産情報経営学科に着任いたしました。後数ヶ月で一年

を迎えることになりました。まったくの民間人だった私もようやく本校での生活に少し慣れてきたかなと、思っています。私は大学卒業後の約二〇年間を民間の民俗学研究所で過ごしました。日本の農山漁村の歴史文化と生産技術や用具を、映像や文書で記録、収集し、博物館、資料館等に保存する仕事でした。私がこの間に集めた木造漁船や漁具八〇〇〇

点は、現在は大阪の国立民族学博物館や千葉県の国立歴史民俗学博物館に、漁村資料として保存されています。平成元年から本校に奉職するまでの十二年間は、放送大学の非常勤を経て、水産コンサルタントとして発展途上国の水産開発計画に従事してまいりました。途上国の漁民と膝を交えて話し合い、地域漁業の振興計画を策定することが、この間の仕事となりました。

振り返って見ますと、私の勉学のスタイルは一貫して現場を「歩き、見、聞く」ことでした。それは、農山漁村の人々を師として、その歴史文化を、直に学ぶことでした。優れた多くの教師に私は出あったと思っています。三陸ではスズキ釣りの道具を考案し、請われるまま各地に漁法を伝え歩いた老漁師に出会いました。小学校しか出ていないのに、岩手大学で講義をした経験もある方でした。丹後半島では村営の巻網船団を結成した老漁師に、五島列島ではタイの自動釣機を開発している漁師さん、下北半島では無人の砂浜に移り住み、漁村の基礎を築いた漁師さんに出会いました。実に多くの海に生きる方々から、私は漁業と海の知識を教わりました。その意味では私は漁師さんを師として、今日まで長

い学生生活を送ってきたと思っています。そして、今後は彼らに代わって私に、漁村の歴史・文化を、学生さんに伝える役割が回ってきたのだ、と思っっています。水産日本を築いてきた人々の優れた海や漁業の知識と技術を、精一杯、本校で語り伝えていきたいと考えています。皆様方のご理解とご協力を賜れますよう、切にお願ひ申し上げます。

母校の発展のために

海洋生産管理学科 助手

梶 川 和 武



東京水産大学での院生生活にピリオドを打ち、平成十二年四月に海洋生産管理

学科・生産システム学講座の助手に着任致しました。伝統ある母校の水産大学校に三年ぶりに戻ってきてから早九ヶ月が過ぎようとしています。着任以来今日まであつという間に過ぎた様に思われますが、夏の海技実習、秋の文化祭等のイベントを含め、教官として様々な経験を積むことが出来、とても新鮮で充実した日々を

過ごしてまいりました。しかし、今は目の前の仕事をこなすことで精一杯であり、試行錯誤の日々であったことも否めません。まだまだ知らないことや分からないことがたくさんあります。これからの様々な経験を通して学び、今後の研究や教育活動に生かしていきたいと思っております。

現在、私は漁具分野の研究室に所属しており、研究テーマは、漁業資源にやさしい漁具の開発です。私が研究に取り上げている漁具は吉見沖で操業している小型底曳網です。この漁具は小型エビ類が主要漁獲対象種であるために、小さな網目を使用する必要がある、したがって、市場価値のない小さい魚が多く混獲されてしまいます。そこで、この漁具に入網した小さい魚を生きたまま逃避させる機能を持たせることで、できるだけ無駄な漁獲を防ぐことを目指しています。今後はフィールドが近いという恵まれた環境を生かして、さらに多くの実験を実施し、より完成度が高い漁具を開発したいと考えています。また、この研究を通して、漁業者との対話を重ねることにより、漁業における様々な問題点を認識し、できるだけ彼らの要望に応えられる実践的な研究を行っていければと思っています。

平成十三年度からの独立行政法人化に伴い、教官としての成果が問われる時期に来ており、身の引き締まる思いです。このような大切な時期に母校の発展のために役に立てる様、微力ながら精一杯の努力をしていきたいと思っております。今後とも、ご指導、ご鞭撻よろしくお願い致します。

教官として再び母校へ

海洋生産管理学科 助手

中 村 武 史



私は水産大
学校・水産学
研究科を平成
十一年三月に
修了し、昨年
(平成十二年)

四月に海洋生産管理学科・生産システム学講座・漁業計測分野の助手として就任いたしました。早いものでここ吉見の地に再び舞い戻って以来早や一年が過ぎようとしています。就任当初は学生の頃に慣れ親しんだ環境下で仕事が出来ること、どこかホッとしながらも、学生から教官としての立場への変化に少々戸惑うこともありました。しかし、現在では諸先生方をはじめ多くの方々の暖かい励ましのお陰で気持ちのたじろぎ

も消え去り、恵まれた環境の中から様々なものを食欲に吸収し、熱意をもって本校での任務に全力で取り組んでおります。

一方、本校は来年度より行革という厳しい情勢の中で、独立行政法人化として新たなスタートを切ります。私はこの変革という大きなうねりにも十分に耐えることができるよう、何時でも本校に何が求められているのかを第一に考えながら研究及び教育の足腰をしっかりと鍛え、二十一世紀に向けて夢のある本校の発展に微力ながら寄与できればと考えています。まだまだ教官として一人前には程遠く、未熟さ故に失敗を繰り返すことも多々ありますが精一杯努力して参りますので、どうか叱咤激励して頂ければ幸いです。今後ともよろしくお願いいたします。

耕洋丸から来ました

海洋機械工学科 講師

津 田 稔



平成十二年
七月一日から、
海洋機械工学
科動力システ
ム工学講座に
着任しました。

よろしく願っています。

私は、平成六年に本校の専攻科船舶機関課程を修了し、耕洋丸に三等機関士、専任教官として六年間勤務しました。その間皆様には大変お世話になりました。乗船していたのは耕洋丸だけですが、様々な経験を積むことができました。機関士としての業務の中で印象に残っているのは、遠洋航海でオー克蘭ド入港後、主機関が始動空気系統のトラブルで正常に起動できなくなった事です。機関部一丸になって復旧に取り組み、始動弁、管制弁、塞止弁等の開放点検と一つずつ原因を解決していきました。その結果、管制弁手前にある減圧弁の作動不良と判明し、出港までに復旧することができました。この時、限られた時間で問題を解決するためには、状況を広い視野から見て的確な判断をする事が必要で、自分の技量をさらに磨かなければと思いました。また、初めての担当機器だった冷凍機の度重なるガス漏れにより、漁船が冷えなくなった事もあります。他にも色々ありました。海上においては全て自分達で不具合箇所を整備し、正常に作動させていく必要があります。今にして思えば、いい経験になりました。

練習船では船舶の運航の他に教

育・研究も行ってきました。当直機関士である私は、出港するとすぐに、二人の部員と各班に分かれた学生と共に、機器の監視、整備作業をしながら当直業務をしていました。当直中、作業前には機器の説明をしますが、学生に作業目的・点検内容を考えさせ、自分達で実践できるように指導してきました。また、機関室内が三十度を超える暑さの中での作業もあります。学生の安全を第一に実習を行いました。機関長、各機関士の指導、機関部員の方々の協力により、乗船実習の仕上げとなる専攻科の最後の航海では、学生達は、補助発電機関の開放、点検・計測、復旧、試運転ができるようになります。一年間の乗船実習での経験は、社会に出てからも必ず役立つと思います。

研究面では、海洋機械工学科の中岡先生のご指導のもと海水淡水化システムやプレート式熱交換器に関する研究に取り組んでいました。

海洋機械工学科に配置換になつてすぐに海技実習があり、その後卒業論文、特別研究指導のために耕洋丸に乗船しての実験と、毎日があつという間に過ぎ半年が経ちました。現在取り組んでいるのは、船用ディーゼル機関から排出される大気汚染物質低減に関する研究です。排ガスに

は生態系やヒトの健康へも影響を与えるところで、含まれている粒子状物質が含まれています。これは、自動車などではすでに規制の対象となつていますが、船舶ではまだ排出実態が明らかになりつつある段階です。また、機関の故障は、船舶の運航に重大な影響を及ぼすだけでなく海難に至る危険性があるため、今後は機関の信頼性・耐久性向上に関する研究にも取り組んでいきたいと考えております。

これからも水産界に貢献できる学生を育てることを目標に、教育・研究に頑張つていきます。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

就任挨拶

食品化学科 助手

古下 学



今年度四月より、食品化学科の助手として赴任いたしました。私は、水産大学の卒業生で、製造四七期になります。ですから、卒業してまだ三年ほどしかたつておりません。水産大学

校を卒業した後、三重大学大学院生物資源学研究科に進み博士前期過程を修了しました。その後、名古屋大学大学院医学研究科に進みましたが、途中で水産大学の助手の話が決まりましたので、こちらに着任することになりました。

専門は細菌学で、これまで海洋細菌や病原菌に関するテーマを研究してきました。特に、博士課程では、ここ数年世間を騒がしている大腸菌 O-157 や MRSA を始めとした病原細菌について研究していました。水産大学校では、海洋環境中の薬剤耐性菌について研究することになりました。薬剤耐性菌とは、抗生物質の効かない菌のことで、臨床現場でも養殖漁場でも非常に問題になっています。抗生物質が効かないと、細菌が引き起こす感染症の治療が非常に難しくなります。この薬剤耐性菌がどのように病気や環境に影響があるのか? どうやったら、薬剤耐性菌の影響を減らせるのか? このテーマで日々研究に取り組んでいます。

はやいもので、着任して一年がすぎようとしております。研究室にも慣れ、学生と時に厳しく、時に楽しく一緒に研究にはげんでいます。研究室の雰囲気も良く、朝から晩まで猛烈に実験をした後は、みんなで食

事に繰り出してあれこれ語り合う毎日です。彼等と実験や研究をしていると、本来教える立場なのではないかと、逆にいろいろ教えられることの多さを痛感します。これから卒論研究も佳境になります。このまま卒論をやりとげられたら、最高の思い出になるのではないかと思います。

水産大学校も、私が学生のとときにはなかつた新しい研究棟が建つなど、さらに充実しており、この恵まれた環境でスタッフの一人としてがんばっていききたいと思っております。どうぞよろしく願います。

着任挨拶

天鷹丸機関長

安成 幹 男



平成十年四月三日、昭和四六年以来二六年間の永きに渡った練習船勤務を辞して、北海道区水産研究所の調査船「北光丸」に乗船すべく、当時の九越フェリーの新鋭船「レインボーベル」に乗船し福岡港を後にしました。学齢期の子供や高齢の母親を残しての旅立ち、さすがに後ろ髪をひかれる

思いでしたが、生来の楽天的性格ゆえに、出港合図を聞くとともに心は早くも北の大地に飛んでいました。翌日深夜、新潟県の直江津港にて東日本フェリーに乗り継いで翌々日の夕刻室蘭に入港し、室蘭からさらに走行距離十三万キロ越の「京車」を駆って約五〇〇キロを走破して、四月六日払暁、無事釧路に到着しました。

水産研究所の調査船の実態は練習船とは大いに異なり、氷点下を割り込む酷寒での十mを越える強風と四〜五mの波高の中での昼夜にわたる連日の観測活動は今まで経験したことのないものでした。自分は職務の性格上あまり甲板上で動き回る必要はありませんでしたが、このような極限状態とも云える過酷な環境で、実際に観測に携わる乗組員にはほとほと頭が下がる思いでした。

平成十二年四月、天鷹丸への転船辞令を拝受し二年ぶりに本船に乗船しました。調査船に比べますと練習船は多少堅苦しく、何かと多忙ではありますが、実習生の若々しい声を聞きますと自分も若返ったような気分になり、一人、悦に入っております。

平成十三年度以降は本校も独立行政法人となりますので、学内・練習

船ともに厳しく困難な状況が予想されます。我々、練習船をあずかる者として、幾多の先輩諸氏が営々と築いてこられた「練習船の伝統」を絶やすことなく、益々発展させることを使命と思っております。はなはだ微力ではございますが鋭意努力を惜しまぬつもりですので、よろしくお願いいたします。

大 学 祭

00. 海燕祭を振り返って

00. 大学祭実行委員長

末 武 孝 朗

(海洋機械工学科三年)

大学祭実行委員としては三年目、実行委員長として望んだ今年度の海燕祭もあつという間に終わってしまいました。活動を始めてから当日までを振り返っても本当に早かったと思います。

今年も吉見区域を始めとする地域との関連を第一に考え、更に自分達の独自性をくり込んだ海燕祭でした。昨年の先輩方が以前よりも我が水産大学校と吉見地域との距離をより身近なものにして頂いた甲斐もあり、地域の皆様の理解や信頼も厚く大きな協力を得ることができ、より大き

な海燕祭にできたと思っています。また、下関市というつながりの中では五月の海峡まつり、八月の馬関祭を通じて青年会議所の皆様を始めとする多くの方々から、大学祭のPRから物品提供に至るまで様々なご支援を頂くことができ、大学祭をより大きく、より活気のあるものにする為には、人と人とのつながり、交流がいかにか大切かという事を身をもって学びました。そして、こういった人と人とのつながりを通じて自身も成長することができ将来を生きていくのに大きな一歩を踏み出すことができたと思います。

こういった地域の人とのつながりによって海燕祭を成功させることができたのですが、今年も運営する役員どおしのつながりが一番大きかったのではないかと思います。中心となる三年生が少なく役員のほとんどは一、二年でしたが、口にした事は必ず実現させてくれた。そんな人達に恵まれたからこそ海燕祭を無事終えることができたと思っています。大学祭実行委員としての三年間の活動は本当にあつという間でしたが、とても多くのものを得ることができました。二〇〇一年の海燕祭が昨年を遥かに凌ぐくらい大きくなることを、そして二十一世紀の最初を飾る

ク ラ ブ 紹 介

ボクシング部

渡 辺 文 行

(海洋生産管理学科一年)

ボクシング部に入ってから一年もたっていないが、ボクシングの事が少しずつわかってきたせいかな、最近特に部活の時間が楽しいものになってきた。

僕らは詳しい事はよくわからないが、連盟に所属していないため、公式試合には出れない事になっている。そのせいか、練習は一人ずつ部活に出たいときに自分で考えたランニングや縄とび、シャドー、パンチポール、サンドバックなどのメニューをこなし、定期活動日の月、水、金にミットやスパイクなどをしてる。個人個人で自由にやっている事もあり、部員は他の部活やバイトで忙しい人々が多く、これだけ部活に出ているはまだ部員数がよくわからない。しかし、個人個人でやっているから教えてもらう事も多いので、仲も良く、僕はこの部活に入っ

にふさわしい海燕祭となることを願っています。

学生部だより

平成十三年度の就職対策と

現状について

かつたらかなり恐ろしく寂しい大学生活を送っていたような気がする。とにかく、入部当初は室内でのスポーツにかなり偏見を持っていた僕にとつては抵抗のあるスポーツであったが今となつては、海を見ながらのランニングや、敵が出てきそうな夜の一人でいる部室、好きな曲を聞けるCDプレーヤー、気ごころの知れた部員達に囲まれた練習が自分にとつてかけがえのないものである。

日本経済が崩壊して十一年、企業は景気低迷の長引くなかで業績の悪化による過剰雇用のリストラも一巡し、平成十二年度は大学卒の新採用は増加に転じたといわれているが、採用のスタンスは依然として「厳選採用」を堅持する企業が圧倒的であり「採用定数の確保」よりも学生の質を優先する傾向にある。

企業が学生に求める能力及び資質は、それぞれに企業によって異なるが一般的に「コミュニケーション能力」・「自己表現能力」等に優れた学生を重視する傾向にある。

企業の求人活動は年々早期化し、本校においても既に平成十三年度卒業予定者を対象とする企業からの求人が昨年末から来ている。

平成十二年度の会社説明会は、二月下旬から三月中旬までがピークとなつていますが、面接および試験の開始時期は説明会の開始時期に比べると分散化しているもの、おむね四月中旬から五月中旬の一ヶ月がピークであり、七月の夏期休業日前には就職戦線も一段落している。

これらの状況を踏まえ就職活動は、早期に積極的に企業等からの情報を得ると共に、各学科就職指導担当教

官から個別に緊密な指導を受ける等の対策が要求される。
 なお、平成十二年度卒業予定者の就職内定状況は、別表のとおりである。

(分類内訳)

各種団体＝水産関係各種団体
 水産＝水産関係・関連企業
 船舶＝船舶・海事関連企業
 造船・造船＝造船・造船関連企業
 食品＝食品・関連企業
 その他の企業＝その他の企業・
 自営業

※その他＝国家・地方公務員、
 海技試験受験等の準備

平成12年度卒業生進路状況(平成13年2月1日現在)

区 分	学 科	専 攻 科		海 洋 機 械 工 学 科	海 洋 生 産 学 科	食 品 化 学 科	生 物 生 産 学 科	研 究 科	計
		航 空 航 空 運 送 科	関 連 機 械 科						
卒 業 者 数		13	18	50	43	41	32	12	209
進 学 関 係	大 学 院			2	3	2	2		9
	研 究 科				1	2	1		4
	専 攻 科			14	16				30
	研 究 生			2			2		4
	そ の 他 進 学						1		1
計				18	20	4	6		48
就 職 関 係	国 家 公 務 員	1	2		1				4
	地 方 公 務 員	3		2	3		2	1	11
	各 種 団 体				1		3	1	5
	水 産			13	5	15	15		48
	船 舶	7	12	1					20
	造 機 ・ 造 船		3		3		1	1	8
	食 品			2	1	16		1	20
そ の 他 の 企 業			7	7	4	4		22	
※ そ の 他	2	1	7	2	2	1	8	23	
計		13	18	32	23	37	26	12	161
合 計		13	18	50	43	41	32	12	209

水大歳時記

春
 くらびるがうるおいだした この春に
 立春
 春とつらい気分が沈むテスト前
 初春(しよしゆん)
 初春かなまぶたが常におちてくる
 仲春
 真つ「春間」新天地にて大忙し
 仲春の風かけぬける講義室
 麗か
 春うらら男二人で動物園
 夏近し
 竜王の山よりみおろす雲の影
 はや五月の色
 春光
 春色の声があふれるキャンパスで
 春光につつまれながら筆をふる
 春風
 走れ風そして地球を回ってこい
 春の海
 春の海その青さにさそわれて
 春の波
 春の陽に輝き舞いし波しぶき
 青空に舞い散る桜春の波
 夏蜜柑
 夏みかん すっぱいんだなこれがまた

連路が決まった友におくるシリーズ
 新たなる一歩を踏み出す二十三歳
 よかったね私も一度見てみたい
 ピンク色したあななのナース服
 泣き笑いあった青春今は過去
 日頃から勉強しよければよかったね
 おめでとぅ よくよく君も大学生
 以上水産大学校二年生

平成12年度卒業予定者進学・就職内定状況一覧表

平成13年2月1日現在

Table with 4 columns listing graduates and their destinations. Column 1: Graduates (e.g., 北陸大学先端科学技術大学院). Column 2: Graduates (e.g., 東京商船大学). Column 3: Graduates (e.g., 京都大学). Column 4: Graduates (e.g., 名古屋大学). Each entry includes the institution name and the specific department or field.

平成十三年度入試概況

本校の平成十三年度入試は、本校の独立行政法人への移行と十八歳人口の減少という向かい風を受けながらの募集からスタートした。

結果は、一般入試が志願者総数で前年並みの七八八人で、推薦入試を含めると前年を上回る結果となった。

一般入試の学科別の応募状況は、水産情報経営学科四十七名(募集人員十四名)に対する倍率三・四倍、

海洋生産管理学科一四五名(募集人員三十名)に対する倍率四・八倍、

海洋機械工学科八十二名(同一・七倍)、食品化学科一七四名(募集人員三十二名)に対する倍率五・四倍、

生物生産学科三四〇名(募集人員二十一)に対する倍率十六・二倍)で、生物生産学科が前年の志願者を下回ったものの、他の四学科は総て前年を上回った。

また、先に行われた推薦入試には、過去最高の一二五名が応募し、五十五名が合格している。

一般入試は、平成十三年二月十一日に下関・東京・大阪の各試験場で実施され、二月二十三日に独立行政法人としての一期生の合格者を発表したところである。

次年度以降の学生募集に関しては、十八歳人口がまだまだ右下がりであることを、厳しい状況が続くと考えられるが、公開講座、オープンキャンパス等の広報活動の充実に加え、本校の特色と個性豊かな教育方針を前面に出し、受験生に魅力ある大学となるよう一層の努力をして参る所存であります。

人物往来

〔平成十二年度〕
〔水産特論講師〕
七月十四日
水産庁漁政部国際課海外漁業協力室室長
山下 潤

十月十九日
水産庁資源管理部沿岸沖合課 課長
大石 修宗

十月二十七日
水産庁漁政部 水産流通課 課長
佐藤 和彦

十一月二十日
水産庁資源生産推進部研究指導課 課長
中前 明

十二月一日
水産庁漁政部企画課 課長
今井 敏

〔叙位・叙勲〕
四月二十九日 勲三等瑞宝章
小林 博

十一月三日 勲三等旭日中綬章
網尾 勝

(元水産大学校長・名誉教授)
八月四日 藤石 昭生

〔名誉教授〕
八月四日 (前海洋生産管理学科長)